

# nijiVOICE2024 報告書



---

Dec 21 2024

| 認定NPO法人虹色ダイバーシティ

---

<https://nijibridge.jp/report/>



- ✓ トイレは、自分の使いやすいところを、ご自由にお使いください。発表時間中でも大丈夫です。
- ✓ 発表の中にハラスメントや差別に関する言及があります。しんどく感じたら、無理をせずに、少し席を外す、身体を動かす等して、調整してください。
- ✓ 発表部分は後日YouTubeで配信を行います。また、スタッフが記録撮影をします。参加者の顔は映さないように注意しますが、後ろ姿でも差し支えのある方は、撮影しているスタッフにお申し出ください。

# 目次

---

- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 添付資料

- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 添付資料

## ご挨拶

---

LGBTQの仕事と暮らしに関するアンケート調査「nijiVOICE2024」の報告書を作成いたしました。回答いただいた皆さま、分析、広報等にご協力いただいた皆さまに心より感謝いたします。

LGBTQの権利獲得に関して、2024年も前進がありました。地方自治体のパートナーシップ登録制度の人口カバー率は85%以上となり、婚姻平等を求める「結婚の自由をすべての人に」裁判においては、札幌高裁、東京高裁、福岡高裁で違憲判決が出ました。婚姻平等に賛同する企業を集めるBusiness for Marriage Equalityでは、580社以上が賛同の声を上げています。

しかし、こうした社会の変化が、一人ひとりのLGBTQの置かれた状況の改善には必ずしも繋がっていません。LGBTQの孤立、孤独、心身の健康における格差、経済的格差といった問題は、依然として解決されておらず、COVID-19のパンデミックからの回復も道半ばの中、世界の紛争とそれに伴う資源高騰、気候変動や自然災害などによる危機は、社会的マイノリティであるLGBTQにより大きな負の影響を与えていると思われま

今回の「nijiVOICE2024」では、昨年に引き続き、どうしたらLGBTQの心身の健康、社会的健康を回復できるのか、に焦点をおいて分析を行いました。私たちは、このデータを、日本社会においてLGBTQに関する施策をより一層推進する材料にして頂きたいと思

なお、本調査は認定NPO法人虹色ダイバーシティが自費で行っています。LGBTQに関するデータは、まだまだ不足しており、当事者たちのリアルな声を集めたこの調査が、国や学術研究グループのさらなる調査の呼び水になれば、とも思っております。私たちの活動に、是非ご支援をお願いいたします。

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 理事長 村木 真紀

## Key Findings

---

- ✓ 2023年に「LGBT理解増進法」ができたが、いまだに職場での施策は少なく、ハラスメントは多く、LGBTQのメンタルヘルスは悪い、という状況が続いている。
- ✓ 近年激化しているインターネット上のトランス嫌悪言説も、LGBTQのメンタルヘルスに悪影響を及ぼしていると考えられる。
- ✓ 孤独・孤立に関する問題は、LGBTQでより深刻である。学校、就職活動、職場での排除が、収入だけでなく、それぞれのコミュニティにおける人間関係の形成・維持に悪影響を及ぼしていると思われる。
- ✓ 職場への定着や生産性の指標とされる「従業員エンゲージメント」は、現状、LGBTQの方が低いが、LGBTQ施策の推進やアライの活動の見える化により改善される可能性がある。
- ✓ 婚姻平等（同性婚）が法制化されれば、LGBTQの生活や社会全体にポジティブな影響があると考える人が多かった。住宅購入や結婚式、子育てなどを検討する人も多く、LGBTQの人生設計に大きな影響がある。早期の法制化を期待したい。
- ✓ LGBTQに関する法整備、LGBTQセンターや学校・職場、スポーツの場などでの実践が、LGBTQの孤独・孤立の解消につながる可能性がある。さらなる取り組みの推進と効果検証を期待したい。

**調査責任者：**

村木 真紀 認定NPO法人虹色ダイバーシティ 理事長

**協力研究者：**

平森 大規 法政大学 グローバル教養学部 助教

三上 純 大阪大学大学院 人間科学研究科 助教

山脇 佳 中京大学大学院 社会学研究科 博士後期課程

**報告書作成補助：**

児玉 粹 立命館大学 総合心理学部

**参考：**

一般社団法人 社会調査支援機構チキラボ

**広報協力：**

LGBTQとアライのコミュニティの皆さま

クライアント企業の皆さま



- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 添付資料

## 調査の目的

---

### 【背景】

・日本では、職場や社会でカミングアウトするLGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア or クエスチョニングの頭文字）等の性的マイノリティ当事者（以下、LGBTQと表記）がまだ少ないため、どのような困難があり、どんなニーズを持っているのか、把握が難しい。国による調査も非常に少ない。

### 【このアンケートの目的】

・ダイバーシティ施策全体も視野に入れつつ、性的マイノリティも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりを推進するための日本のデータを積み上げる。

・近年進んでいる企業や行政のLGBTQ施策の効果を確認する。

・報告会実施後に、個人情報削除したデータを公開することで、学術目的の二次分析を可能にする（回答者が類似した調査を何度も受けることによる負担を軽減するとともに、この調査の成果を広く社会に還元する）。

## 調査の概要

---

正式名称： niji VOICE 2024 ～ LGBTQの仕事と暮らしに関するアンケート調査 ～

認定NPO法人虹色ダイバーシティが研究者と協力して実施  
ウェブ上のアンケートフォームを利用 (SurveyMonkey 有料版)

回収期間：2024/5/21-6/19 (30日間)  
参加者：2,375人 (有効回答数：2,298人)

過去のアンケートの回答者数

2014	2015	2016	2018	2019	2020	2022	2023	2024	累計 (人)
1,815	2,154	2,298	2,348	2,587	2,231	2,296	2,242	2,298	20,269

全52問 (すべて任意回答のため、設問によって回答数が異なる)

虹色ダイバーシティのウェブサイト、X (旧Twitter)、Facebook、Instagram、LinkedIn、講演会、プライドセンター大阪でのポスター掲示、虹色ダイバーシティのクライアントや支援者へのメールマガジン等で周知

法政大学グローバル教養学部のEthics Advisory Committeeにおいて、研究倫理上、問題がないことの承認を受けた上で実施 (承認番号：202401)

## 調査票での但し書き

---

このアンケートは、性的マイノリティの仕事や暮らしの状況を明らかにするための調査です。心身の健康や周囲の人との関係についての質問もあります。学生（満18歳以上）や現在働いていない方、性的マイノリティの当事者以外の方も回答することができます。正解、不正解はありませんので、思ったままをお答えください。お答えいただいた内容は個人が特定されない形で集計結果として取りまとめられ、ホームページなどで公開予定です。

### 【事前に必ずお読みください】

- ・アンケートの対象者は、日本で暮らした経験のある満18歳以上の方です。
- ・この調査への回答は任意です。本ページ下部にあるボタンへのクリックをもって、このアンケートへの協力を同意したものとさせていただきます。
- ・アンケートの途中でも、いつでも中止していただくことができます。アンケートに回答しなかったり途中で回答を中止したりすることがあっても、不利益を受けることはありません。
- ・回答項目は最大で52問あり、標準的な回答時間は10分～25分です。
  
- ・パソコン端末、スマートフォン、タブレット端末から回答可能です。
- ・前の設問に戻りたいときは「前へ」ボタンを押してください。ブラウザの「戻る」ボタンは使わないようご注意ください。
- ・一つの端末からは一度しか回答できません。
  
- ・現在働いていない方は、直前の職場についてお答えください。
- ・複数の職場を持っている方は、主な職場についてお答えください。
- ・現在の職場が海外の方は、直前の日本での職場についてお答えください。
- ・過去の職場、副業的な職場に関するエピソードや調査に対する意見を記載したい場合は、最後の自由記載欄に記載してください。
  
- ・あなたの名前や学校名、会社名などを記入する箇所はありません。
- ・どうしても答えたくない質問がありましたら、飛ばして次に進んでいただいても構いません。
- ・人権を著しく傷付ける目的だと思われる記載があった場合は、分析対象から外すことがあります。
  
- ・本アンケートの最終ページで、LGBTQに関する相談窓口をご紹介します。個別の労働相談、生活相談などはそちらをご利用ください。

## 設問(52問)

属性	職場環境	心身の健康	その他
年齢	職場従業員数	メンタルヘルス (K6)	カミングアウト範囲
出生時の性別	職業	孤独度1	トランス嫌悪に触れた経験
性自認	職種	孤独度2	貧困に関する経験
学校・職場での性別	カミングアウト範囲 (職場)	主観的健康度	投資への意識
性的指向アイデンティティ	従業員エンゲージメント	運動習慣	LGBTQに関する教育の経験
決めたくない・決めていない	アライの有無	運動への障壁	パートナーシップ登録の有無
性的指向 (性的惹かれ)	労働時間	運動とマイノリティ	パートナーシップ制度の活用
恋愛的指向 (恋愛感情)	心理的安全性	健康上の問題	同性婚の個人への影響
都道府県	現状のLGBT施策	健診受診	同性婚できたら何をするか?
国籍	希望のLGBT施策	コミュニティ活動への参加	同性婚の社会への影響
ルーツ	学校・職場のハラスメント経験	居場所の有無	同居人
就業状況	差別的言動 (頻度)	居場所	感想
就業形態			メールアドレス
本人収入			
学歴			

設問によって分岐もあり

## SOGI分類の手法

出生時の性	性自認	性的指向(アイデンティティ)	12分類	2分類	3分類
女性	女性	同性愛者	シスL	LGBT等	シスLGB他
		異性愛者	シス異性愛女性	シス異性愛者	シス異性愛者
		両性愛者・全性愛者	シスB女性	LGBT等	シスLGB他
		その他	シスその他女性	LGBT等	シスLGB他
	男性	全部	トランス男性	LGBT等	トランスジェンダー
	その他	全部	生まれ女性X	LGBT等	トランスジェンダー
男性	女性	全部	トランス女性	LGBT等	トランスジェンダー
	男性	異性愛者	シス異性愛男性	シス異性愛者	シス異性愛者
		同性愛者	シスG	LGBT等	シスLGB他
		両性愛者・全性愛者	シスB男性	LGBT等	シスLGB他
		その他	シスその他男性	LGBT等	シスLGB他
	その他	全部	生まれ男性X	LGBT等	トランスジェンダー

※トランスジェンダーにはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルなど様々な性的指向を含んでいます。

※今回は主に仕事や暮らしについての調査であり、現状の社会においては、性的指向よりも出生時の性別が収入等に大きく影響するのではないかという想定で、分析に当たっての分類を行いました。

- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 添付資料

## 性的マイノリティをテーマとする量的調査の様々な手法

---

- **全国無作為抽出調査**（例：家族と性と多様性にかんする全国アンケート）
  - 確率標本：日本在住すべての個人が等確率で選ばれる仕組み
  - 日本在住の人々の実態の正確な縮図になるような調査設計
  - マイノリティの詳細な実態については分かりにくい
- **オープン型ウェブ調査**（例：niji VOICE 2024、Aro/Ace調査2024）
  - 非確率標本：調査実施者が広報を行い、協力者を集める
  - 集まった回答は社会全体の正確な縮図にはならない
  - 調査テーマに強い関心を持つ層が自発的に回答するため、無作為抽出では把握困難な人口層の実態を捉えることができる
- **クローズド型ウェブ調査**（例：電通ダイバーシティ・ラボによる「LGBTQ+調査2023」）
  - 非確率標本：ウェブ調査会社が自社に「モニタ」として登録している人が調査対象になる
  - 調査会社モニタの人口学的特徴は日本社会全体の正確な縮図になっているとは言えない
  - 大規模調査の場合はマイノリティにもリーチ可能、謝礼が付与されるため無関心層や非マイノリティも回答

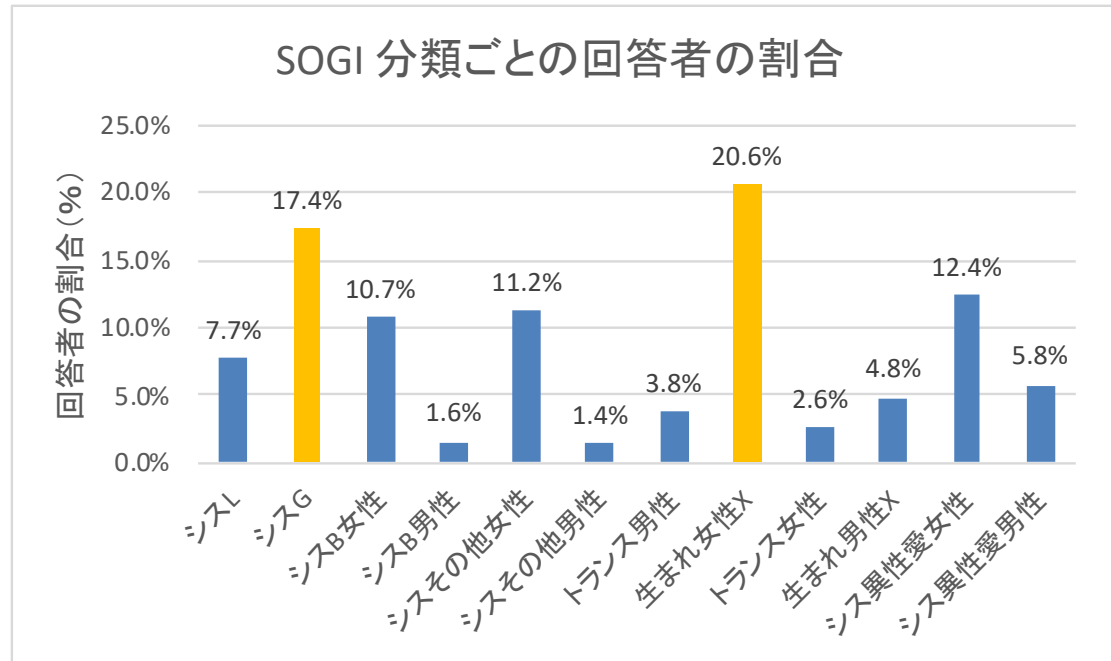
→どの調査手法を使うと何を言えるのか？——それぞれの長所・短所を踏まえ、研究課題/調査目的に応じた手法を採用すべき

※出典：村木真紀・平森大規・三上純・山脇佳，2021，『職場のLGBT白書——「やるべき事は、まだまだある～深刻なハラスメントと変化の兆し～」アンケート調査 niji VOICE 2018, 2019, 2020に寄せられた7,162名の声から』認定NPO法人虹色ダイバーシティ編（P. 15-16）。



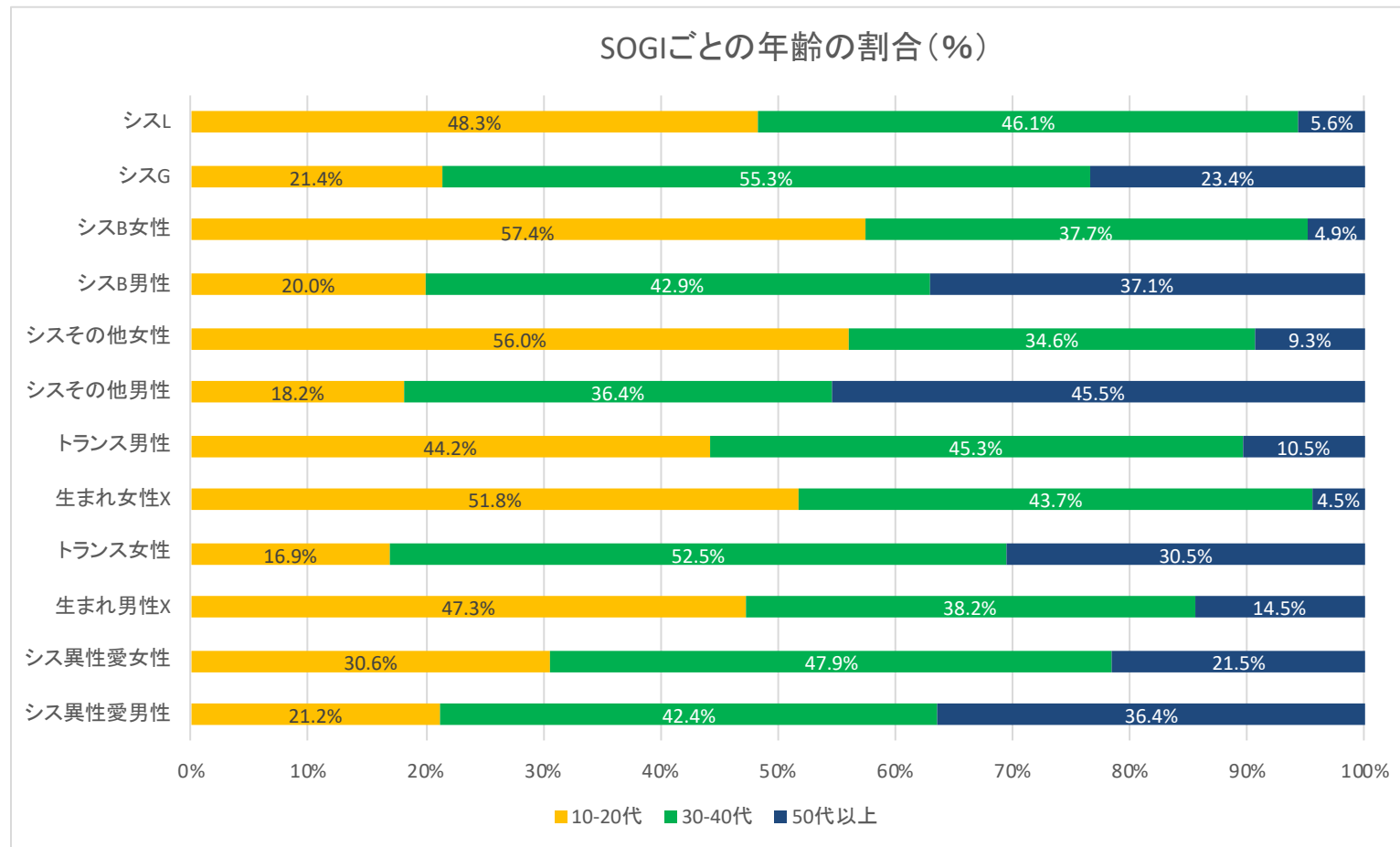
## 回答者の内訳

シスL	178
シスG	399
シスB女性	247
シスB男性	36
シスその他女性	257
シスその他男性	33
トランス男性	87
生まれ女性X	473
トランス女性	60
生まれ男性X	111
シス異性愛女性	284
シス異性愛男性	133
合計	2,298



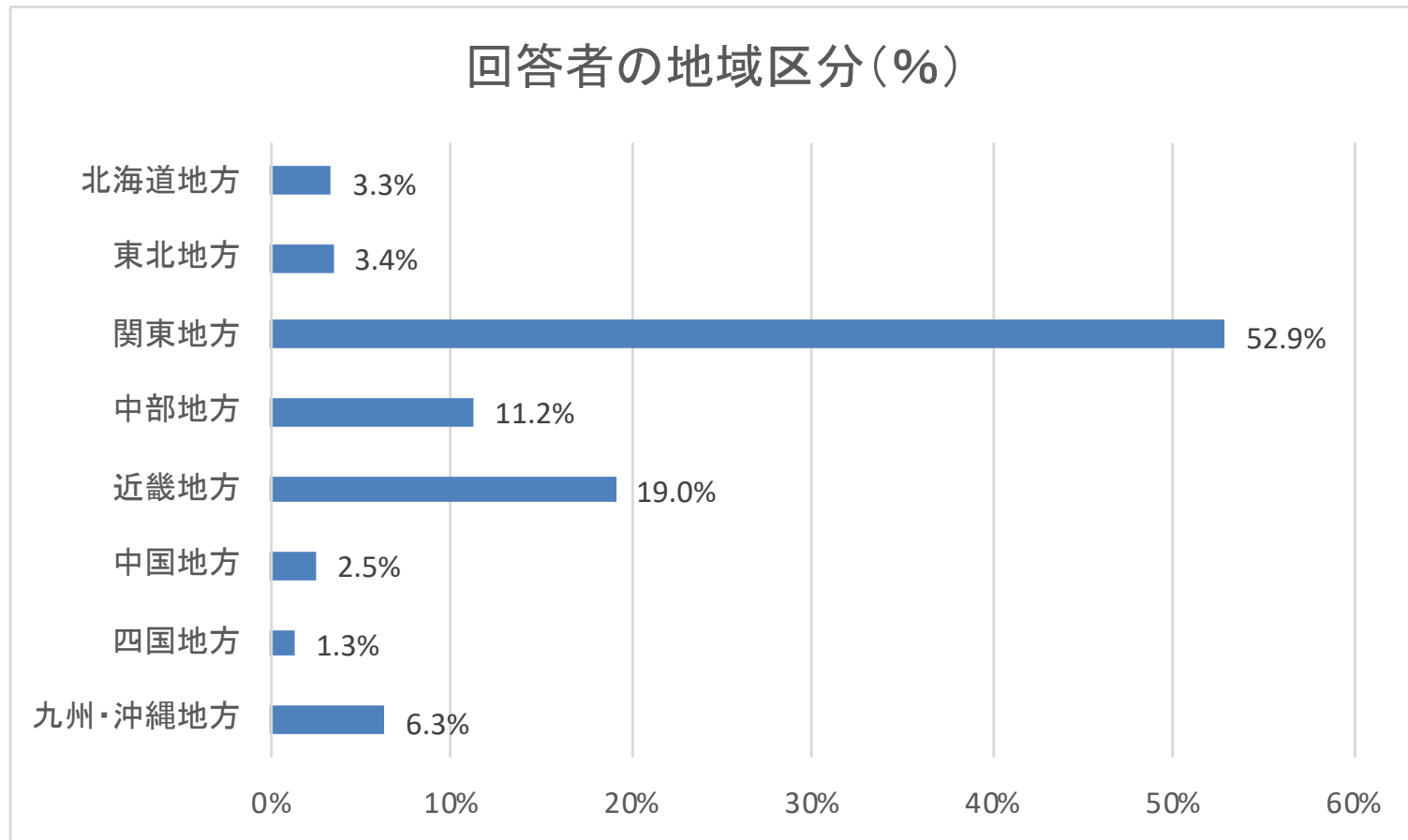
- ✓ 本年の調査では、生まれ女性X、シスGの回答者の割合が高かった。
- ✓ 3分類では、シスLGB等 50.0%、トランスジェンダー 31.8%、シス異性愛者 18.1% であった。
- ✓ 必須回答の設問はないため、設問によって回答数にばらつきがある。

## 回答者の年齢



- ✓ SOGI分類ごとに回答者の年代に違いがある。トランスジェンダーで若い世代が多く、シス異性愛者は年代が高い傾向にある（企業人事担当者に協力依頼しているためと思われる）。

## 回答者の居住地域



- ✓ 東京を含む関東地方の回答者が最多、次に近畿地方の回答者が多い。元々の人口割合とともに、虹色ダイバーシティのクライアントが東京が多く、また、大阪の団体であるためと思われる。

## 代表性の検討まとめ

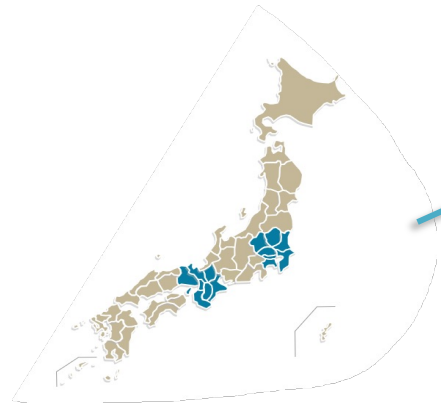
---



出生時性別が女性のXジェンダー、シスジェンダー・ゲイ男性の回答が多い

10代-30代

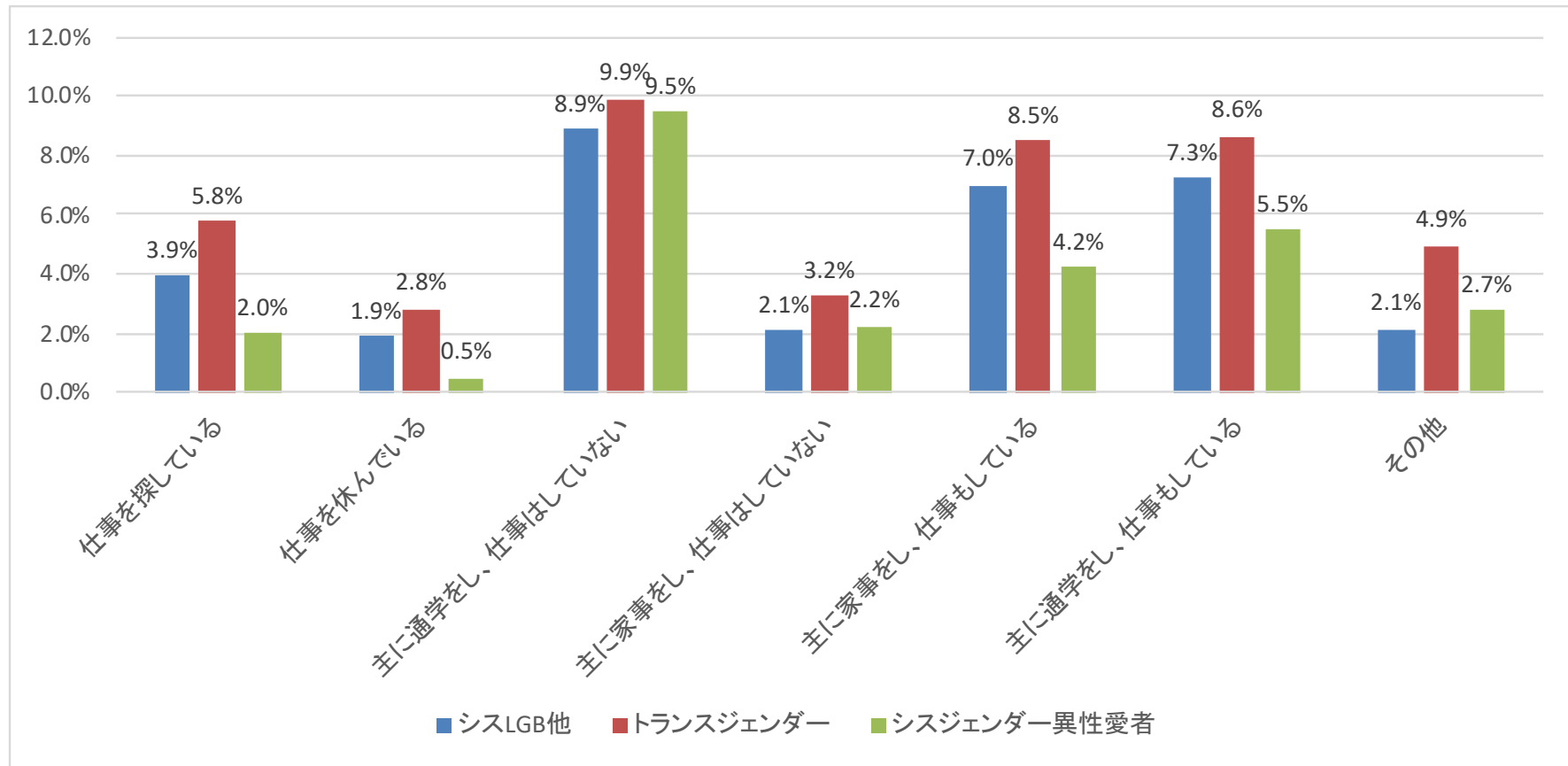
若年層による回答が多い



関東地方、近畿地方  
在住者からの回答が多い

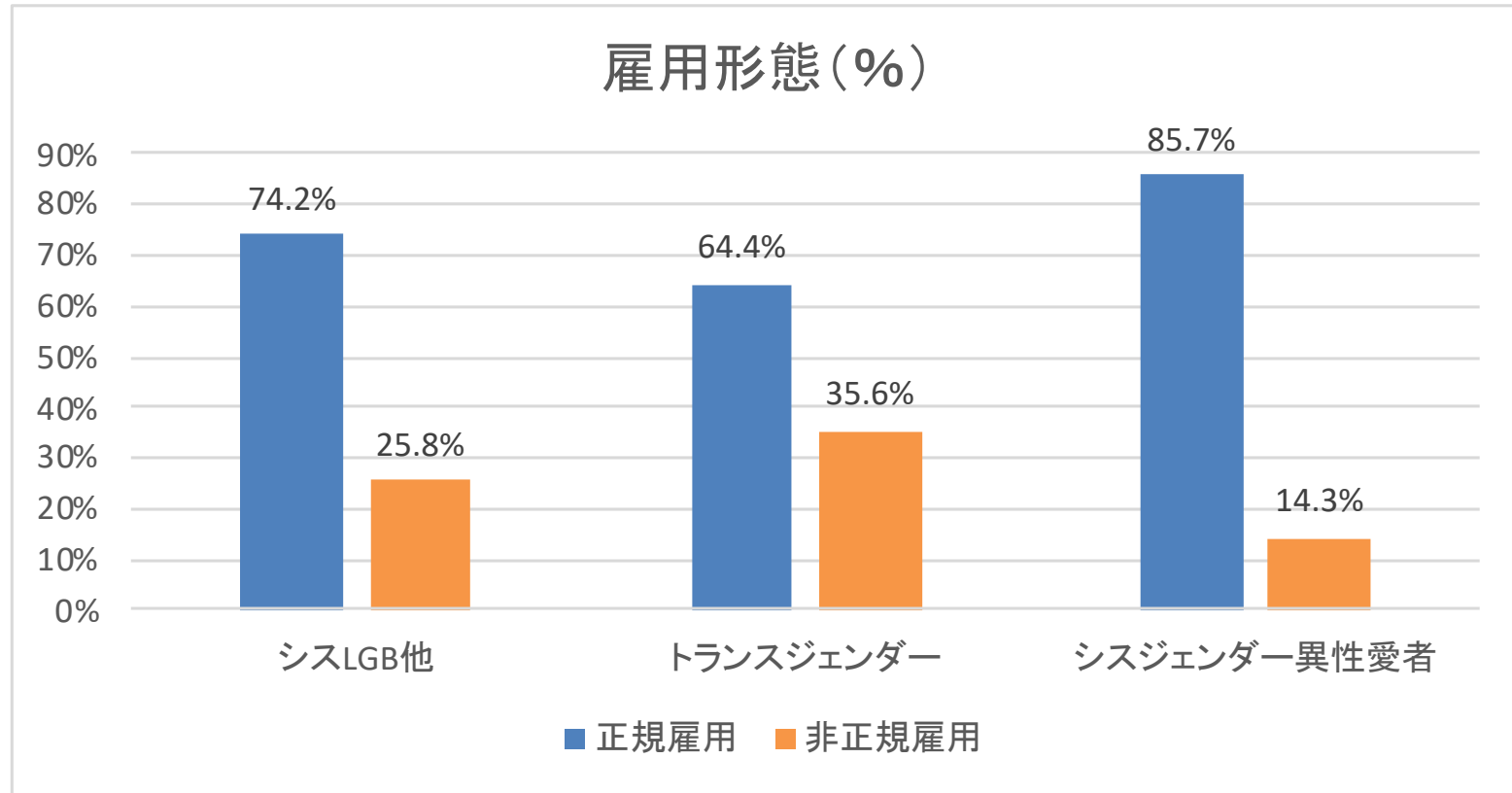
→ 「niji VOICE 2024」はLGBTQの仕事と暮らしに関する貴重な調査データであるが、調査の回答傾向を過剰に一般化することはできない点に留意する必要がある

## 就業状況（主に仕事をしている 以外）



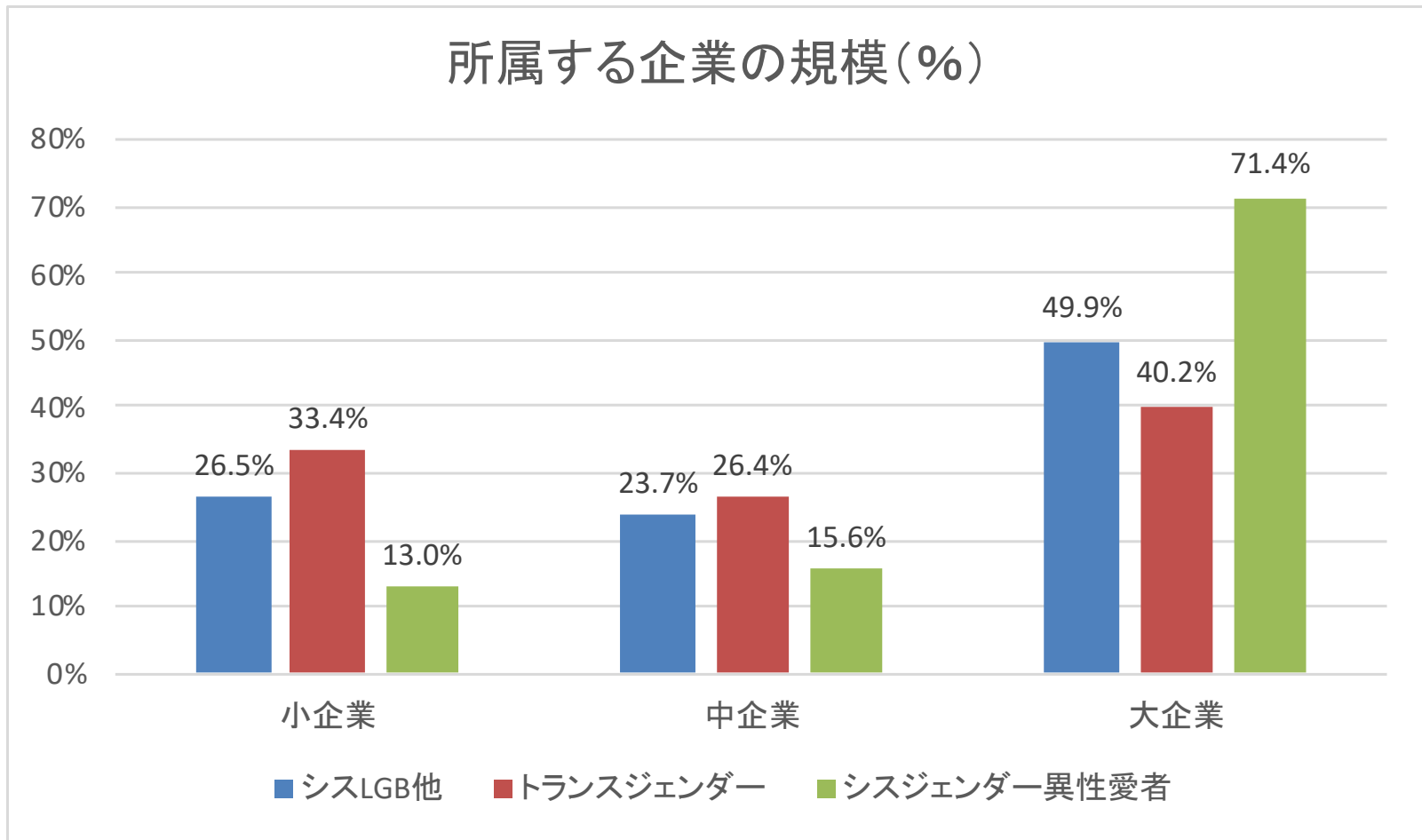
- ✓ 「主に仕事をしている」という回答は、シスLGB他 66.9%、トランスジェンダー 56.2%、シス異性愛者73.3%。
- ✓ それ以外の回答をグラフにすると、求職者、休職者の割合がトランスジェンダーで高くなっている。

## 雇用形態



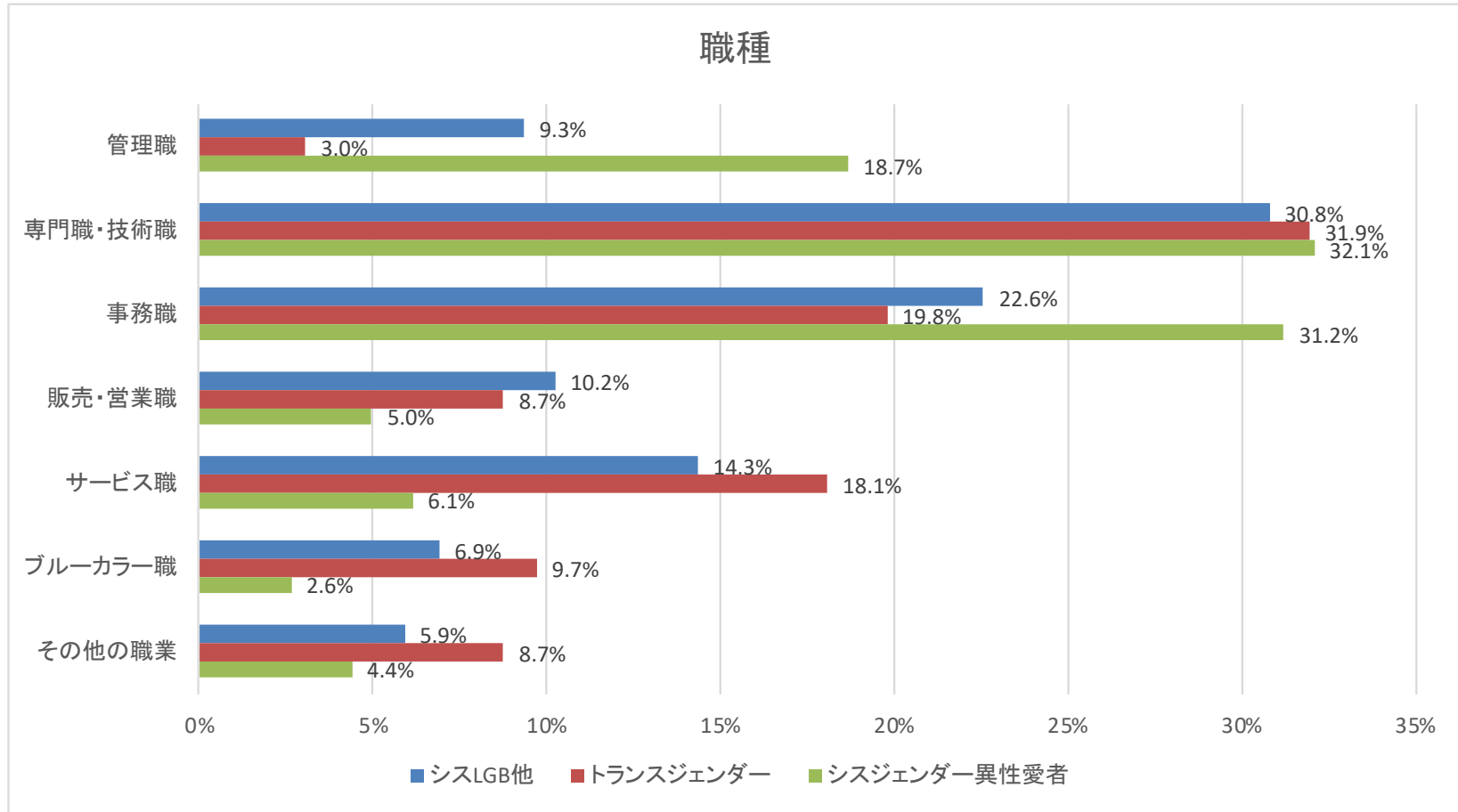
✓ トランスジェンダーで非正規雇用の割合が高い。(例年と同じ傾向)

## 企業規模



- ✓ トランスジェンダーで中小規模の企業に勤めている割合が高い。いわゆる就職活動からの排除の影響がある可能性がある。

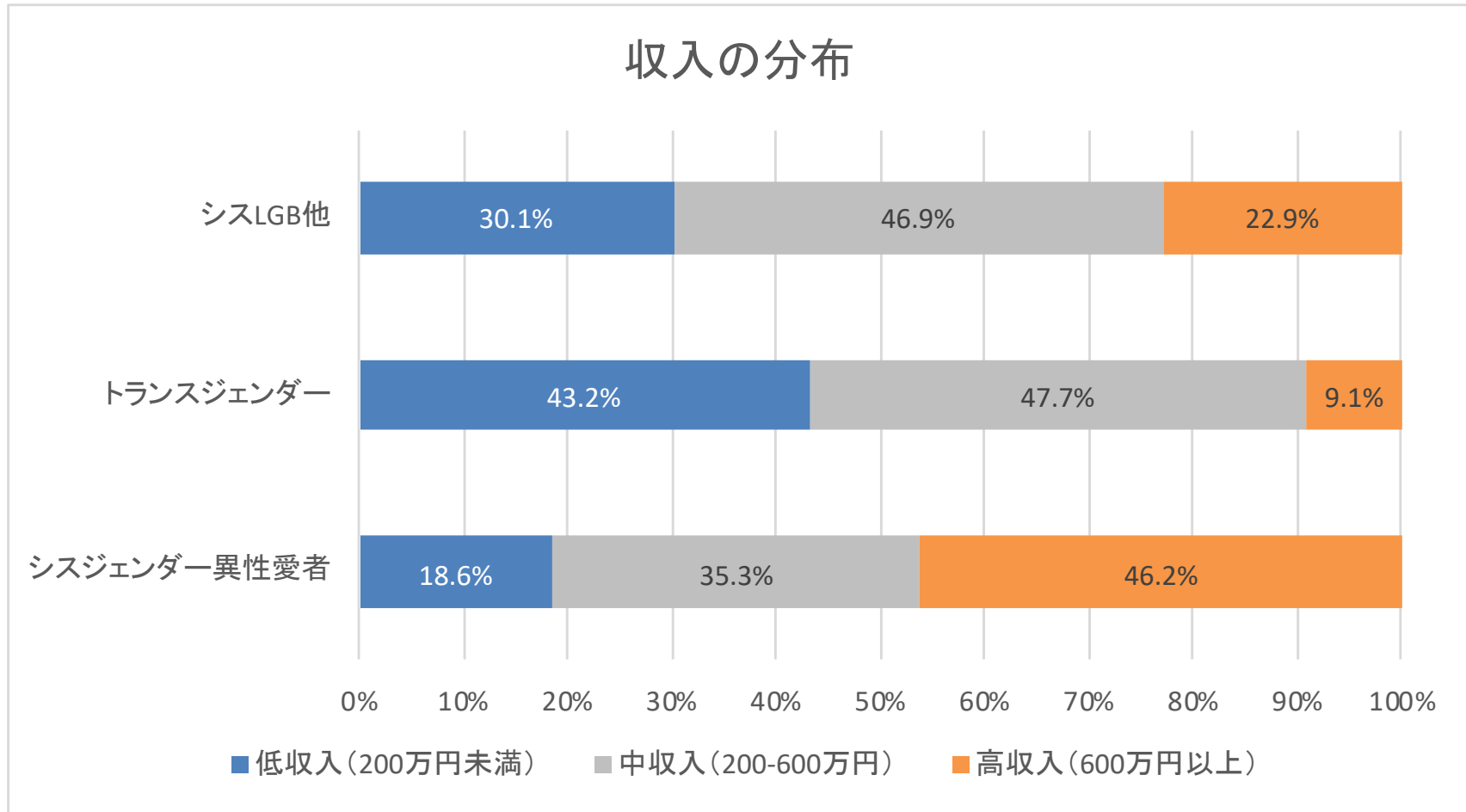
# 職種



✓ ブルーカラー系の職種でトランスジェンダーの割合が高い。年代の影響もあるかもしれないが、LGBT等で管理職が少ない。

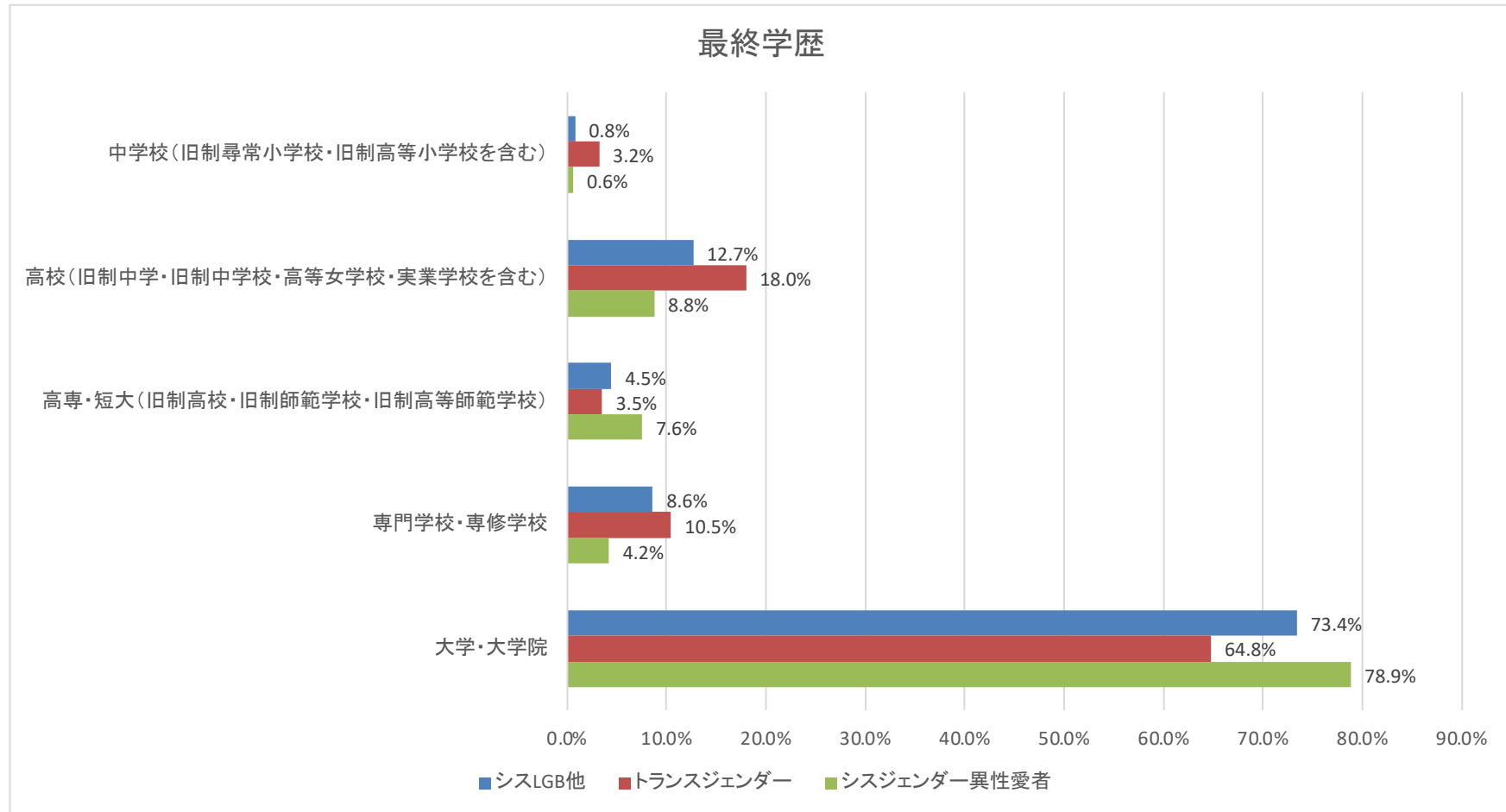


# 収入



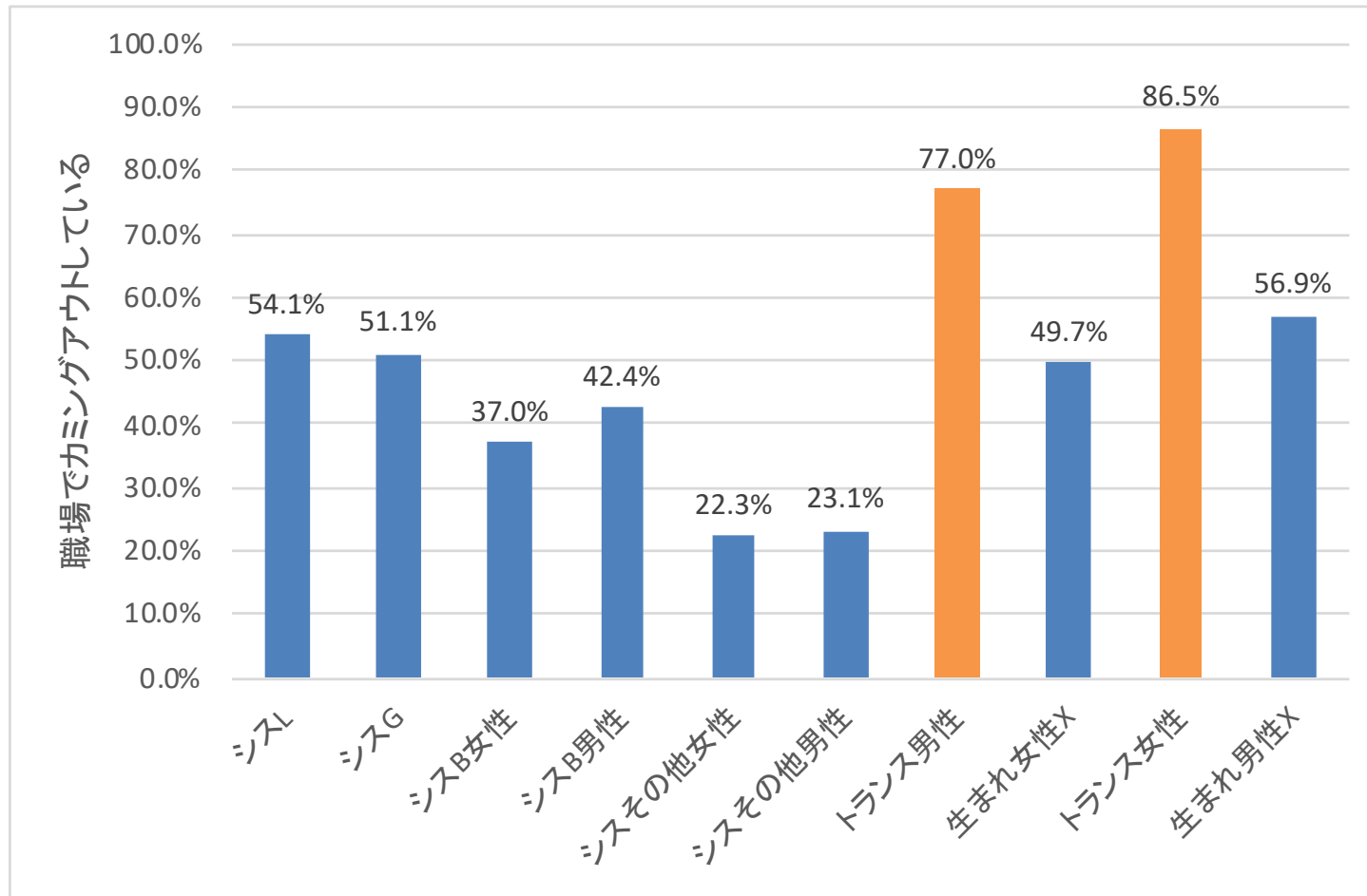
- ✓ トランスジェンダーで200万円未満の割合が高い。年代の若さや非正規雇用が影響していると考えられる。

# 最終学歴



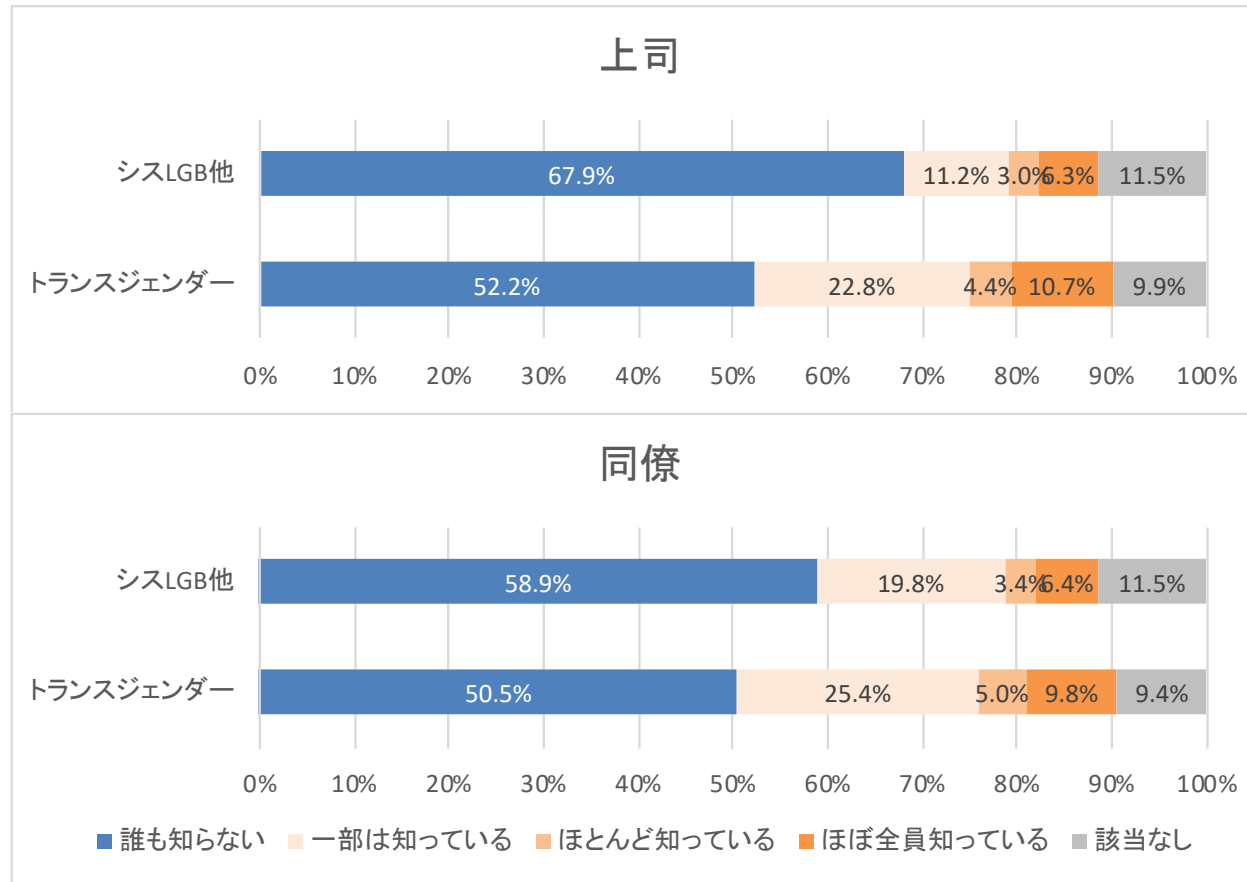
✓ トランスジェンダーで大学・大学院卒業の割合が低い。

## 職場でのカミングアウト



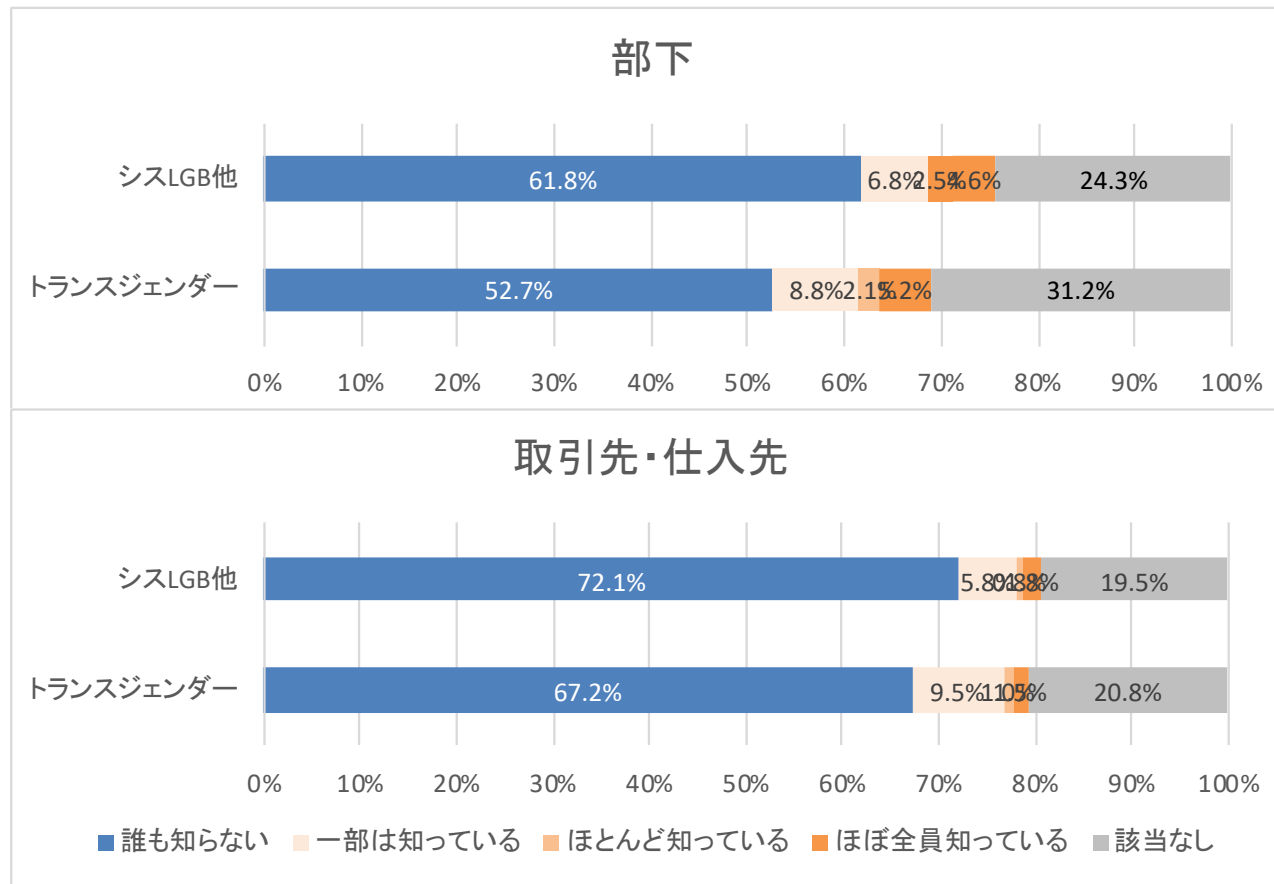
✓ 職場で誰かにカミングアウトしている人は、トランス女性、トランス男性が多い。

## カミングアウト（上司、同僚）



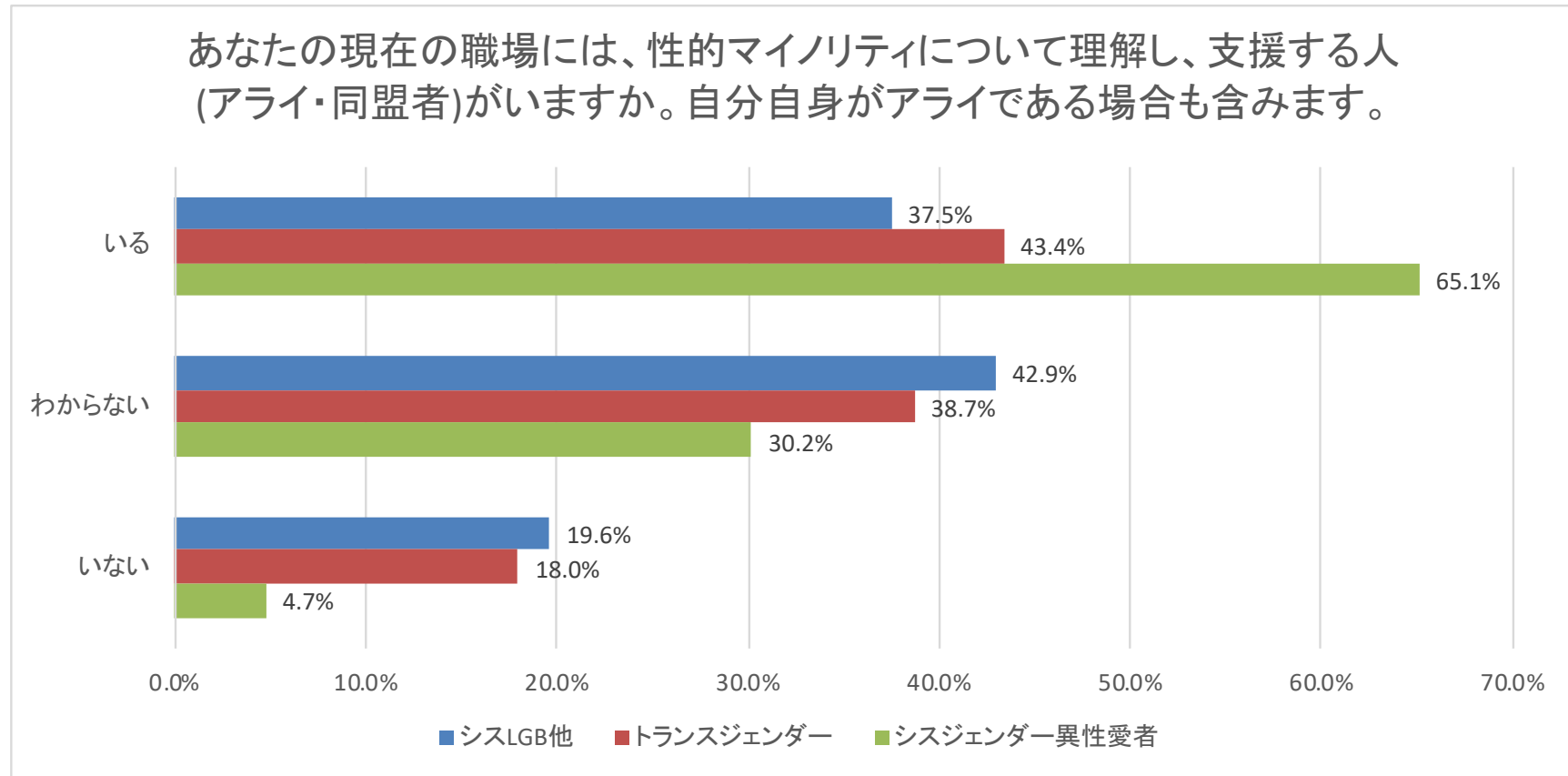
- ✓ 上司と同僚へのカミングアウトは濃淡があり、ほぼ全員が知っているという人は非常に少ない。（アウティングのリスクがある状況である）

# カミングアウト（部下、取引先・仕入先）



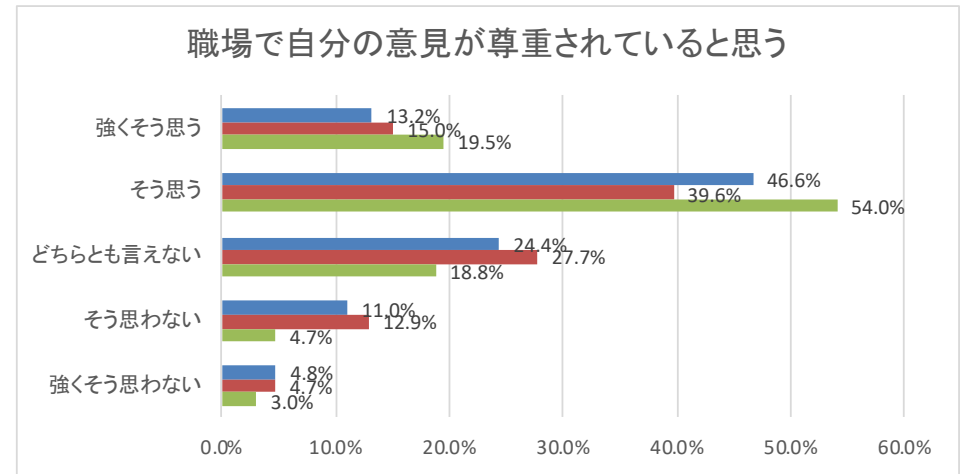
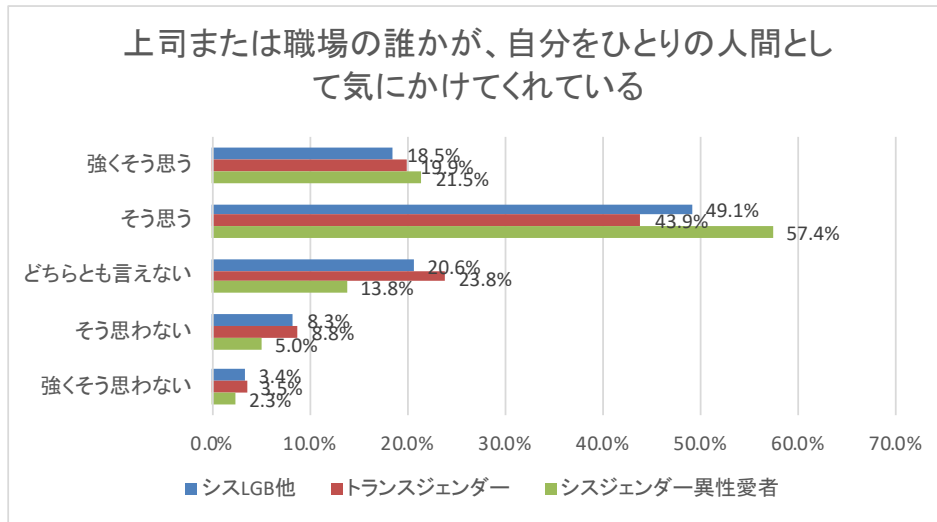
✓ 上司や同僚と比較すると、カミングアウトしている人は少ない傾向。

## アライの有無

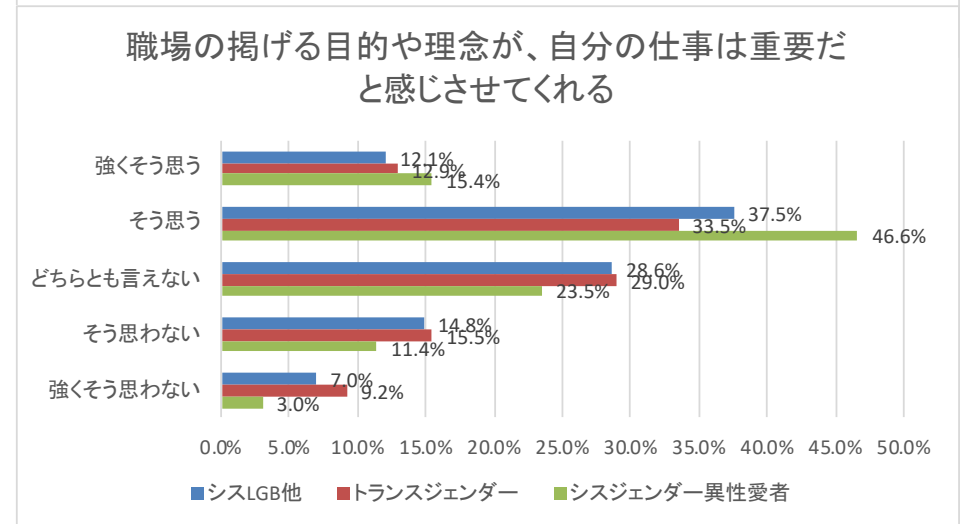


- ✓ LGBT他に関しては、「アライがいる」と回答している人は約4割、「わからない」も約4割、「いない」という回答は約2割という状況である。

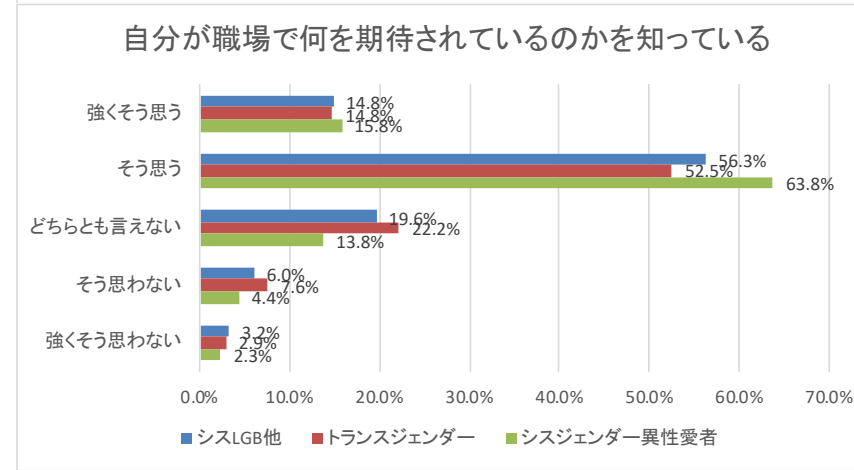
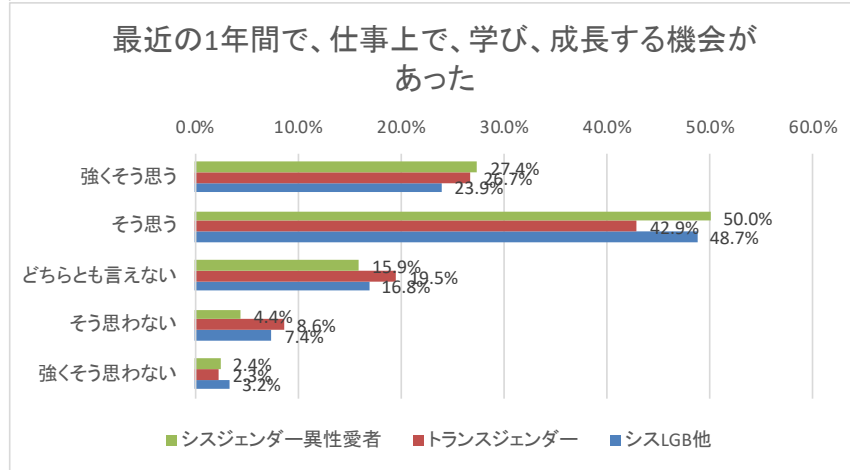
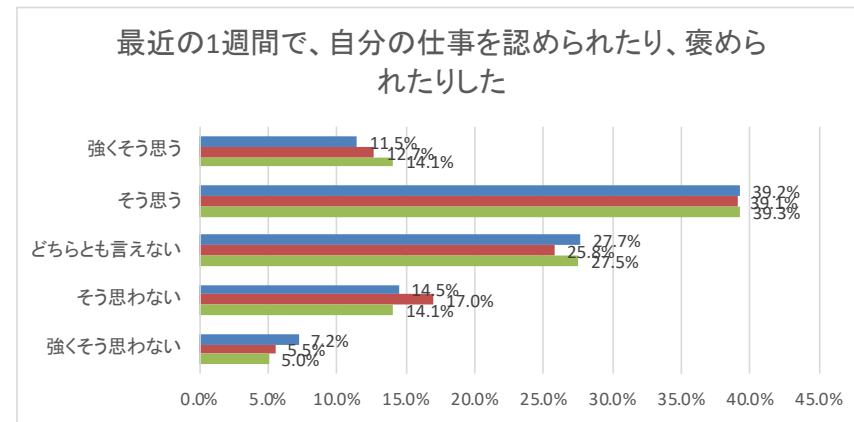
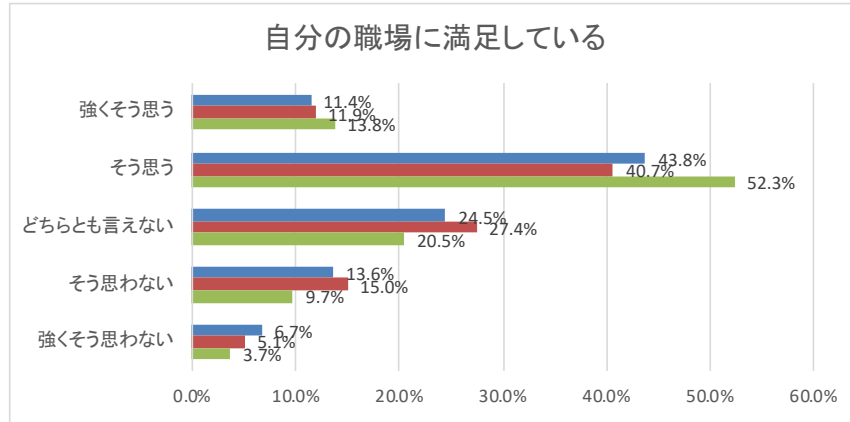
## 従業員エンゲージメント（有意差あり）



- ✓ 従業員エンゲージメントに係る設問を設定して5段階で聞いたところ、シスLGB他、さらにトランスジェンダーで数値の低くなる設問があった。
- ✓ 年齢や職位、雇用形態（非正規雇用）が影響している可能性がある。



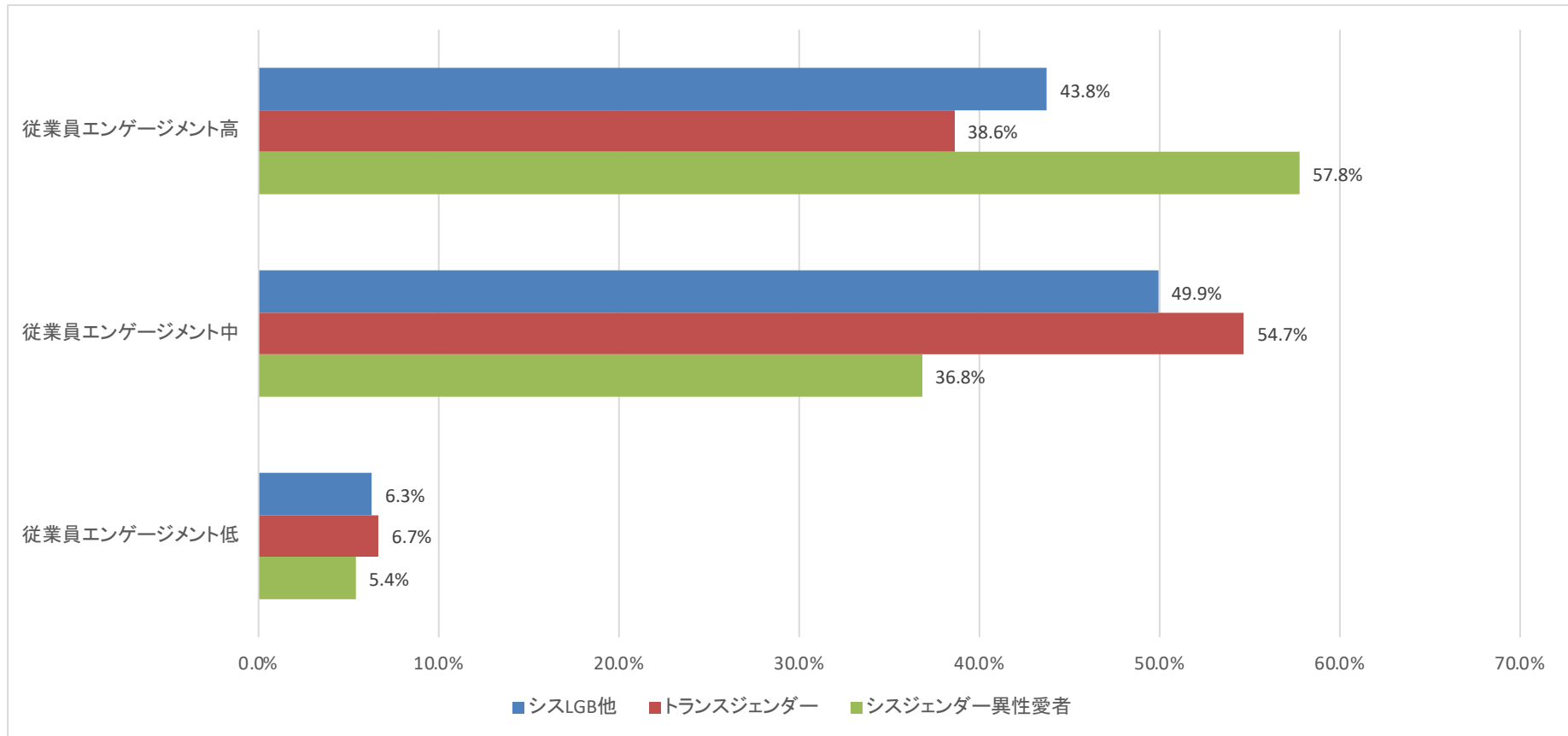
# 従業員エンゲージメント（有意差なし or わずか）



✓ 上記の設問に関しては、ほとんど有意な差が見られなかった

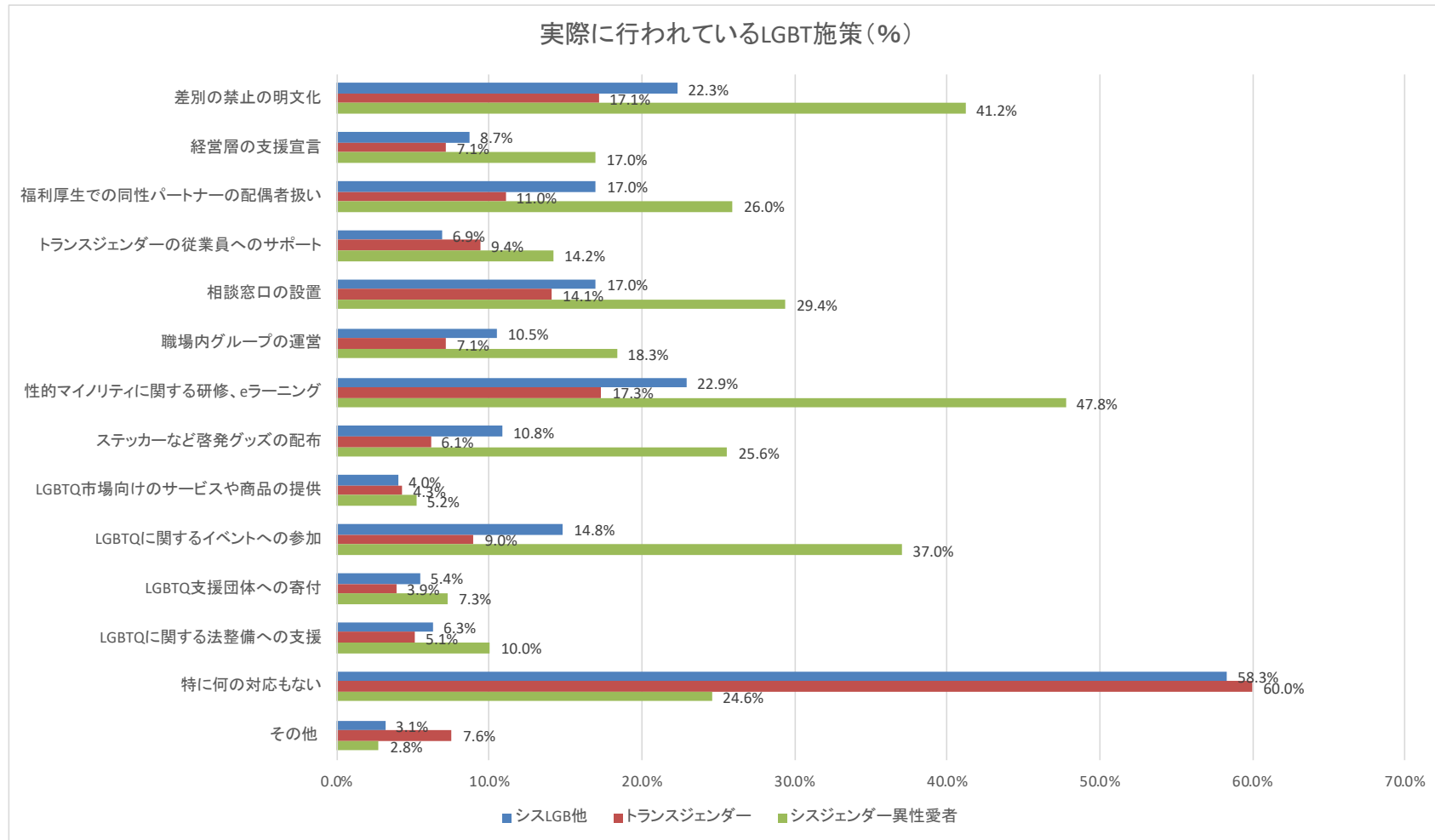


## 従業員エンゲージメント（点数化）



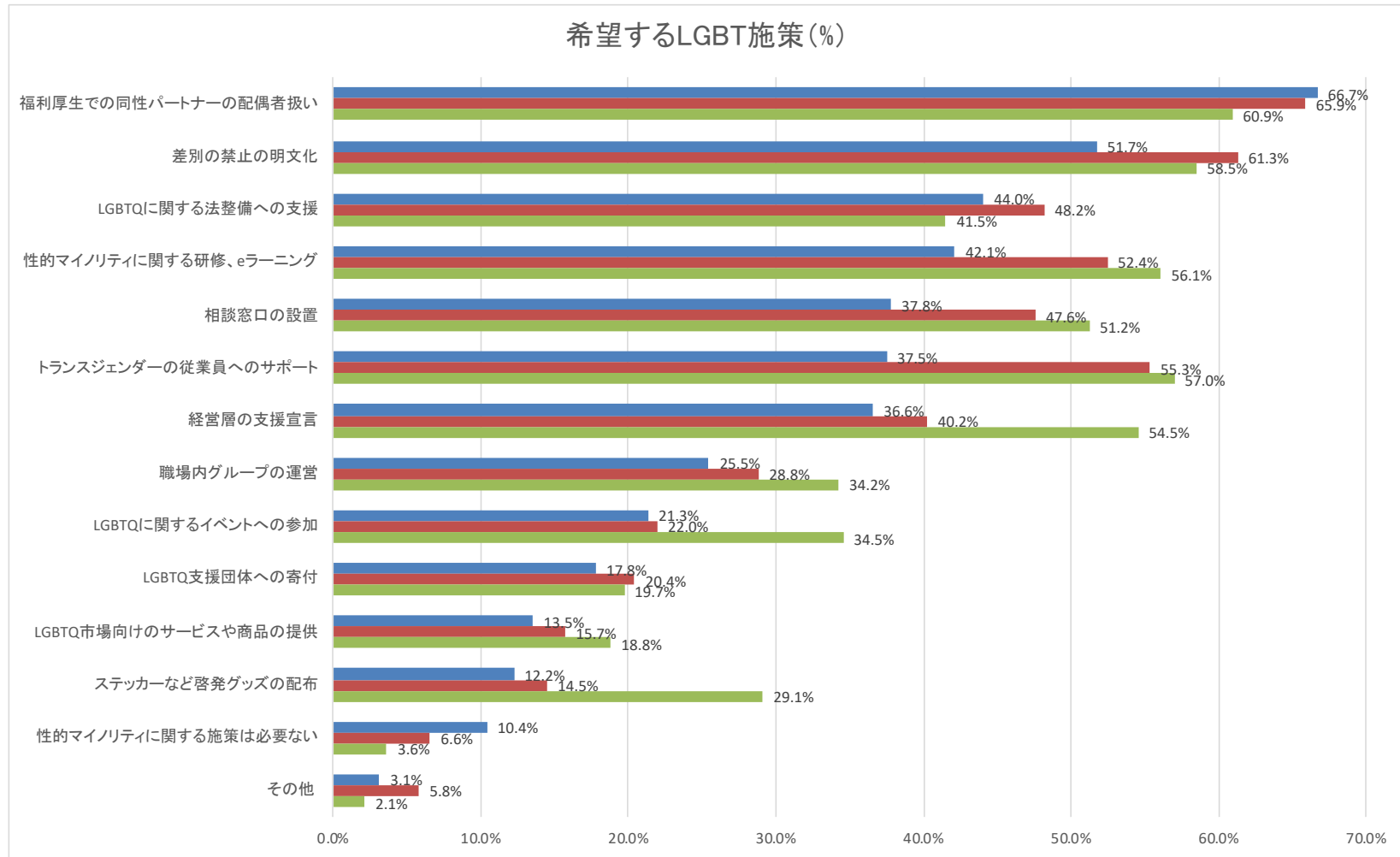
- ✓ 従業員エンゲージメントに関する設問を点数化して比較すると、LGBT等の方が点数の高い人が少ない。

# 職場のLGBT施策（実際）



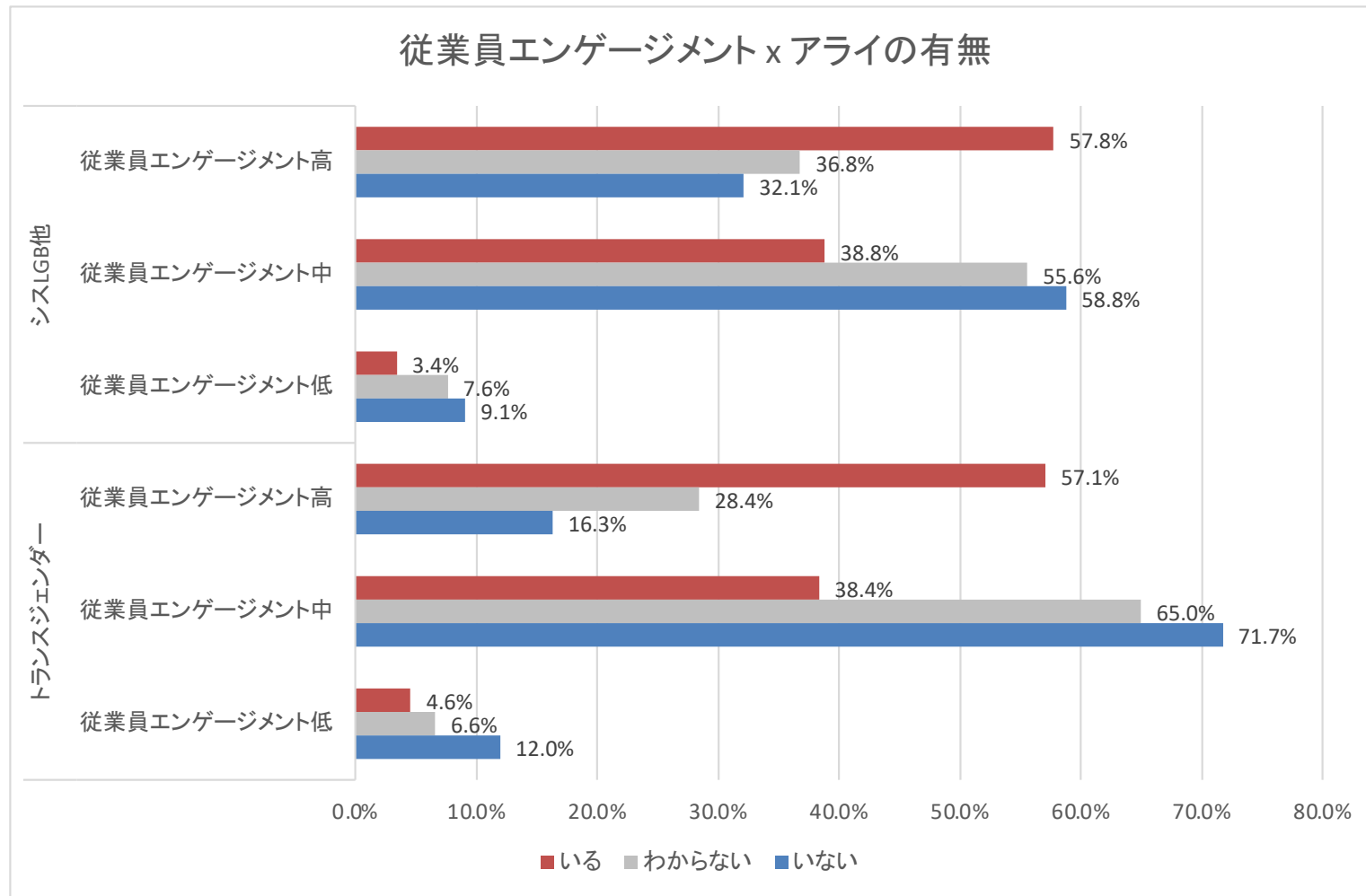
✓ 2023年にLGBT理解増進法ができているが「特に何の対応もない」職場が最多である。実際に行われている施策では、研修や差別禁止の明文化が多い。

# 職場のLGBT施策（希望）



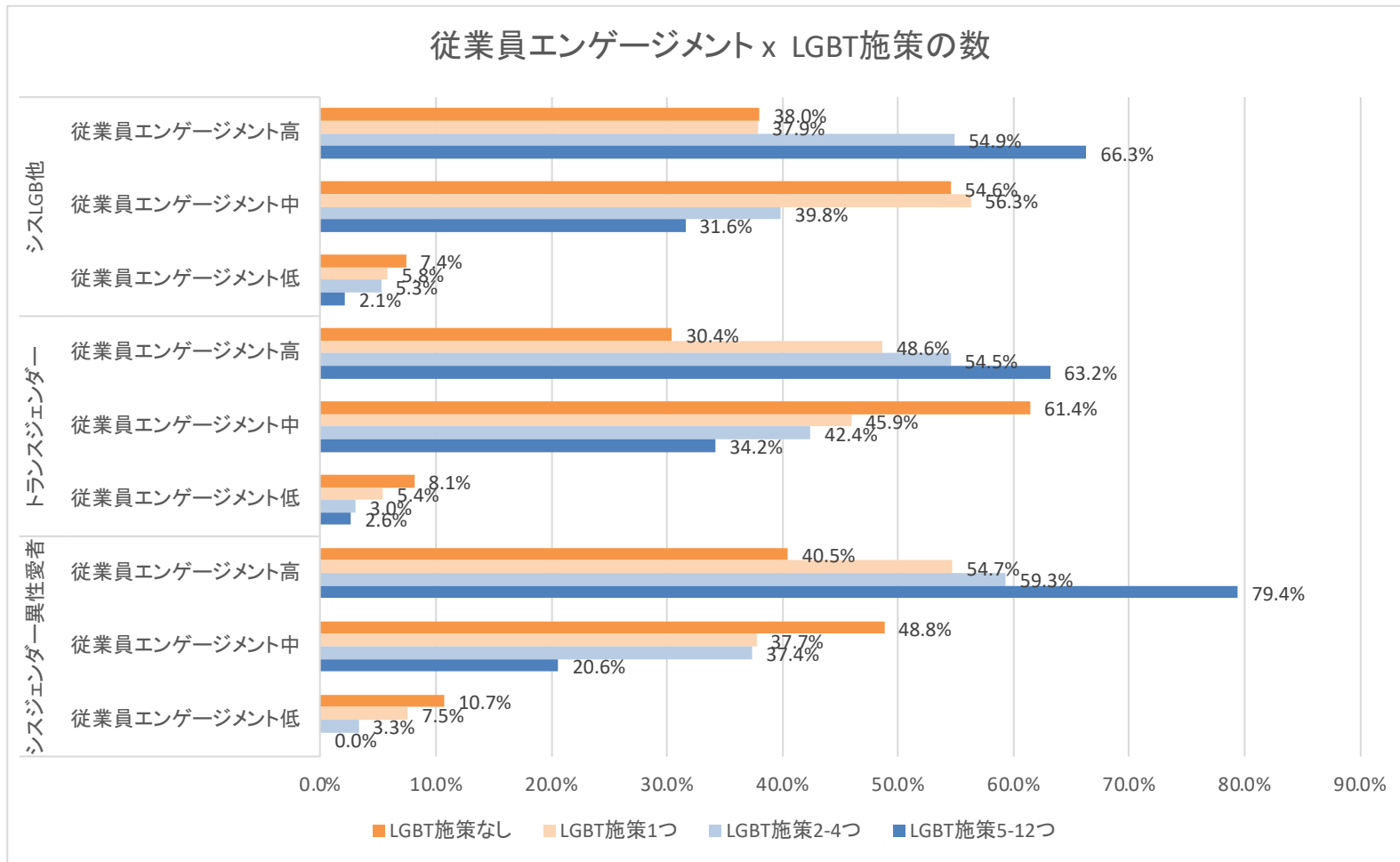
✓ 希望するLGBT施策では、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い」が最多。社会情勢を受けて、法整備への支援のニーズも高い。

# 従業員エンゲージメント x アライの有無



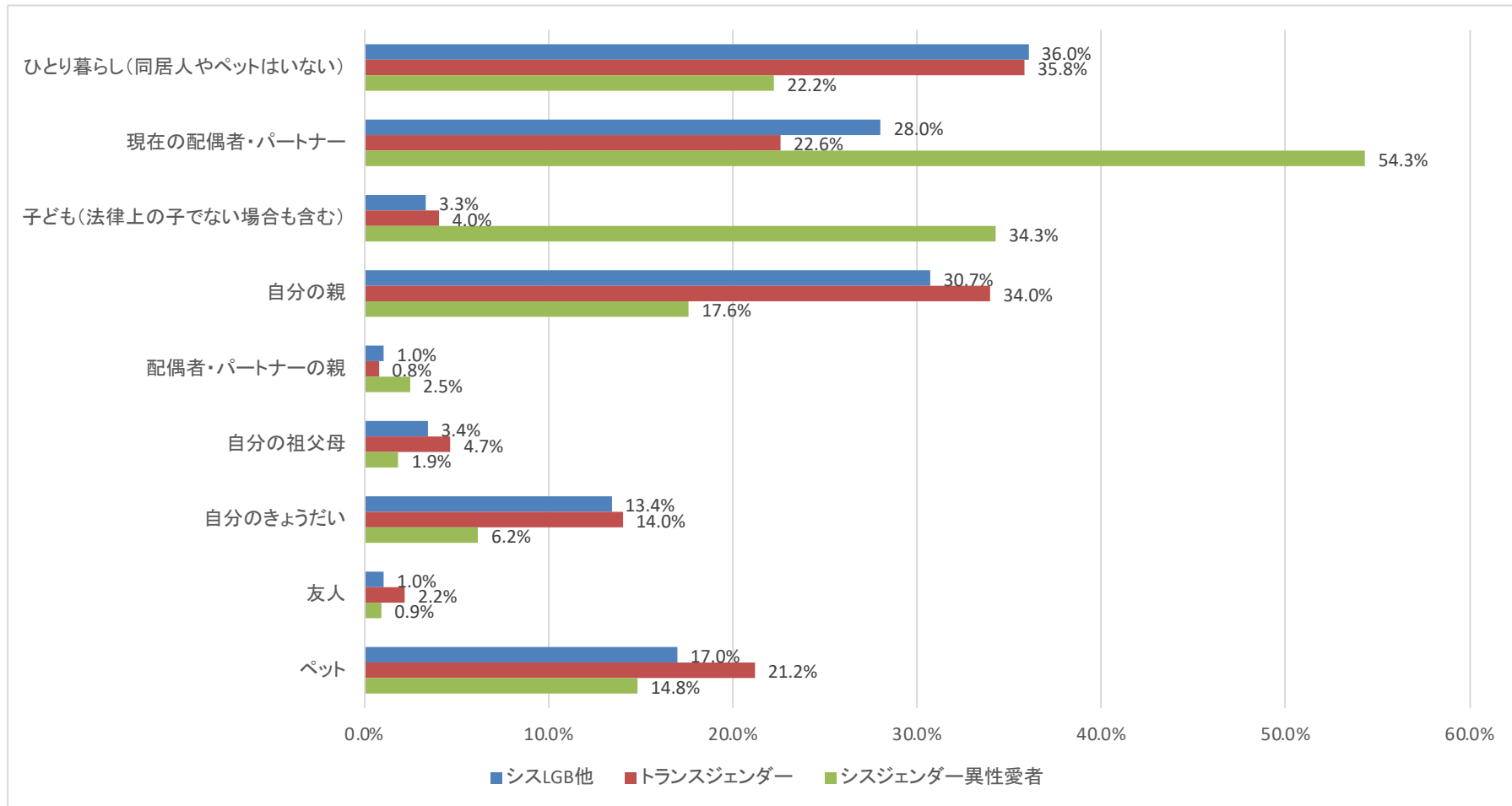
- ✓ 従業員エンゲージメントに関する設問を点数化して比較すると、職場にアライがいる場合に、従業員エンゲージメントが高い傾向にある。

# 従業員エンゲージメント x LGBT施策の数



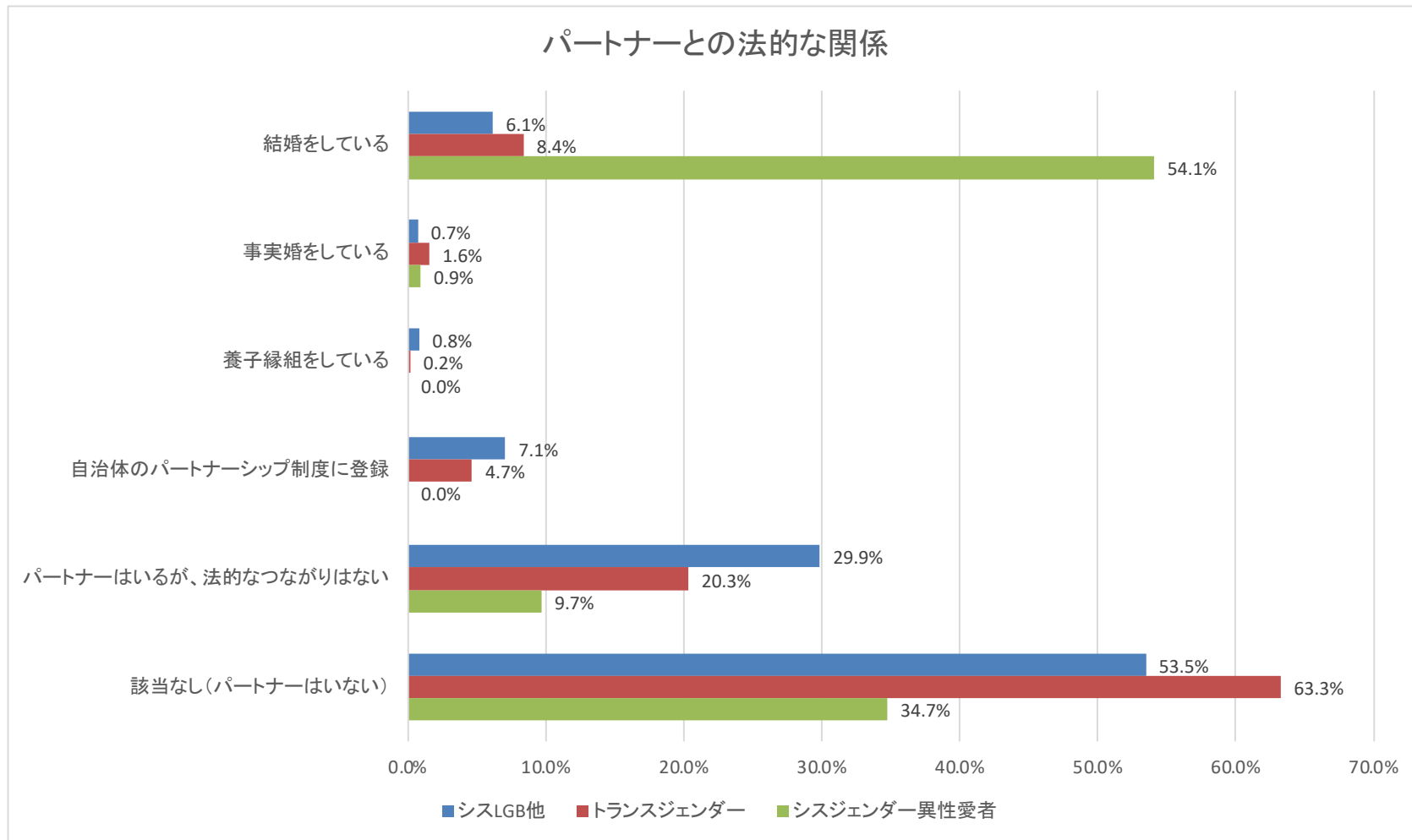
- ✓ LGBT施策の数が多い職場の方が、従業員エンゲージメントが高い職場が多い。  
LGBT施策を熱心に行う職場は、他のDEI施策にも熱心である可能性がある。

# 同居している人



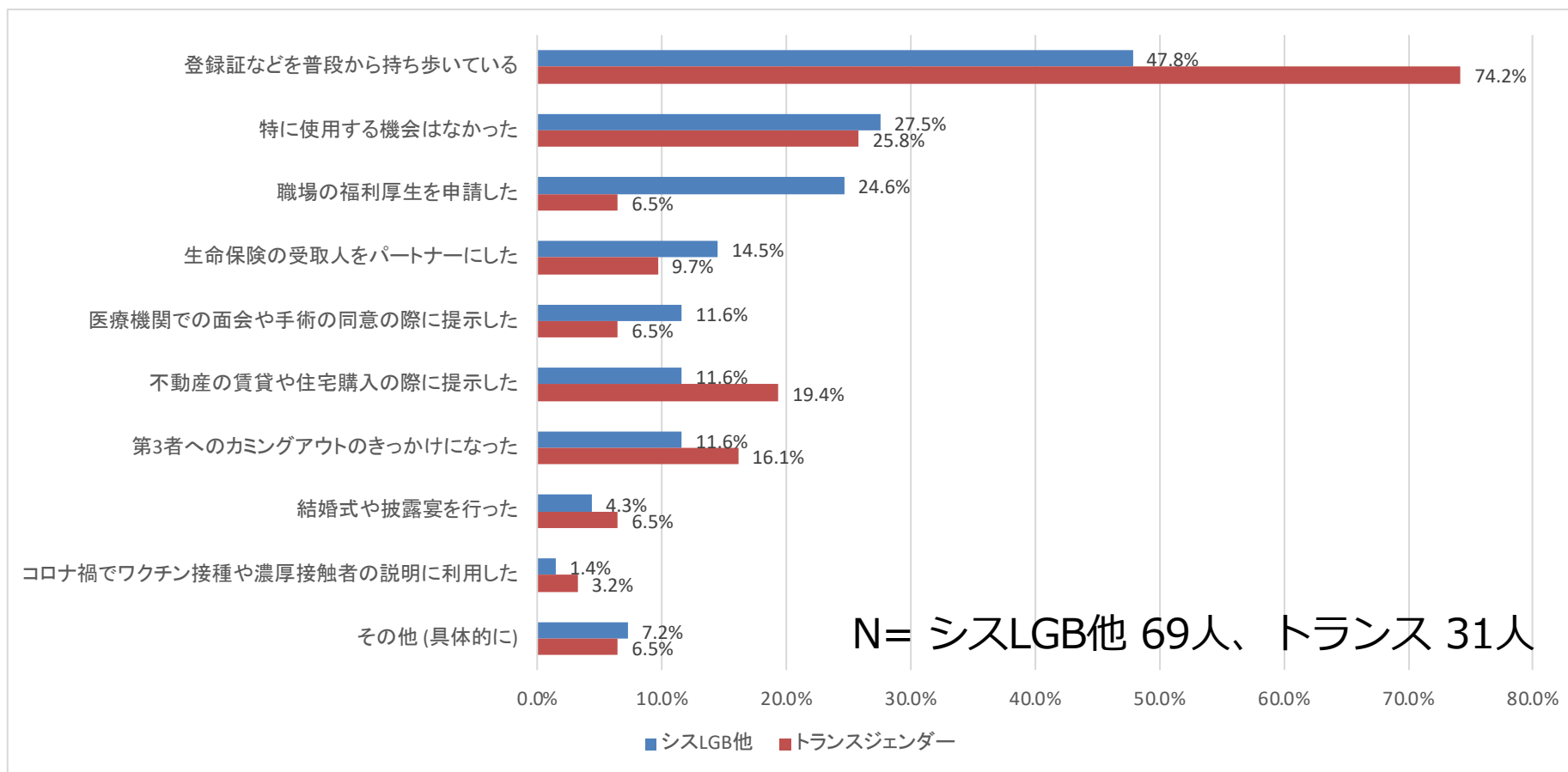
✓ LGBT等は35%超が独居。子どもと暮らしている人もおり、様々な家庭がある。トランスジェンダーで親やきょうだいと同居している率が高いのは回答者の年代が若いためも考えられる。

# パートナーとの法的関係



✓ LGBT等の半数以上がパートナーがいない。パートナーがいる場合も法的なつながりがない場合が多く、自治体のパートナーシップ制度に登録している人は少ない。

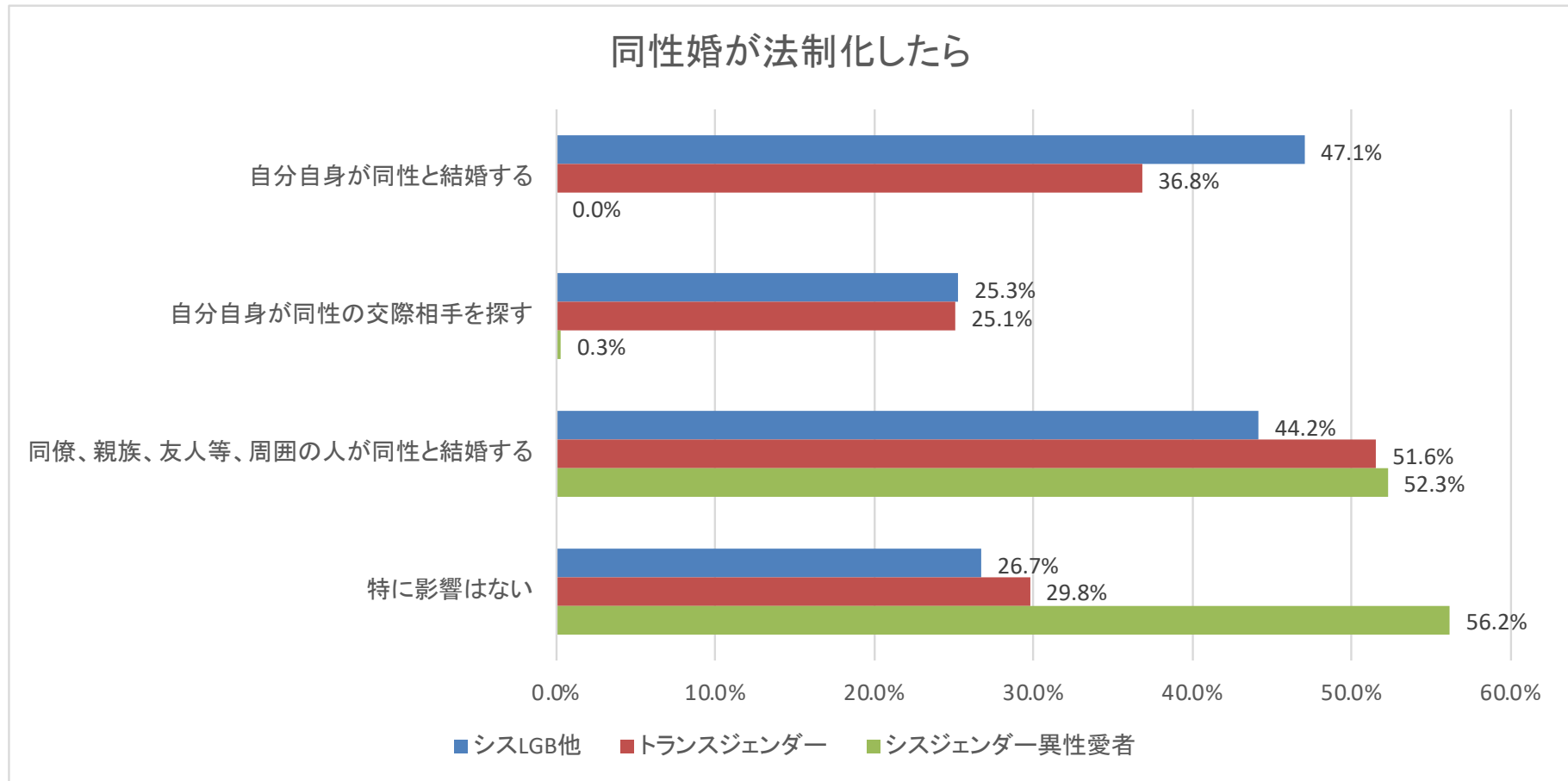
## 自治体のパートナーシップ制度の活用



- ✓ 自治体のパートナーシップ制度に登録している人は、普段から登録証等を持ち歩いているという人が多い。福利厚生や住宅購入に使用した例もある。

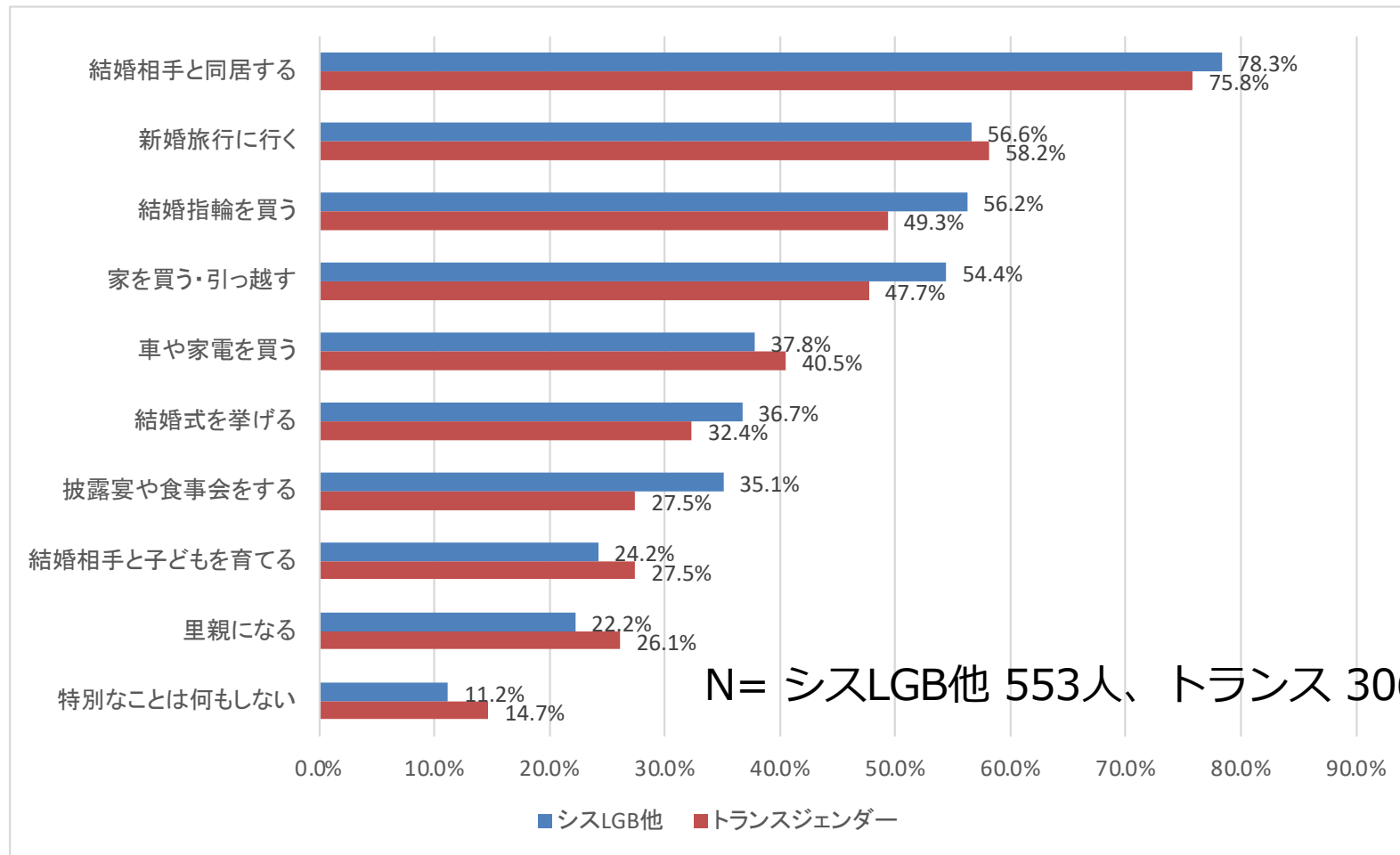


## 同性婚法制化の影響（個人）



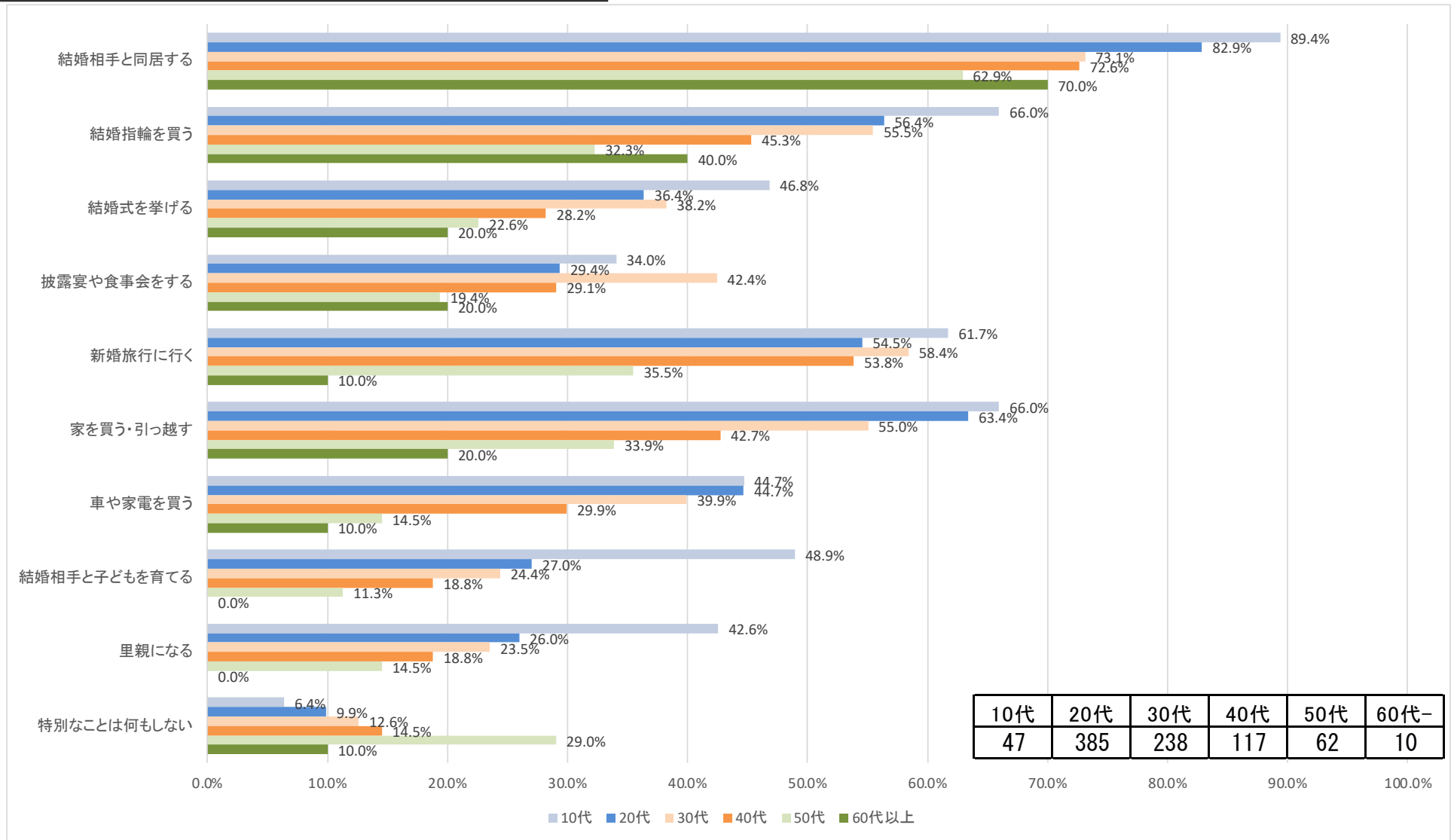
- ✓ 同性婚が実現したら、自分自身が結婚する、交際相手を探すという回答が多く、LGBTQの人生に大きな影響を与える可能性がある。シス異性愛者では「特に影響がない」「周囲の人が結婚する」という声が多かった。

## 同性婚法制化の影響（消費等）

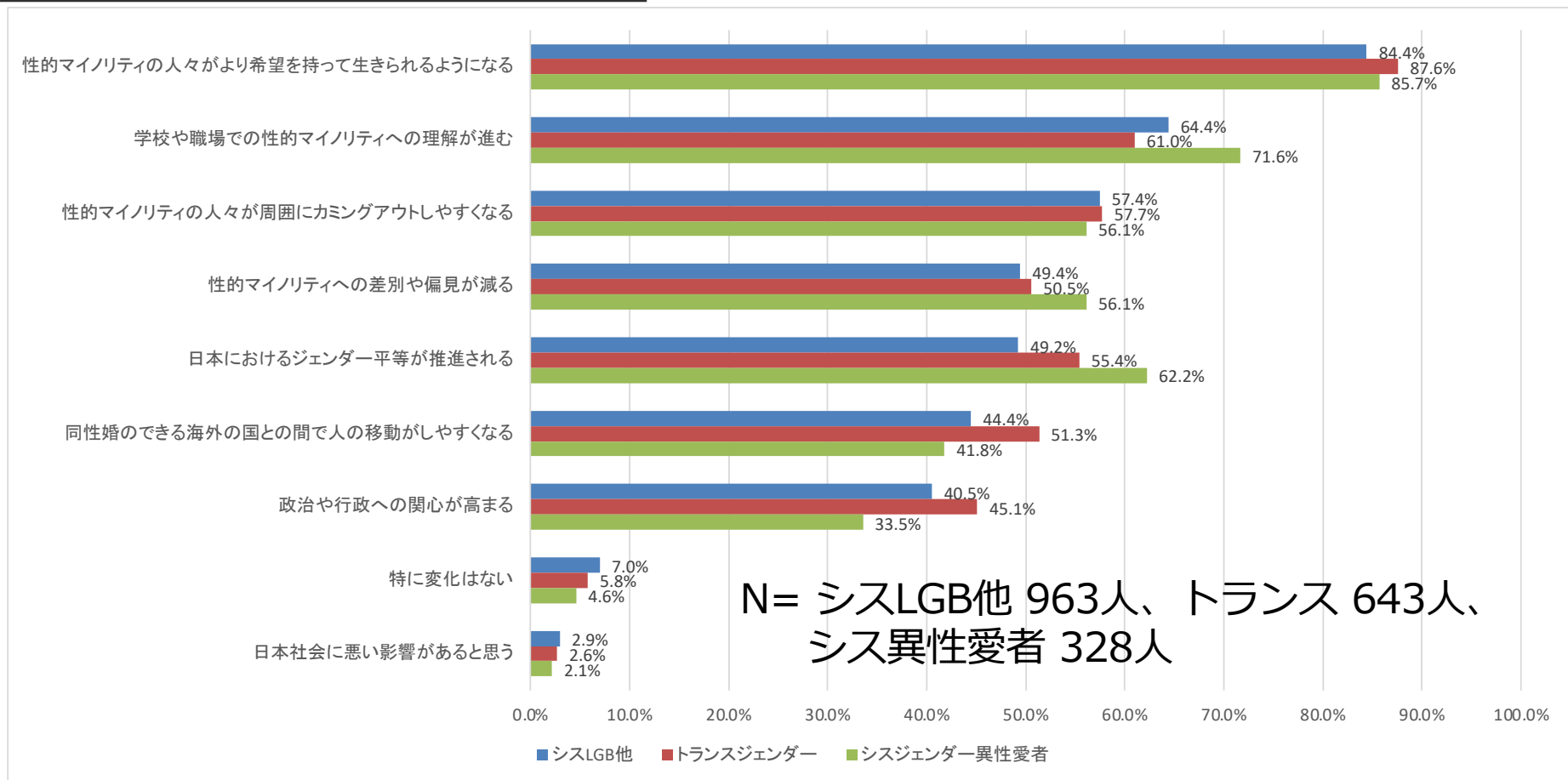


- ✓ 自分自身が同性と結婚する、交際相手を探すと回答した人に聞くと、新婚旅行に行く人が6割弱、結婚式を挙げる人が3割強。同性婚が大きな消費に結びつく可能性がある。子育てと里親を検討する人が同じくらいの数になった。

# 同性婚法制化の影響（消費等）x 年代

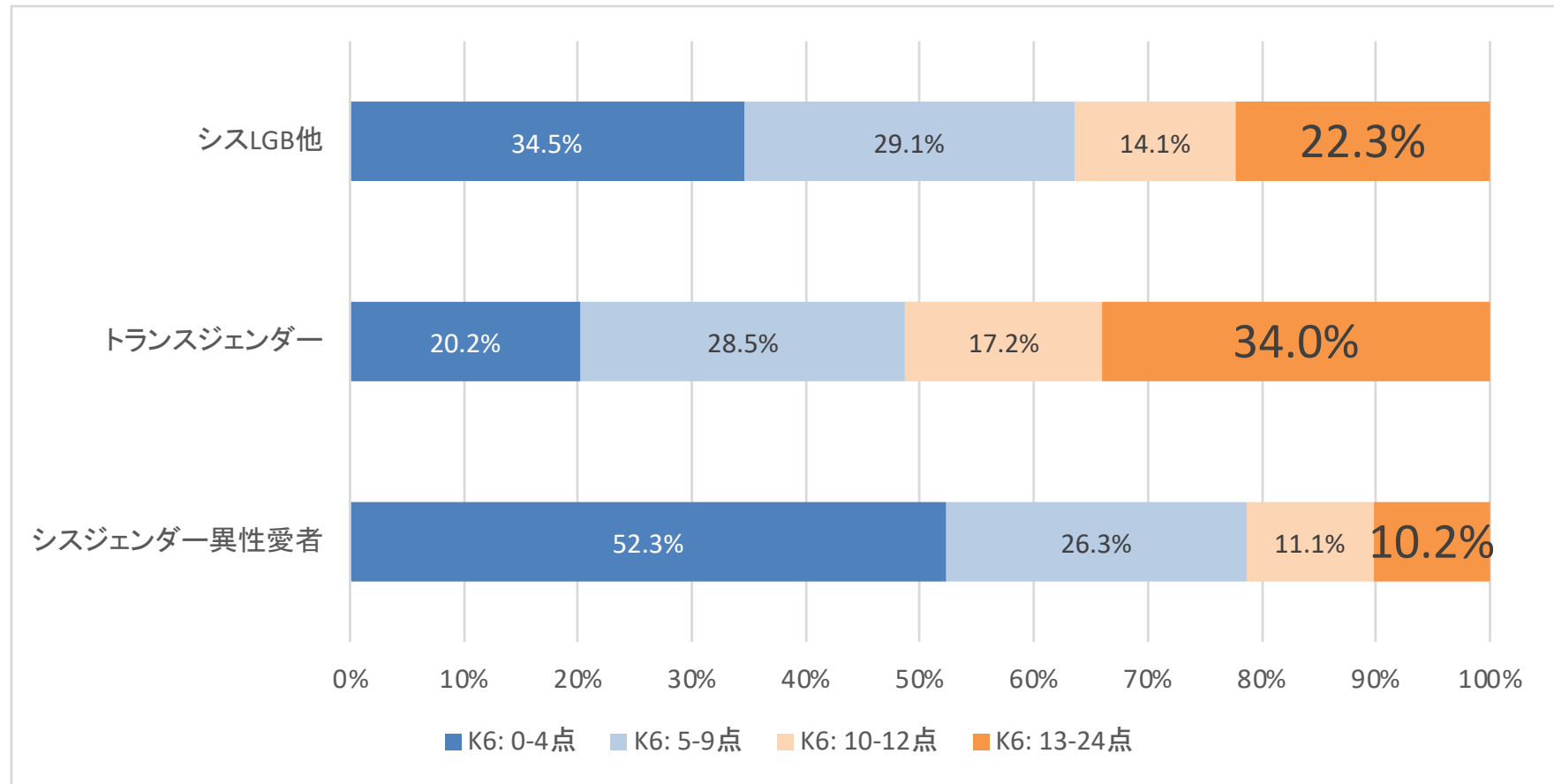


## 同性婚法制化の影響（社会の変化）



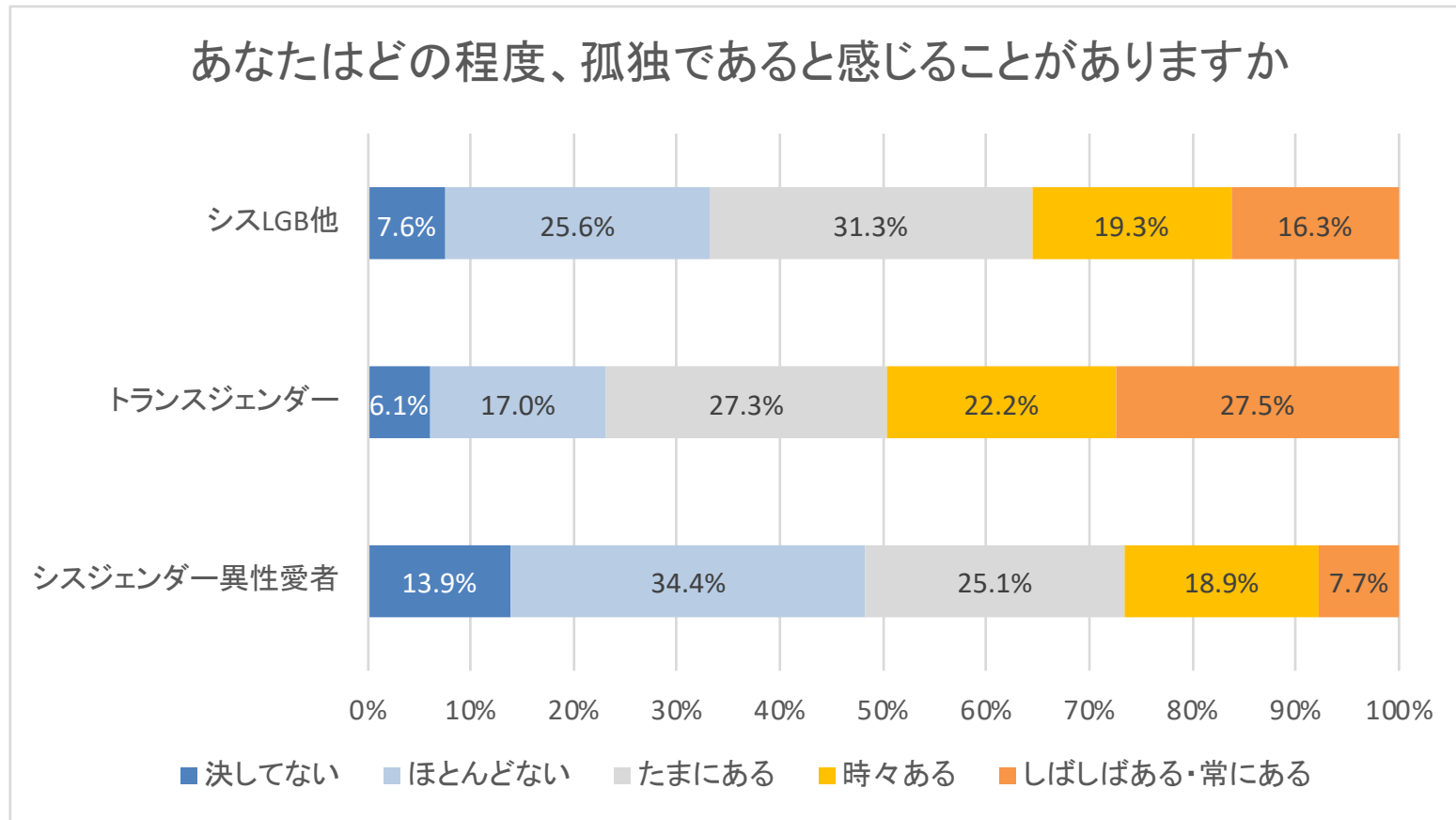
- ✓ 同性婚の社会への影響を聞いたところ「LGBTQがより希望を持って生きられるようになる」という回答が最多。「悪い影響がある」と考える人は2%代であった。

## メンタルヘルスの状況（K6）



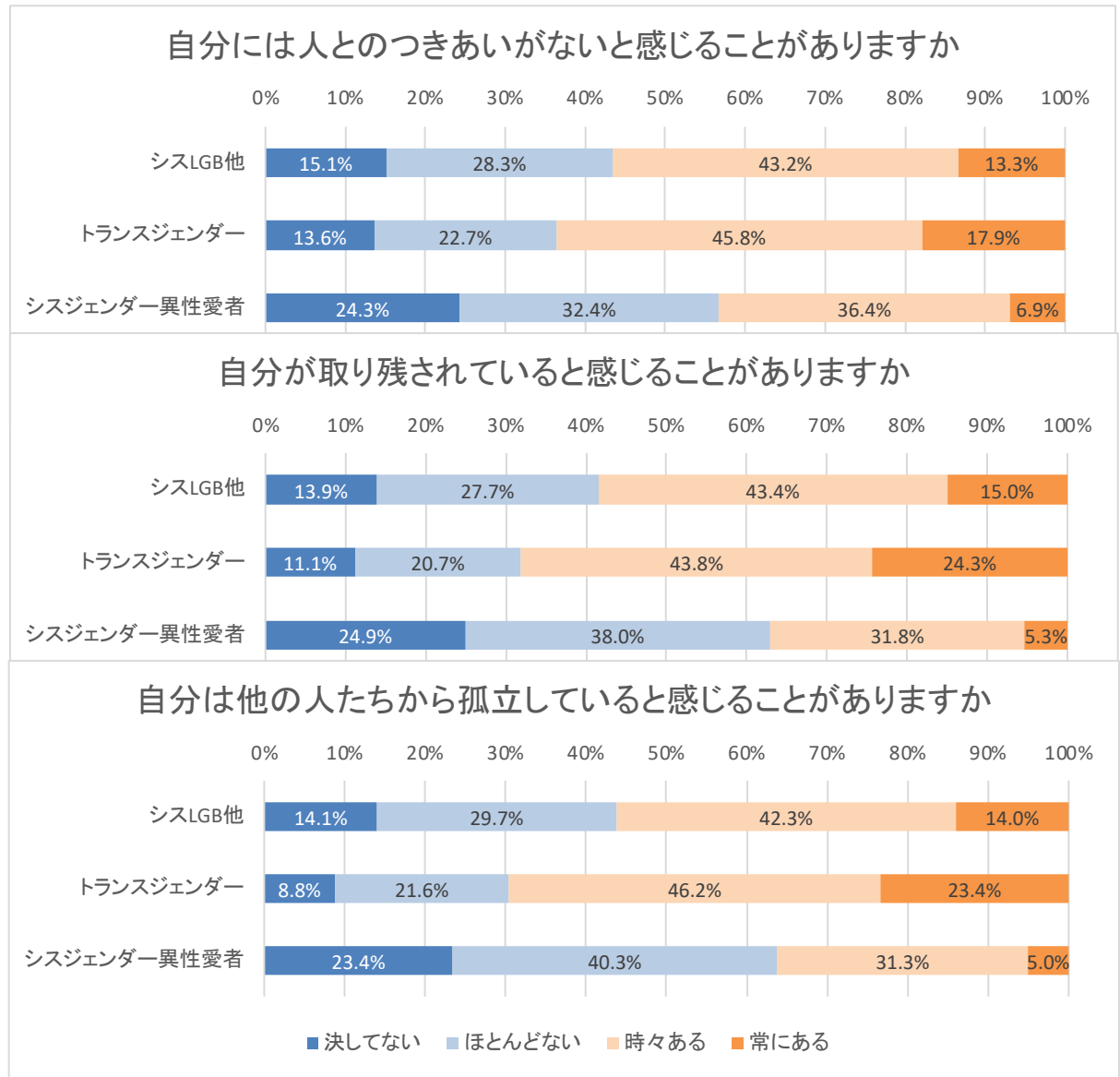
- ✓ K6という指標で13点以上だとストレスが高く、メンタルヘルスに問題を抱えている可能性があるが、LGBT等、特にトランスジェンダーで点数の高い人が多い。

# 孤独感



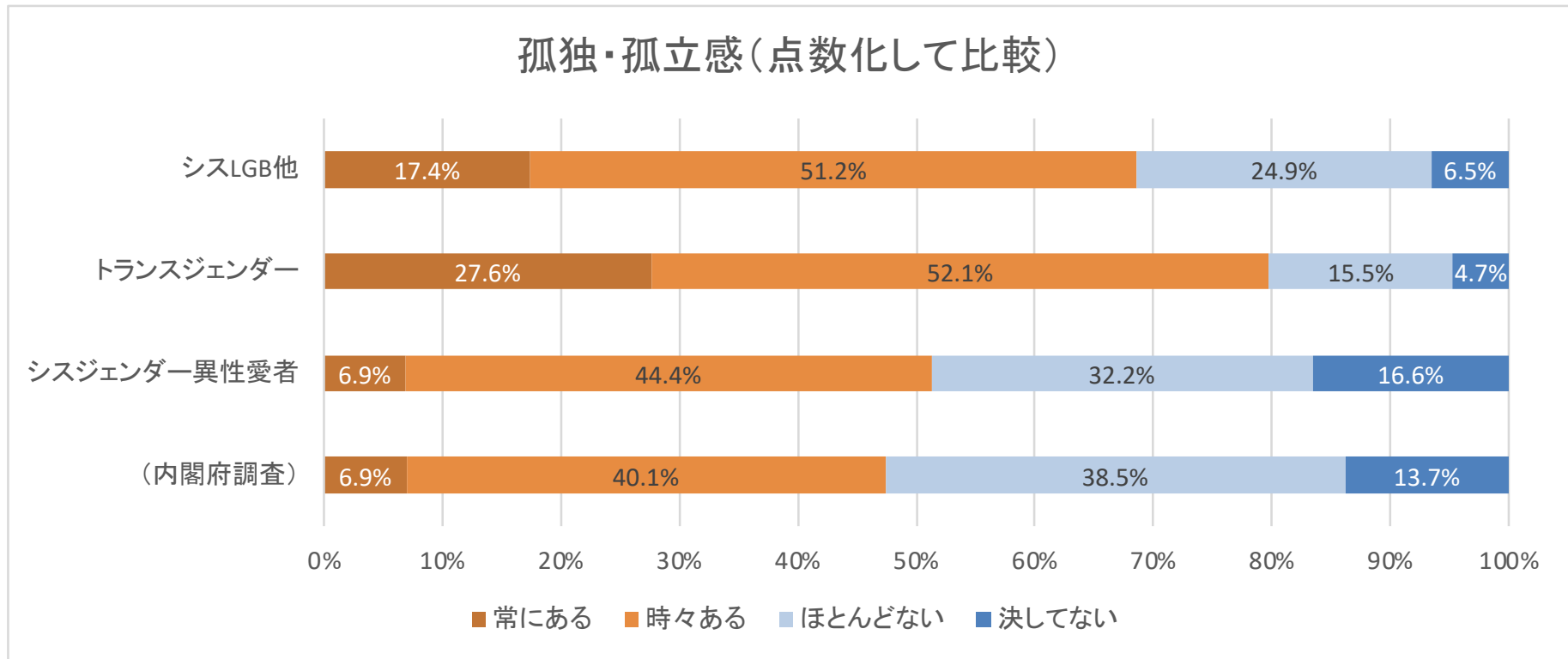
- ✓ LGBT等、特にトランスジェンダーで孤独感を感じている人が多い。トランスジェンダーでは「しばしば・常に」孤独感を感じている人が27.5%である。

# 孤立感



- ✓ いずれの設問においても、LGBT等の方が強い孤立感を抱えている。
- ✓ 特にトランスジェンダーで孤立感が高い。

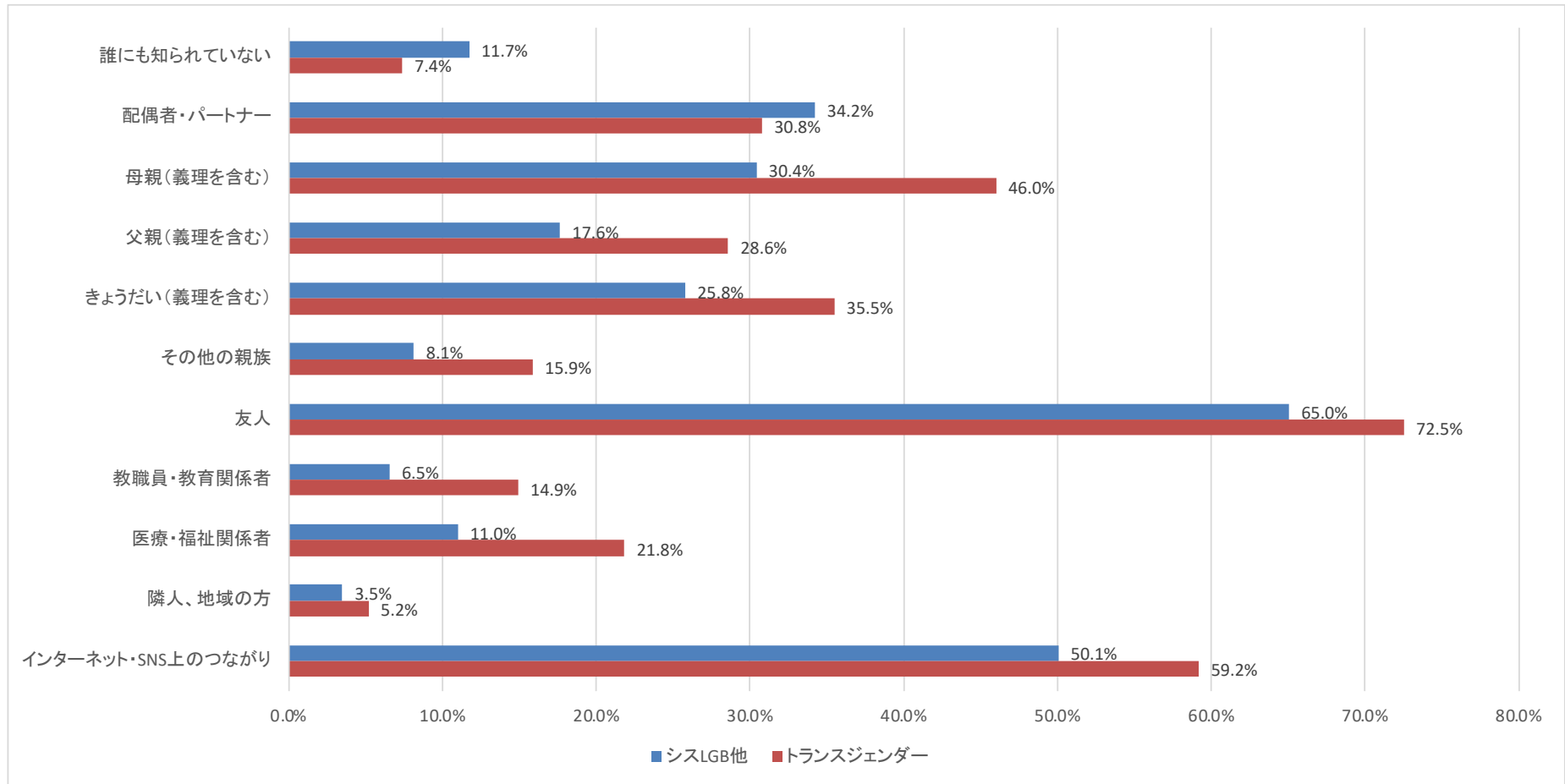
## 孤独・孤立感を点数化して内閣府調査と比較



- ✓ LGBT等、特にトランスジェンダーで、孤独感・孤立感を感じている人が多い。シス異性愛者の数値は内閣府の調査とほとんど変わらない。
- ✓ 比較：人々のつながりに関する基礎調査 R5年 内閣官房孤独・孤立対策担当室  
[https://www.cao.go.jp/kodoku\\_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r5/pdf/tyosakekka\\_gaiyo.pdf](https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r5/pdf/tyosakekka_gaiyo.pdf)

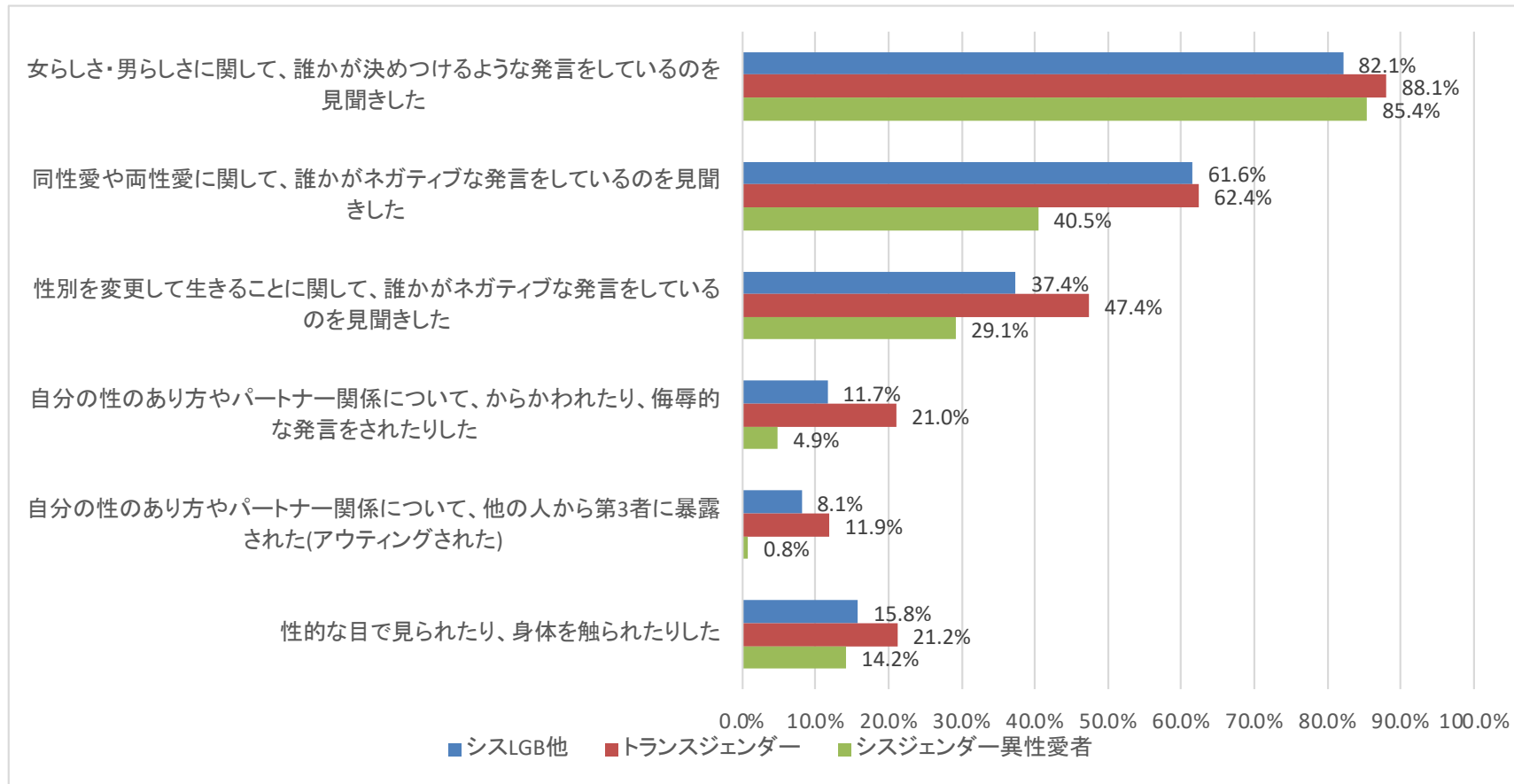


## 職場以外の場所でのカミングアウト



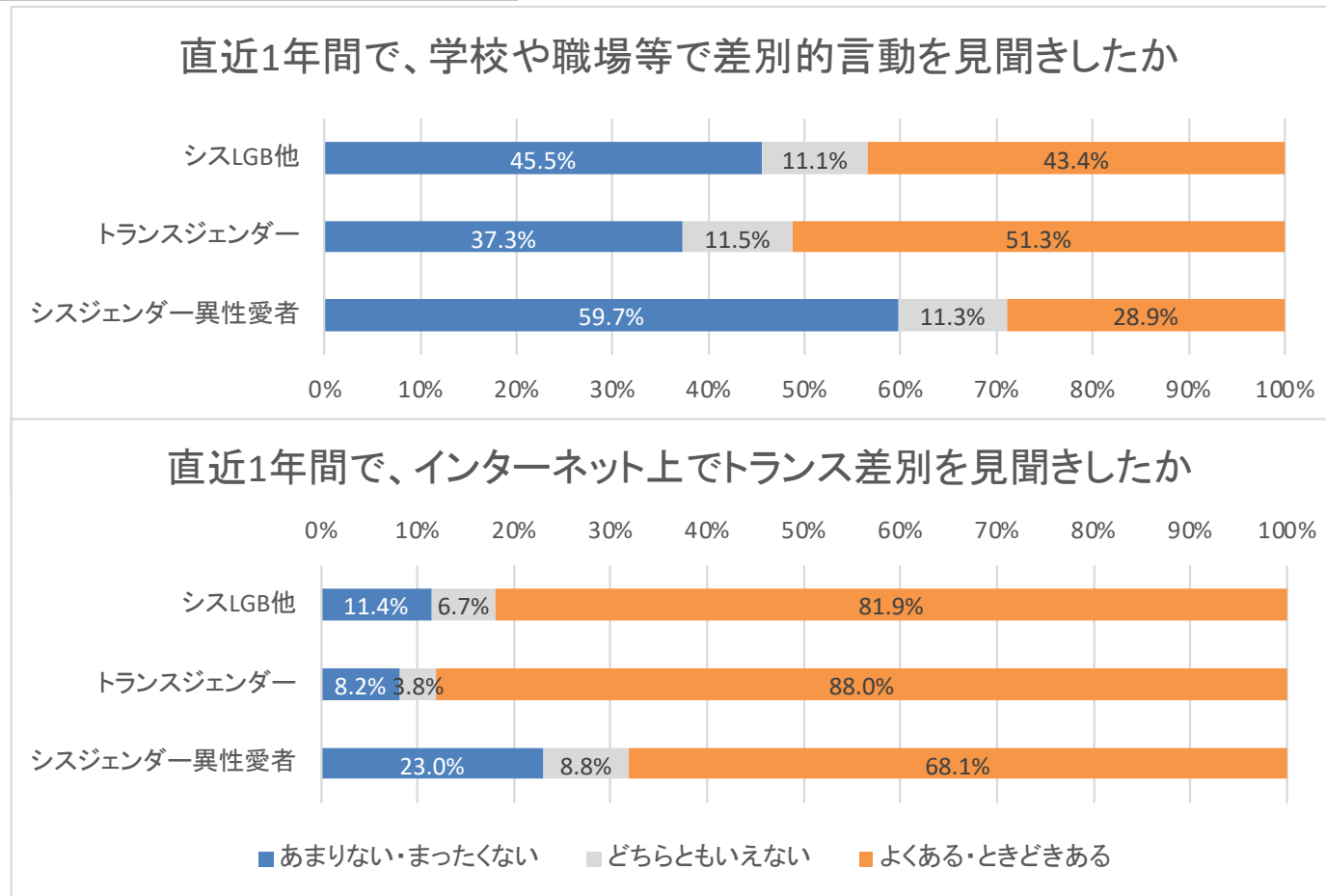
- ✓ 友人やインターネット・SNS上のつながりでカミングアウトしている人が多い。教職員、医療関係者にはトランスジェンダーの方が伝えている。隣人や地域にはほとんどの人がカミングアウトしておらず、災害等の場合のリスクになり得る。

# 学校や職場でのハラスメント



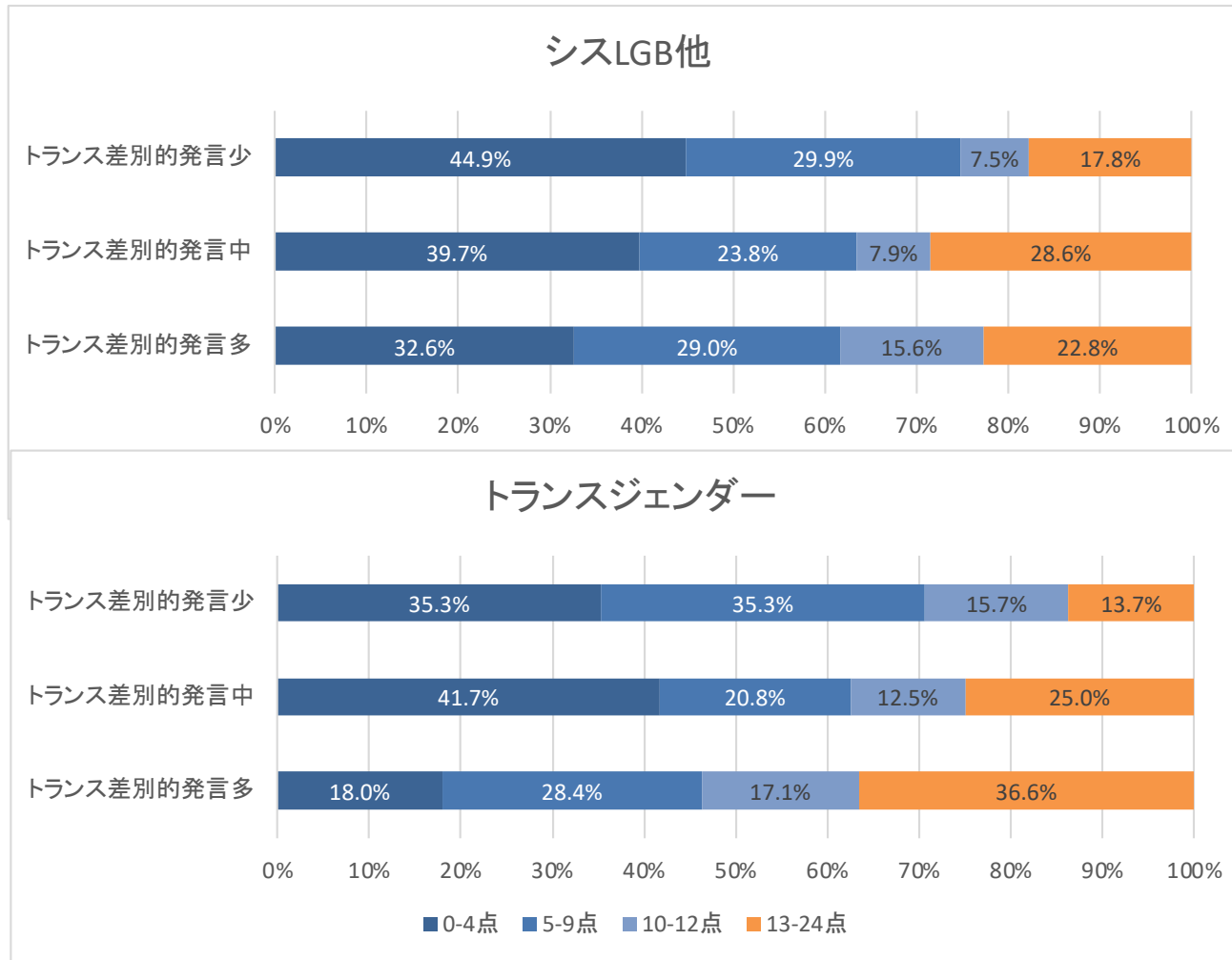
- ✓ 女らしさ、男らしさの決めつけは約85%で見聞きされている。パワハラ防止指針でSOGIに関する侮辱的な言動やアウティング（暴露）が明記されたが、いまだに経験しているLGBT等が多い。セクハラ被害にあっている人もいる。

## 差別的言動の見聞き



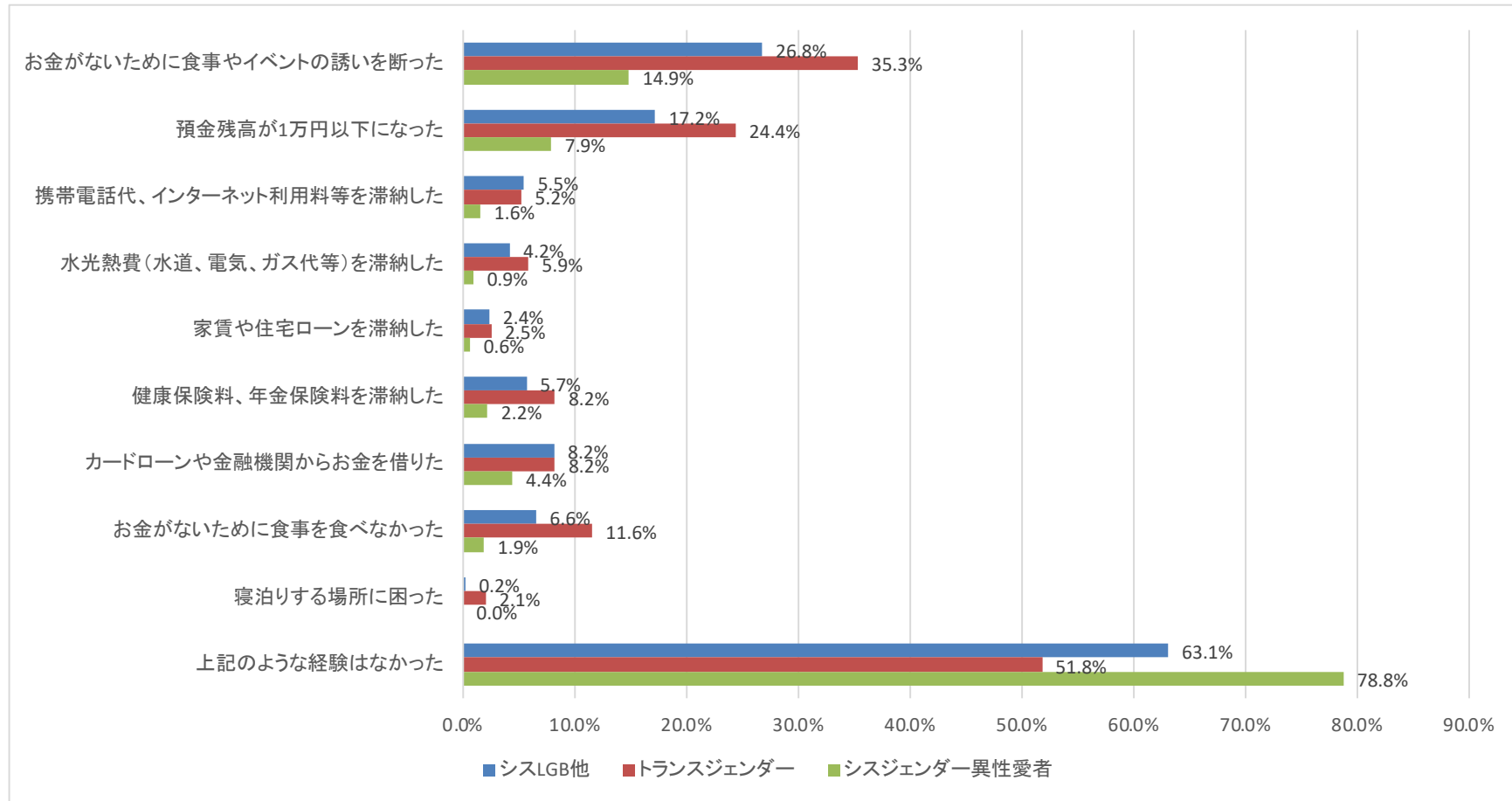
- ✓ 直近の1年間の状況を聞くと、自分の周囲で差別的言動を経験している人も多いが、インターネット上でトランス差別に接している人がより多い。

# インターネット上でのトランス差別 x メンタルヘルス (K6)



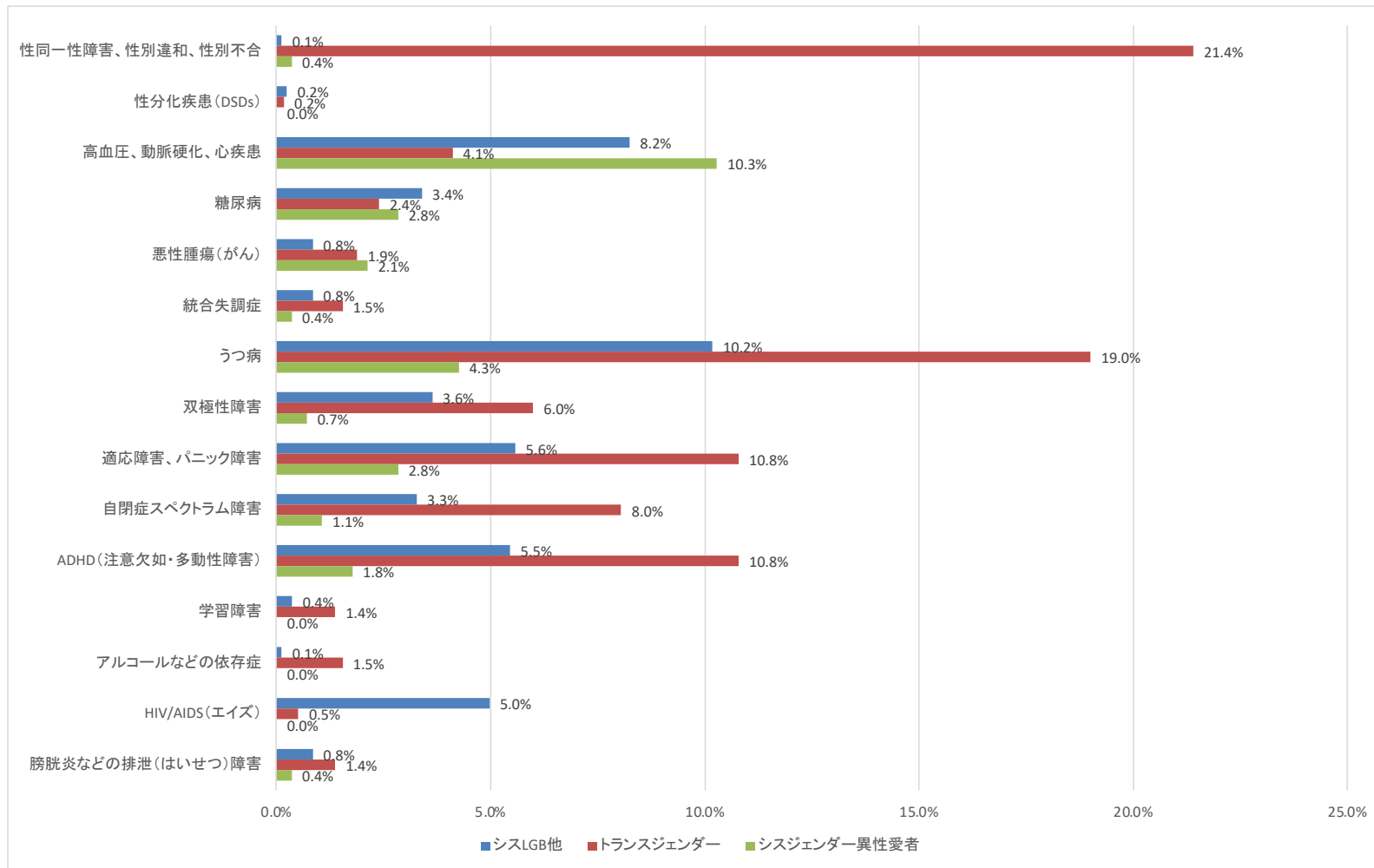
- ✓ インターネット上でトランス差別に接している人の方が、メンタルヘルスが悪い傾向である。特にトランスジェンダーで強い影響が見られる。

## 貧困に関する経験（直近1年間）



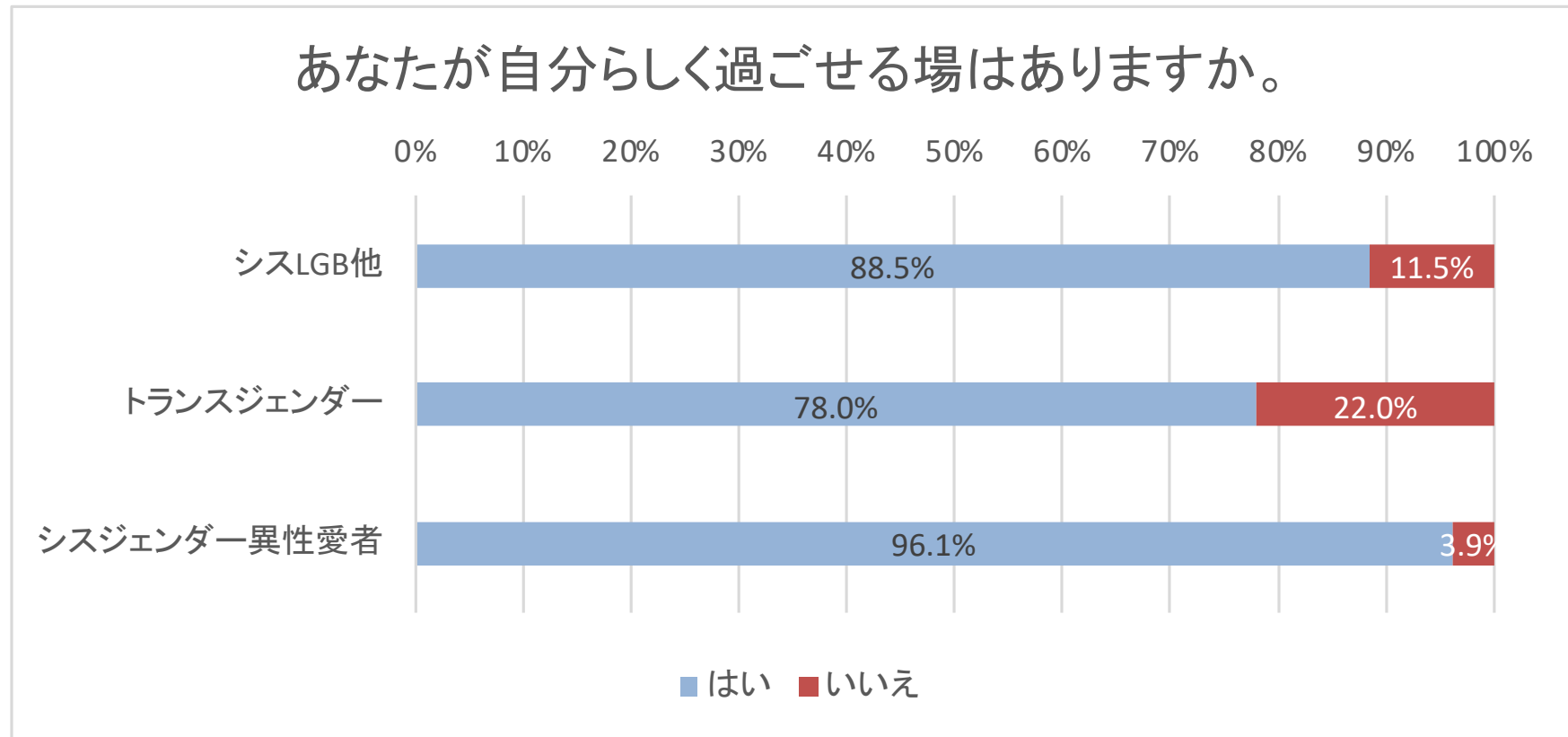
- ✓ LGBT等の方が、より貧困に関する経験をしている。低収入であること、カミングアウトしていなかったり、普段から交流がないことで、周囲の人に頼りにくいこと等が要因として考えられる。

# 通院・服薬・経過観察（現在）



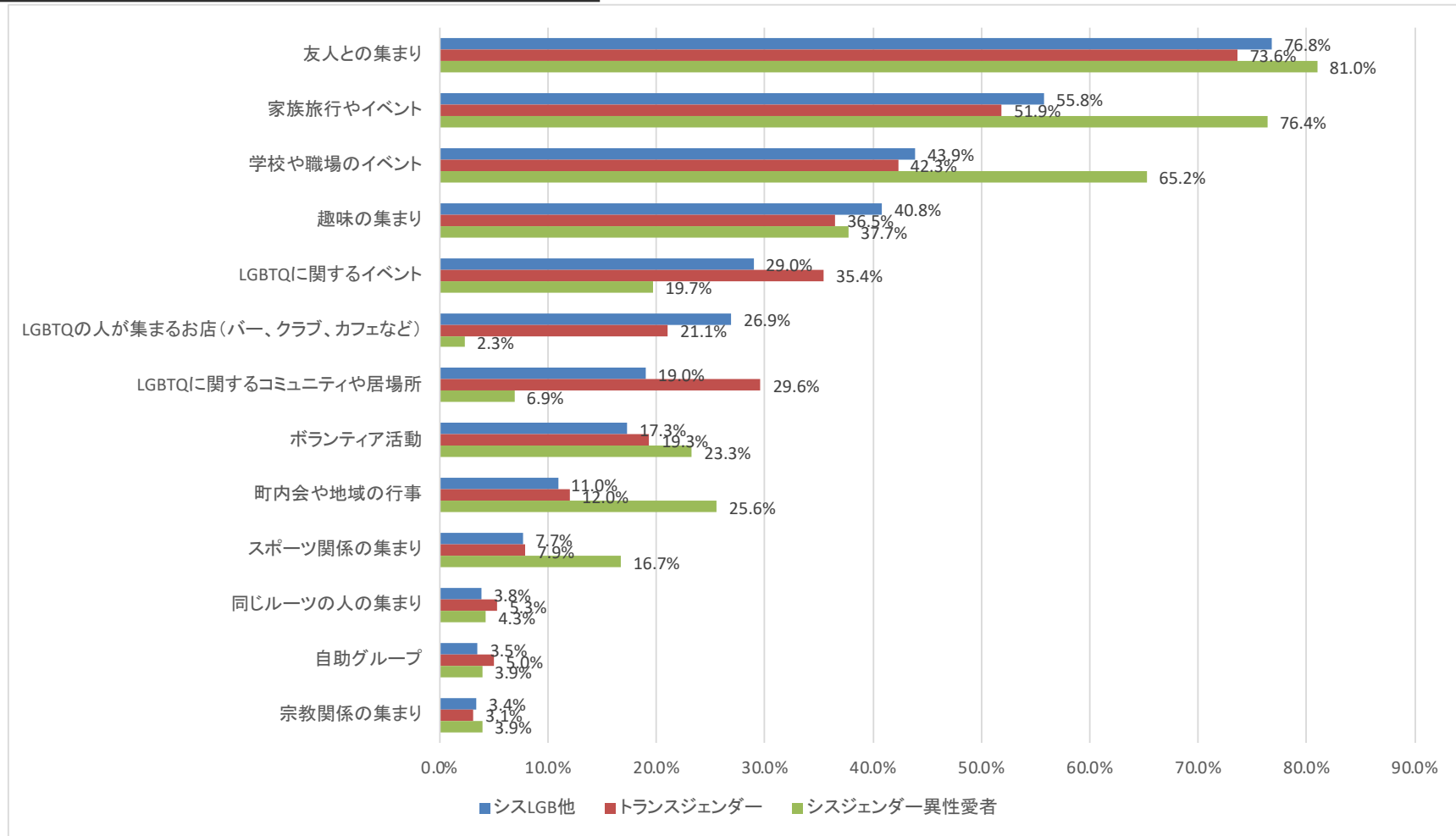
✓ LGBT等でうつ等のメンタルヘルスの疾患が多い傾向。LGBT等かつ何らかの発達障害の方も一定いて、マイノリティ性が重複することが就業等への壁になっていることも考えられる。

## 居場所の有無



- ✓ LGBT等、特にトランスジェンダーで、自分らしく過ごせる場所がないという回答が多い。

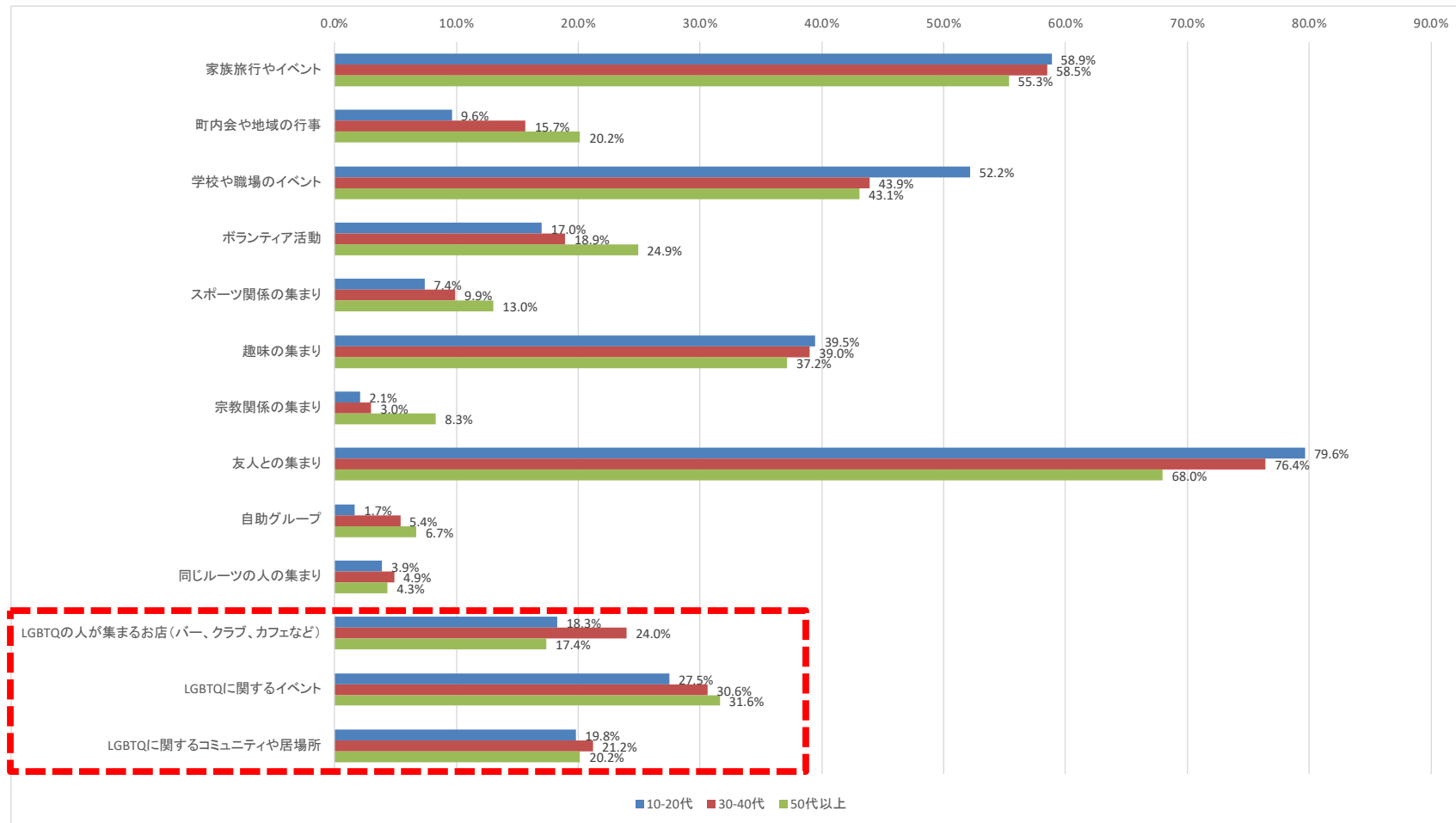
## コミュニティへの参加経験（直近1年間）



- ✓ シスジェンダー-異性愛者と比較すると、特に、家族関係、学校・職場関係、地域関係、スポーツ関係の集まりに、LGBT等は参加していない。

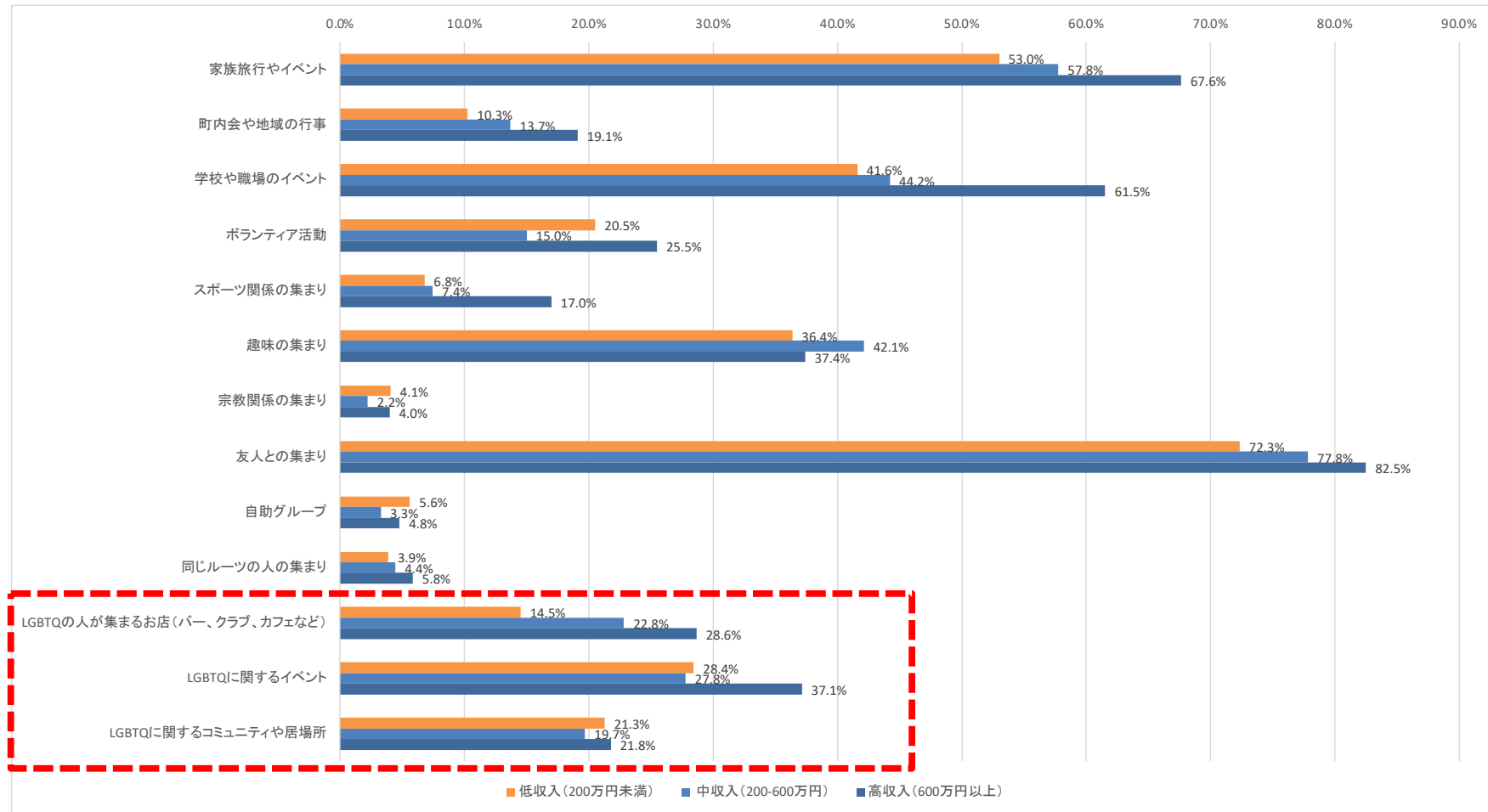


## コミュニティへの参加経験（直近1年間）x 年代



✓ LGBTQに関する集まりを見ると、お店やイベントは参加している人が少ない年代があるが、コミュニティや居場所は年代に関わらず利用されている。

## コミュニティへの参加経験（直近1年間） x 収入



- ✓ 低年収の場合、一般的にも旅行やイベントの参加率は下がるが、LGBTQに関するコミュニティや居場所は、収入に関わらず利用されている。

# プライドセンター大阪



プライドセンター大阪  
PRIDE CENTER OSAKA

STUDIO DIVERSITY

- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 添付資料

## 【設問】

「あなたが自分らしく過ごせる場は、どのような場ですか。自由に記載してください(職場・学校・家庭など特定の場所だけでなく、友人やグループ活動などの人間関係も含みます)。」

## 【分析方法】

- 何らかの回答があった1081件のうち、983件を分析可能なものとして特定した。
- それらの記述を熟読し、その趣旨を読み取り、カテゴリーにまとめた。
  - 《関係》《コミュニティ》《差別的でない空間》《その他》の4つのカテゴリーにまとめられた。

## 自由記載欄分析：居場所〈関係〉カテゴリー

A. 関係		884
恋人・パートナー	パートナーと一緒に行動しているときだけ。 (トランス男性・50代)	150
友人	ごく親しい友人と一緒にいるとき(シスB女性・20代)	456
趣味のあつまり・活動	家にいる時、趣味のサークル、習い事(シスその他女性・40代)	56
インターネット・SNS	共通の趣味を介したクィアなコミュニティー(SNS上) (トランス男性・20代)	115
家族・家庭	家庭(生まれ女性X・20代)	225
自室・自宅	自室で単独で過ごす時間(生まれ女性X・50代)	248
ひとり	孤独を確保できる場所ならどこでも(シスその他男性・40代)	47
仕事関係者	カミングアウト済みの社員と過ごす時間(シスG・20代)	23
先生	高校時代の教師との場(生まれ女性X・10代)	3
ゼミ	ジェンダー論のゼミ(シスその他女性・20代)	7

## 自由記載欄分析：居場所〈コミュニティ〉カテゴリー①

当事者に関わるコミュニティ？

<b>B.コミュニティ1</b>		324
当事者・アライ コミュニティ	LGBTQIA当事者と繋がっているSNSアカウントにいるときだけ自分らしく在れます。(生まれ女性X・20代)	149
留学生コミュニティ	友人と話している時、留学生のコミュニティに入っている時、ハレルワ(前橋市)の建物にいる時、趣味に没頭している時(シス異性愛女性・10代)	1
同じルーツ・境遇の コミュニティ	自分が運営しているミックスルーツの交流会(シスB・30代)	3
障害者施設	障害者グループホームが、今の私の1番の居場所です。(シスB女性・20代)	1
宗教コミュニティ	習い事、教会、友人との会食など(シスG・40代)	7

## 自由記載欄分析：居場所〈コミュニティ〉カテゴリー②

B.コミュニティ2		
カウンセリング・ケアに関わる空間	今通っている大学院では明確に性的マイノリティの包摂が打ち出されており、明確なカムアウトはしていないが、とりたてて隠すような身振りもしていない。また、大学にセーフスペースもあり、まだ行ったことはないが、そこに行けば大丈夫だという心強さがある。(シスその他男性・20代)	7
地域コミュニティ・地元	家庭、地域のコミュニティ(おしゃべり会)、友人関係など(シスB男性・40代)	7
教育機関	自宅、フリースクール(シスL・10代)	22
部活・スポーツ	テニススクール 家庭 職場(シス異性愛男性・40代)	6



## 自由記載欄分析：居場所〈コミュニティ〉カテゴリー③

B.コミュニティ3		
職場	学校、職場(配慮はされていないが、制服が同じなため自分らしく過ごしやすい)、よく一緒にいる友人(トランス男性・20代)	80
余暇活動	ゲイクラブやアートシーンなどでのイベントや展示、仲間との交流(シスG・40代)	63
市民活動	パレスチナ支援活動の有志グループ内では良い共有ができていて、自分にとってのセーフスペースになっています。また、日雇いの屋台のお仕事ではミスジェンダリングありますがストレス少なく気持ちが良いです。(生まれ女性X・40代)	5
政治活動	〇〇党の党活動 ボランティアの里山竹切り(シスG・50代)	1

〈差別的空間でない〉カテゴリーは、安全な空間でなら／だからこそ、自分らしくすごせるという記述の特徴を持つ

誰にも見た目(ルーツ)のことや、セクシャリティを詮索されない、話すことを促されず、全員がリテラシーを持っていると分かる場所。そういった場所であれば、自らルーツやセクシャリティを開示して自分らしく過ごすことができる。(生まれ女性X・20代)

LGBTに理解がある(理解しようと対話を試み続けてくれる)場所 自分の性別を探ってこられない場所 異性愛規範を押し付けられない場所(生まれ女性X・20代)

カミングアウト済みの親しい友人。セクシュアルマイノリティ同士であったり、そうでなくても相手に色々なセクシャリティに対しての理解や知識があったりすると、マイクロアグレッションで傷付くリスクが減るので安心出来る。(シスその他女性・20代)

## 自由記載欄分析：居場所〈差別的空間でない〉カテゴリー

---

〈差別的空間でない〉カテゴリーは、安全な空間でなら／だからこそ、自分らしくすごせるという記述の特徴を持つ

そこにいる誰もが互いに尊重し尊重されるという考え方を持っている人たちの集まりの場(シスその他男性・60代)

自分と同じ同性愛者が多く属していて、同性愛者でない人間も「同性愛者が多く属している」という事を理解し、差別や偏見がない場(シスG・20代)

否定的(ヒトに限らずモノにも)な発言が少なく、攻撃性のある人がいない空間だと、その時々に応じた自分らしさが出しやすくなっていると思う。(シス異性愛女性・30代)

・LGBTQを私的領域に閉じ込める社会の一側面

⇒たとえば、恋人・パートナー、友人、ひとりの記述

・〈関係〉カテゴリーの家族、自宅の内部は複雑化しており、決して家族や自宅・実家を一括りにできない。

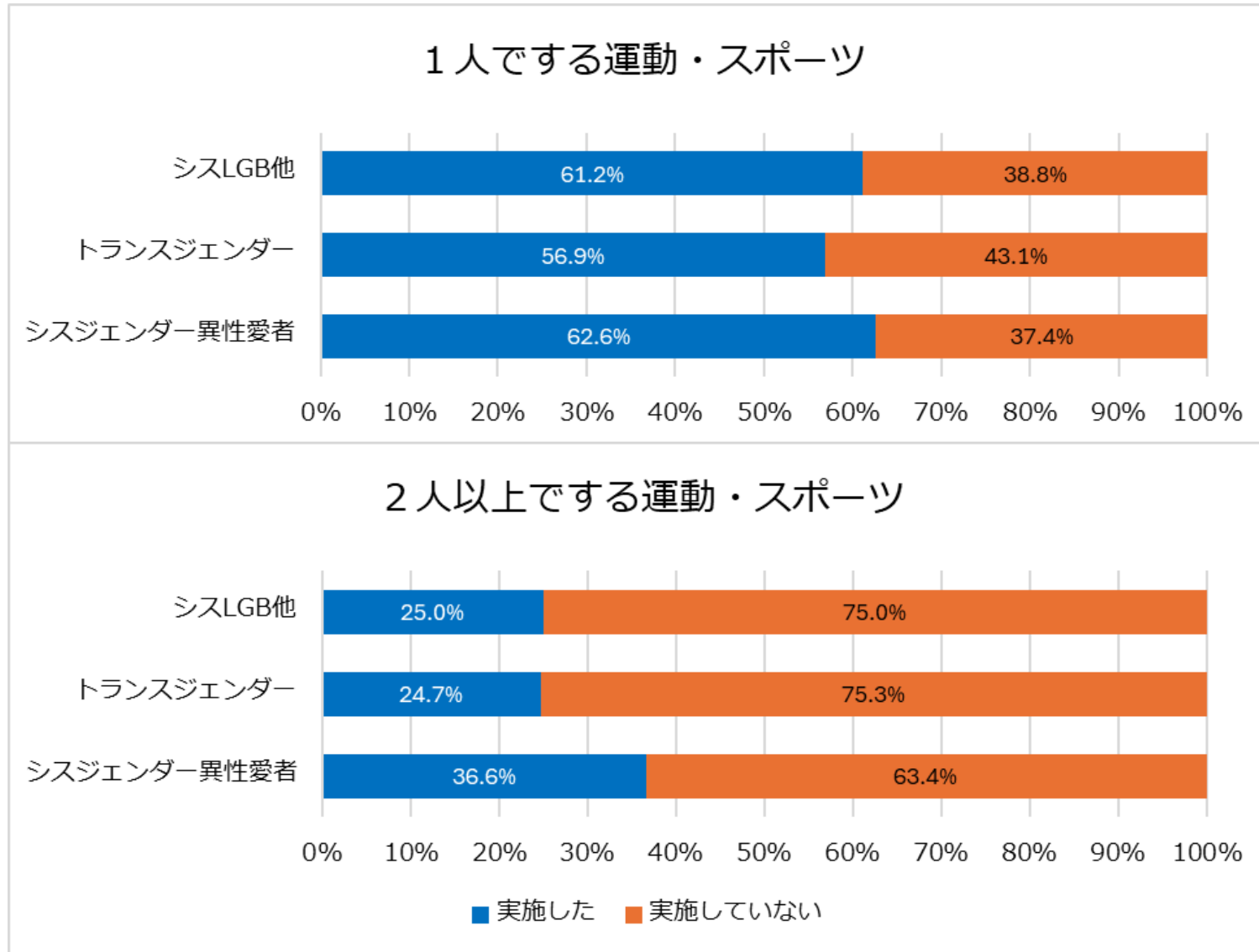
⇒実家ではカミングアウトできないから、自宅が落ち着くなど

・〈関係〉〈コミュニティ〉は結果的な居心地の良さである

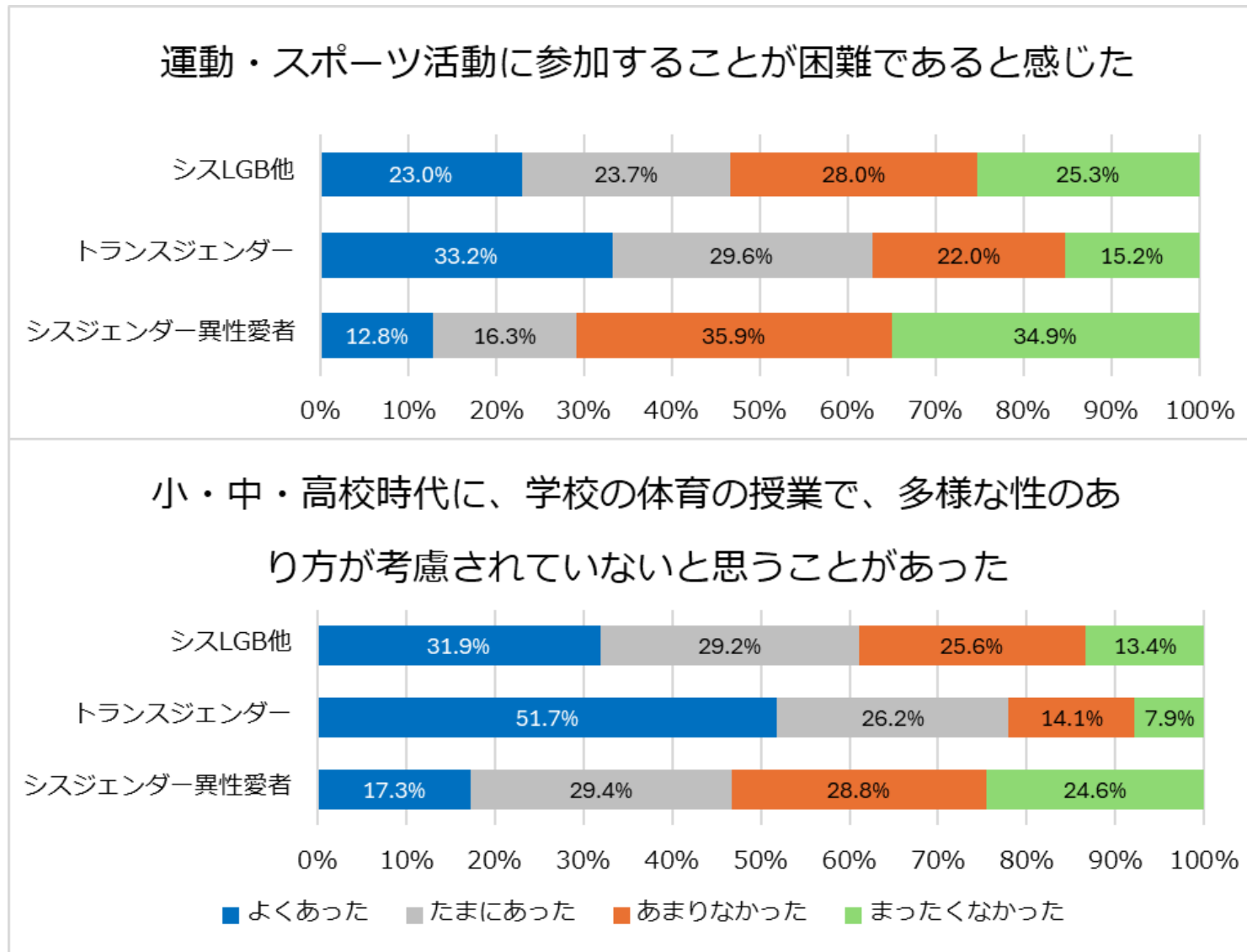
⇒重要な点はどんな関係や空間においても

〈差別的空間でない〉ことであり、そのためには差別的な社会の課題を一つずつ解決・改善していくことが求められる

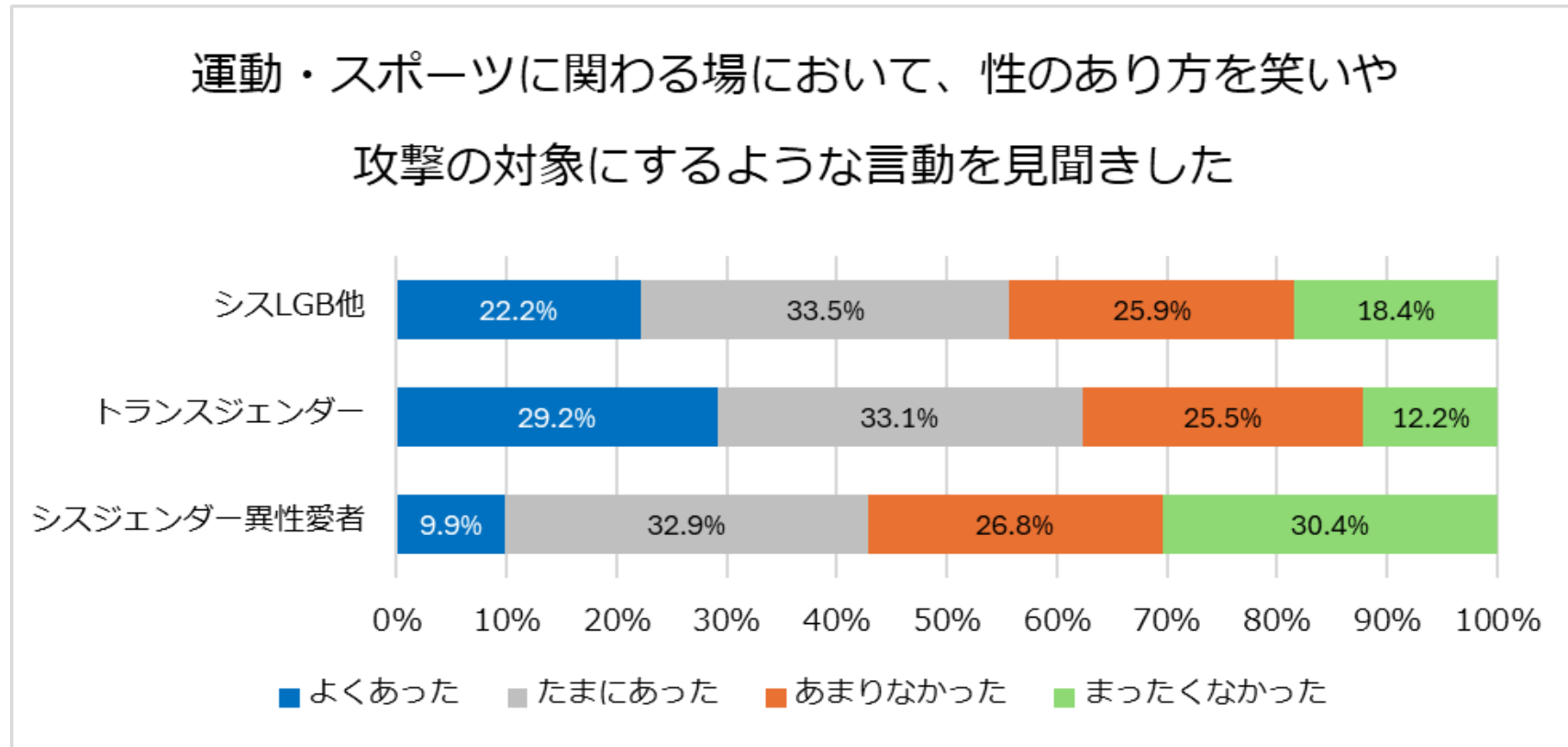
## 自由記載欄分析の前に：過去1年間の運動・スポーツ実施率



## 自由記載欄分析の前に：運動・スポーツでの経験



## 自由記載欄分析の前に：運動・スポーツでの経験



## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験

---

### 【設問】

「運動・スポーツ活動のなかでマイノリティの存在や権利が尊重されていないと感じることはありましたか。自由に記載してください。なお、ここではLGBTQだけでなく、多様なマイノリティを含みます。」

### 【分析方法】

- 何らかの回答があった495件のうち、425件を分析可能なものとして特定した。
- それらの記述を熟読し、その趣旨を読み取り、カテゴリーにまとめた。
  - 《権力関係・差異化の軸》《場所》《身体性》《差異化／画一化されるもの》《制度的・社会的問題》《経験される規範》《影響・反応》の7つのカテゴリーにまとめられた。
- 《権力関係・差異化の軸》には〈性別〉288件、〈性的指向〉26件、〈性自認〉92件、〈国籍／人種〉8件、〈障害の有無〉37件、〈年齢〉1件、〈経済状況〉3件があった。
- 《場所》には〈公営・民間スポーツ施設〉22件、〈趣味・遊び〉2件、〈体育授業〉108件、〈体育行事〉15件、〈部活・サークル〉22件、〈習い事〉9件、〈競技・大会〉31件、〈集団スポーツ〉9件、〈水泳〉52件、〈SNSなど〉8件があった。



## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《身体性》カテゴリー（140件）

サブカテゴリー	記述例	件数
身体のかたち・サイズ・肌	<ul style="list-style-type: none"> <li>自認が女性ではないのに学校の水泳の授業でスク水を着ることで、強制的にボディラインを出さねばならず、周りからも女として見られていたこと。(生まれ女性X・20代)</li> <li>運動会で男性だけ強制的に上半身が裸にさせられた(シスG・40代)</li> </ul>	62
生理	<ul style="list-style-type: none"> <li>プールの授業の水着で体の線が見えることや、生理で休むことに対する配慮は足りていなかったと思います。(トランス男性・40代)</li> <li>男性の体育教師が女性生徒の生理痛などに理解がなく「病気じゃないから参加できる」などと発言していた。(シスH女性・30代)</li> </ul>	15
身体経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分は胸が大きいので、走るという行為が、クーパー靭帯の痛みもあるし、人の視線を特に受けるので最悪であった。(シスB女性・20代)</li> <li>学校の授業などで、そもそもスポーツ自体にトラウマがある人への配慮はなかった(シスその他男性・20代)</li> </ul>	5
身体の弱さ・疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の体育では、目立たない身体的弱点(小児喘息だった)が考慮されず、全員同じように運動させられるのが苦痛だった。(生まれ女性X・50代)</li> <li>気管支の持病での欠席は甘えなので許されなかったこと。(トランス男性・20代)</li> </ul>	9
多様な発達・状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>各人の身体の個別性への配慮(身体障害への理解など)(シスその他女性・40代)</li> <li>DSDsの選手に対する不当な取り扱い(生まれ女性X・50代)</li> </ul>	16
身体動作・ふるまい	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体をスムーズに動かせることを前提としており、運動機能障害などによる不器用さは笑いの対象となってしまう。(生まれ女性X・30代)</li> <li>オカマ走り、オカマ投げと揶揄される(シスG・30代)</li> </ul>	22
運動・スポーツ能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランス男性・FTXなどはスポーツが得意であるという圧を感じるのでやりづらい。(生まれ女性X・30代)</li> <li>運動神経のよいミックス人を「血が違うから」などと嘲笑するとき。(生まれ女性X・30代)</li> </ul>	44

# 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《差異化／画一化されるもの》カテゴリー

(274件)

サブカテゴリー	記述例	件数
服装	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高校では<b>女性用</b>の水着を着ることが精神的に困難で<b>水泳の授業</b>に参加する事ができなかった。(シスL・30代)</li> <li><b>性別</b>による身体的特徴を強調するような<b>ユニフォームのデザイン</b>によって、スポーツへの参加を躊躇した。(トランス男性・30代)</li> </ul>	103
建築環境	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>学校の体育</b>では、<b>男子</b>は<b>教室</b>でみんなを着替える。それが苦痛だった。(シスG・20代)</li> <li><b>男子</b>は<b>更衣室</b>、<b>女性の体を持つ人間</b>は<b>机の下</b>で着替えなければならなかったこと。中学で<b>性別不合</b>を伝えた時から自分だけ<b>更衣室が埃だらけの物置</b>になったこと。(トランス男性・20代)</li> <li><b>車椅子</b>で使える<b>テニスコート</b>などが<b>近隣にはない</b>。(生まれ女性X・30代)</li> </ul>	89
参加の枠組み・条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学以降の<b>クラブ活動</b>や<b>部活</b>は、大抵<b>男女別</b>に行われるため、<b>性的違和感</b>を感じ始めてからあまり乗り気になれなかった。(生まれ女性X・20代)</li> <li>義務教育の期間は特に、運動が苦手な人も<b>一律に体育の授業</b>(しかも殆どが<b>チーム競技かつ球技</b>)への<b>参加が強制されている</b>のがとにかく苦痛だった。(シスG・40代)</li> </ul>	131
評価の枠組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>生理で<b>水泳の授業</b>が受けられない場合、補講もなく、<b>減点対象</b>だった。(シスB女性・30代)</li> <li>今にして思えば自分は「<b>協調性運動障害</b>」でした。それ故に運動が出来なかったと思います。なのにやる気がないとされ、<b>体育を「1」</b>にされていました。(トランス男性・40代)</li> </ul>	11

# 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《制度的・社会的問題》カテゴリー

(137件)

サブカテゴリー	記述例	件数
スポーツ自体の問題性	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手を地域や国の代表としたり、性別で選手を分離するあらゆるスポーツの存在自体。(シスその他女性・20代)</li> <li>あまつさえ競技な上に男女で別けるということがいや過ぎてスポーツがだれかのためみんなのためになるなんて思えない(生まれ女性X・50代)</li> </ul>	7
参加・活躍の奨励・促進における格差	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビメディア等におけるパラリンピックの扱いが小さすぎる(最近は多少マシになってきたが)(トランス女性・30代)</li> <li>まず、日本のプロスポーツ団体でLGBTQA+への支援を表明している団体・競技を知らない。(生まれ男性X・30代)</li> </ul>	13
学習・活動の内容・機会の制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校の体育で、男女で2つに分けられて、受ける授業の内容まで全く違うのはとても理不尽に感じた(生まれ女性X・30代)</li> <li>スポーツジムのクラスレッスンでは、若い人が前方に集まり、シニアの方が後方で狭そうにしていたことが印象的。</li> </ul>	57
閉鎖的・差別的風土	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動のチーム内でホモフォビアが常態化しており、チームメイトに対して同性愛者に対する差別用語(ホモ)が頻繁に飛び交っていた。(シスG・20代)</li> <li>着替えやトイレ、シャワーの利用という日常の必要動作ですら妄想とデマで妨害されるのに、それなしでは碌に楽しめないスポーツの世界に、LGBTQ(特にTやQ)の居場所があると思えない。そして、それを用意することが当事者の健康や幸福に寄与するかどうかなど何一つ配慮されていない。というか、する気がない。誰も。当事者の多くですら最初から諦めている。</li> </ul>	72

## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《経験される規範》カテゴリー（167件）

サブカテゴリー	記述例	件数
選択・自己決定の不可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>団体競技や運動会</b>などで、<b>発達障害</b>など、運動が苦手な人にも「皆と同じように<b>動くこと</b>」を強要し、できないのは「その人が怠けているから」という空気が蔓延していた。（生まれ女性X・30代）</li> <li>• <b>男女</b>のどちらか該当する更衣室<b>以外での着替えを禁止された</b>（生まれ女性X・20代）</li> </ul>	23
いじり・からかい・笑い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身体をスムーズに動かせることを前提としており、<b>運動機能障害</b>などによる不器用さは<b>笑いの対象となってしまう</b>。（生まれ女性X・30代）</li> <li>• スポーツ業界はLGBTQへの偏見が根強い。<b>Lだと分かった</b>更衣室で避けられることもあるし、根も柢もない噂がすぐに立つ。いじめや<b>からかいの対象にもなる</b>。（シスL・30代）</li> </ul>	42
いじめ・暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>発達障害</b>があるので<b>団体競技</b>ができなかったの<i>でいじめをうけた</i>。（シスG・30代）</li> <li>• <b>体育会</b>に所属していました。合宿の際<b>携帯電話を見られて性的指向</b>について噂された事がありました。身の危険を感じました。（シスG・40代）</li> </ul>	10
暴言・バッシング・誹謗中傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「<b>MtFは男性</b>なんだからスポーツの<b>女性部門</b>に出場するな」「<b>MtFは女性</b>更衣室を使用するな」など、<b>「トランスジェンダー」=「シスジェンダー女性の権利を侵害する存在」という扱いの言動をインターネット</b>で頻繁に目にする。（トランス男性・30代）</li> <li>• スポーツ業界がLGBTQの扱いを模索している中、<b>SNS</b>などで非常に短絡的に「<b>自認が女性</b>と言<b>い張るだけで女性</b>として出場できる」のような認識で批判する人が多いように思いました（シスH男性・40代）</li> </ul>	36

## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《経験される規範》カテゴリー（続き）

サブカテゴリー	記述例	件数
期待・偏見	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動系の部活の女子は短髪であることが多いが、<u>その姿を見て「男みたい」と表現されることは多々あった。</u>（シスH女性・40代）</li> <li>学校の体育の授業において、性的マイノリティに限らないあらゆるマイノリティの存在が想定されていないことに疑問を感じていました。「男女」でジャージの色を分けたり、集団として統率の取れた行動をいちいち求められたり、「<u>みんなと違う</u>」ことや<u>求められた通りにできないことがよくないこととされる嫌な時間</u>でした。（シスその他女性・20代）</li> </ul>	63
見られること・客体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>水着を着るのが苦痛だった。中学時代の<u>水泳の授業</u>では私に限らず女性には<u>性的な目で見られる機会が多く苦痛</u>だった。（シスその他女性・20代）</li> <li>男子ならスポーツができて当然という規範が強く疎外感を感じた。また、<u>裸を見られること</u>に心理的抵抗を感じるため、とくに同性がいる中での着替えが辛かった。（シスG・40代）</li> </ul>	20
好奇の目による対象化	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>ミックスルーツ</u>に対して「<u>どっちの国を応援するの？</u>」と踏み絵を迫るような質問。（シスB女性・20代）</li> <li>運動痴である私にとって「<u>スポーツで好きなものないの？（驚）</u>」「<u>運動嫌いなの？（驚）</u>」という問いかけは、もう本当に嫌になります。運動痴の存在や権利は尊重されないなあと感じます。（シスB女性・40代）</li> </ul>	8
差別的言動への不介入	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>高校体育</u>の柔道で、寝技が得意=<u>ホモ</u>だ という発言が聞かれた。<u>教師も諷めることなく同調して笑っていた</u>ことが、マイノリティ・スポーツどちらにも礼を欠くものを感じた。（シスG・30代）</li> <li>運動能力主義すぎる、音楽が下手でも歌が下手でも馬鹿にされないのに<u>体育</u>が下手なやつは馬鹿にしているという空気が常に蔓延しており、<u>教師もそれを容認している</u>（生まれ女性X・30代）</li> </ul>	4



## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《影響・反応》カテゴリー（129件）

サブカテゴリー	記述例	件数
参加・活動への困難(感)	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別による身体的特徴を強調するようなユニフォームのデザインによって、スポーツへの参加を躊躇した。(トランス男性・30代)</li> <li>運動・スポーツ活動の場で、マイノリティへの配慮やポリシーが明示されていないため参加・参与を躊躇する場面がたまにあった。(シスB男性・40代)</li> </ul>	47
施設・用具利用への困難(感)	<ul style="list-style-type: none"> <li>左利きが使えない道具しか用意されていない。(シスH男性・30代)</li> <li>単に運動のためにジム等を利用したくても男女別の更衣室の利用が困難なため、利用できなかった経験があり、運動機会へのアクセスが難しく感じることもある。</li> </ul>	15
苦痛・恐怖・不快感・違和感	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別変更した者が仲間と遊びで運動をするときに、性別変更前の性別の人たちのメンバーになるように強要された。公式な試合ならともかく、遊びなのに差別されていると強く感じた。(トランス女性・60代)</li> <li>女子のみのチームで活動中、男性からからかわれたり、わざと土地の中に入ってくるような妨害行為を何度も経験し、大変不愉快だった。</li> </ul>	61
疎外感・周縁化	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間が男女で分かれることでノンバイナリーの自分の居場所や振舞いがわからなくなった(生まれ女性X・20代)</li> <li>運動と「モテるかどうか」を結びつける価値観が根強く、その中で規範的な男らしさを持たない生徒らが周縁化されていたように思う。(シスその他男性・20代)</li> </ul>	19

## 自由記載欄分析：運動・スポーツでの経験《影響・反応》カテゴリー（続き）

サブカテゴリー	記述例	件数
自己のネガティブ感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>体育の授業</b>で、自身も運動神経が良く、運動神経のいい子しか好きではない体育教師にあたった時は<b>自分が全く価値のない人間だと思いう1年を過ごした</b>。(シスH女性・40代)</li> <li>• 私は他人に自分の体を見られたくなかったのだが、<b>水泳の授業</b>ではいつも腕、脇、太腿の露出があり、なおかつボディラインの出る水着を着用しなくてはならず、<b>いつも屈辱的な気持ちになっていた</b>。そうした人がいることも考慮して欲しかった。(シスその他女性・20代)</li> </ul>	5
運動へのネガティブ感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分が<b>運動への苦手意識がとれない</b>のも、未だに、<b>男女</b>わけでの着換えや<b>授業</b>への違和感が拭い去れないせいも多分にあると思ってる(生まれ女性X・30代)</li> <li>• 学生時代、体操着などの薄着になったとき、体つきについてからかわれたり、からかう様子を見聞きしました。とても怖かったし、運動では体が固定観念や<b>バイナリー的なジェンダー・セクシュアリティ</b>と結び付けられやすく(<b>女性</b>は足が遅い、<b>男性</b>は力が強いなど)、<b>とても怖い</b>です。(生まれ女性X・30代)</li> </ul>	3
言語化できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>学校の体育の授業</b>で常に<b>男女</b>で分けられ、<b>ノンバイナリー</b>の自分のことはいないことになっていた。全校生徒の前でカミングアウトしたにも関わらず、<b>自分自身もどう扱われたいのかが明確でなかった</b>。(生まれ男性X・20代)</li> <li>• スポーツすることは良いことと社会通念があるためか、<b>スポーツはあまり好きでない</b>と言にくい。(シスH男性・30代)</li> </ul>	4
うつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>発達障がい</b>で<b>自閉スペクトラムの傾向</b>がある当事者が「スポーツに参加しない」という権利を侵害され、無理やり参加させられ<b>鬱状態になった</b>。(生まれ男性X・30代)</li> </ul>	1
不登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低年齢から、<b>男女2元的</b>な競技のあり方、色分けやデザイン分けされたユニフォームや学校指定の体育着、水着などの強制。<b>トランスジェンダー</b>など、身体の特徴を見せたくない/抵抗がある場合に、そもそもスポーツ参加や<b>体育授業</b>を受ける権利が侵害されている。<b>不登校に繋がりがやすい</b>。(シスH女性・50代)</li> </ul>	1

- 運動・スポーツでは、シスジェンダーを前提とした男女という区分や、その区分に支えられた異性愛という基準によって、さまざまな困難が生じている。
- しかし本調査から、運動・スポーツにおいては障害、人種／国籍、年齢、経済状況などによる差別があることも理解できる。
- このような人間の差異化とそこから生み出される権力関係は、特定の《身体性》(身体のあり方や、その経験)が尊重されないようなかたちで現れる。逆に言えば「尊重される身体」がそれだけ狭いと考えることもできる。
- 「どこで・何が」「差異化／画一化」されるのかという点も確認された。さらに、それが制度的・社会的なレベルで生じている問題であるということも指摘できる。体育授業を含めて、運動・スポーツに関わっていく上では欠かせない条件が差異化・画一化されることは、特定の集団の人々を困難な状況に追いやっている。
- より具体的に、社会的な規範がどのように経験されるのかも理解できた。またそのような経験の《影響・反応》についても確認した。「よくある」「何気ない」言動が、その対象とされる人々を苦しめ、実質的な被害を生じさせている。ただし、上記のようなカテゴリーを念頭に置くと、それらは「個人的」な問題ではなく、より広い「社会的」な問題として認識される必要があると言える。



- 01 Summary
- 02 背景・目的
- 03 データ分析
- 04 自由記載欄分析
- 05 **添付資料**



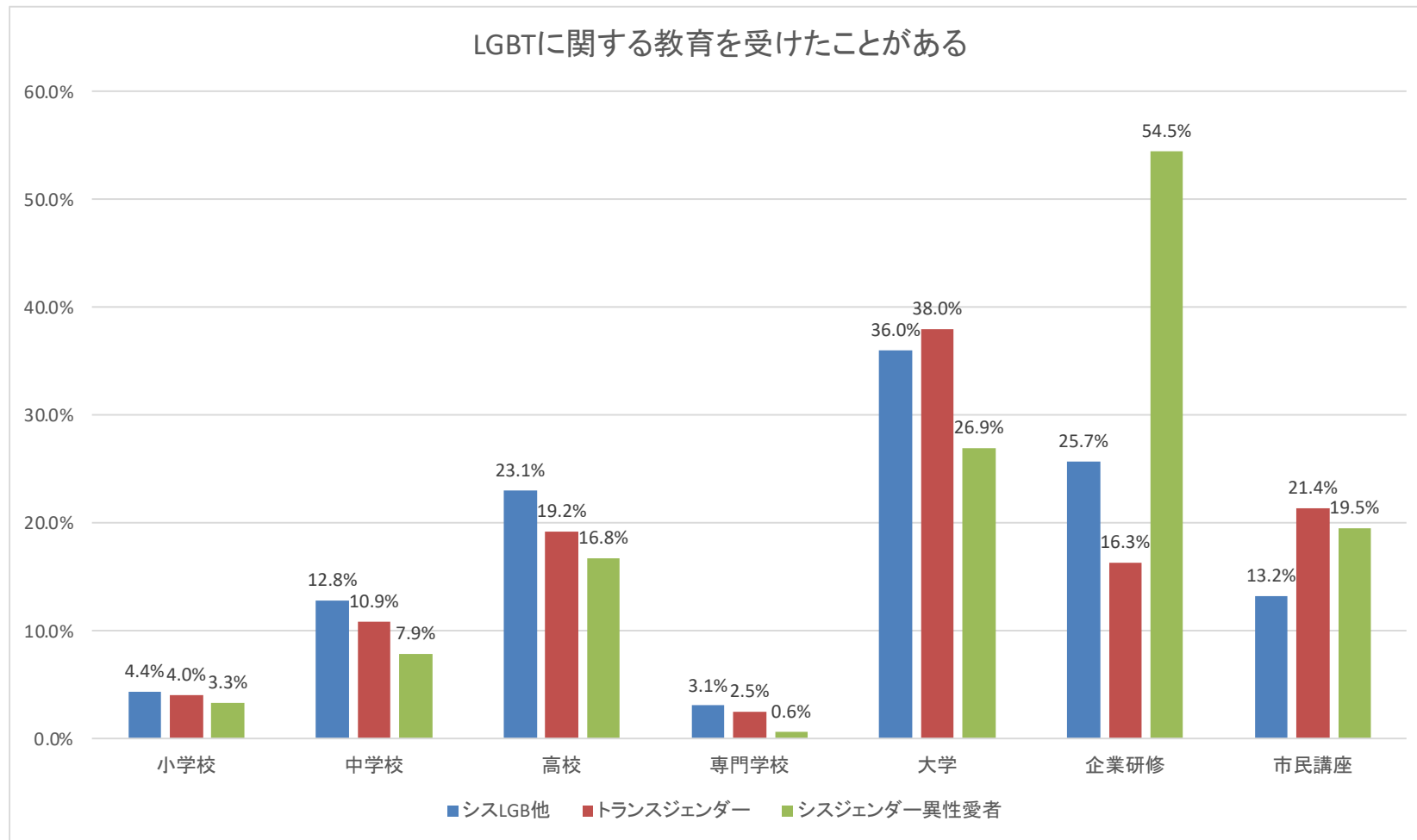
ミッション：**Bridging the gaps for diversity and inclusion**  
SOGI (Sexual Orientation , Gender Identity) による  
格差のない社会をつくり、次世代に繋ぎます

- 大阪、東京、海外に常勤スタッフ 9名が在籍
- 2013年にNPO法人化、2020年に認定NPO法人格を取得
- LGBTQに関する独自の調査研究データを元に、日本の大手企業にLGBTQ施策を広げる
- 2022年から「プライドセンター大阪」を運営

#LGBTQ #SOGIE #DEI #Diversity #地方 #大阪 #データ  
#ネットワーク #SDGs #社会起業 #女性リーダー #LGBTQ採用  
#同性婚 #子育て #学術研究 #居場所 #図書館 #人権 #国際協力

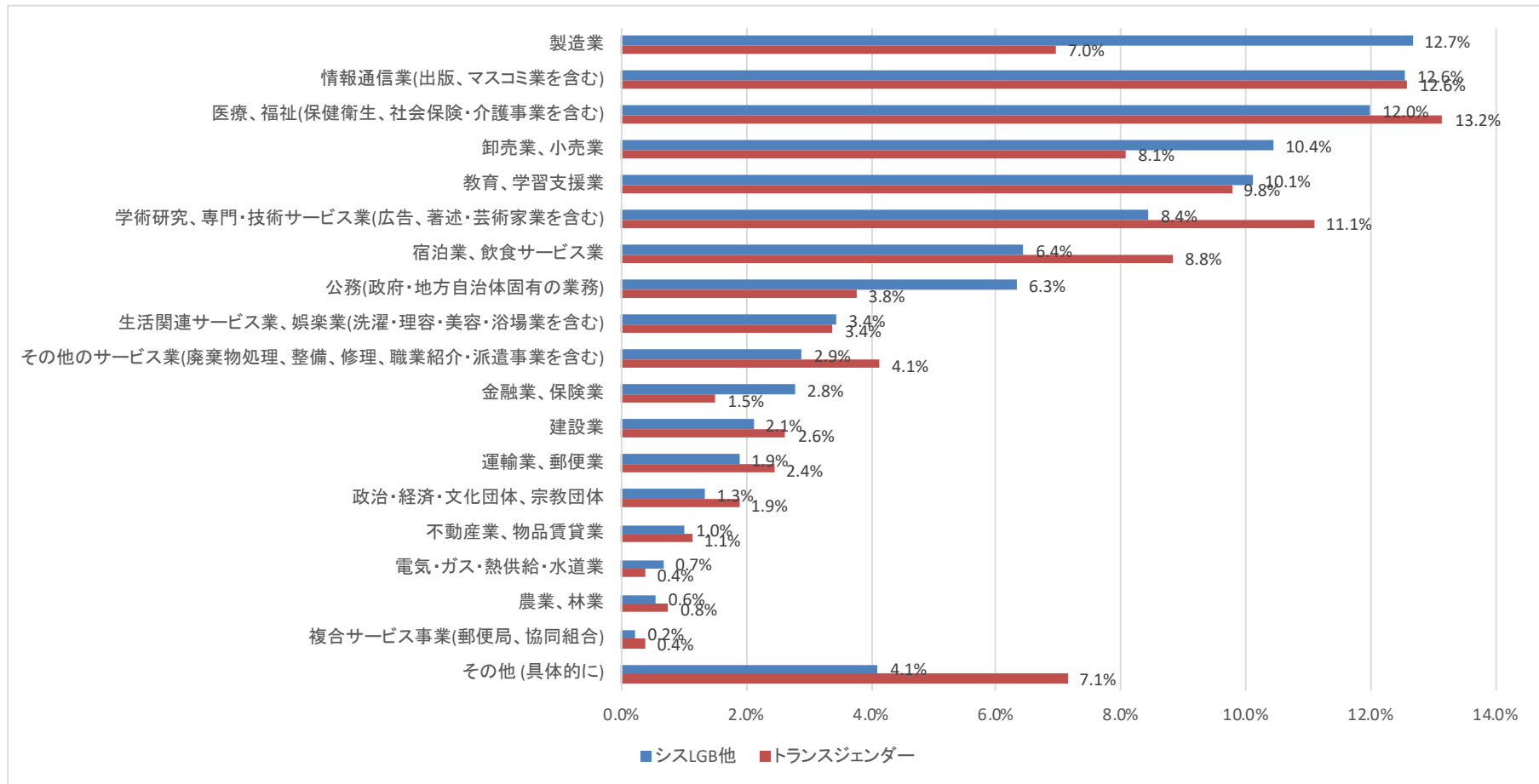


# LGBTQに関する教育を受けた経験



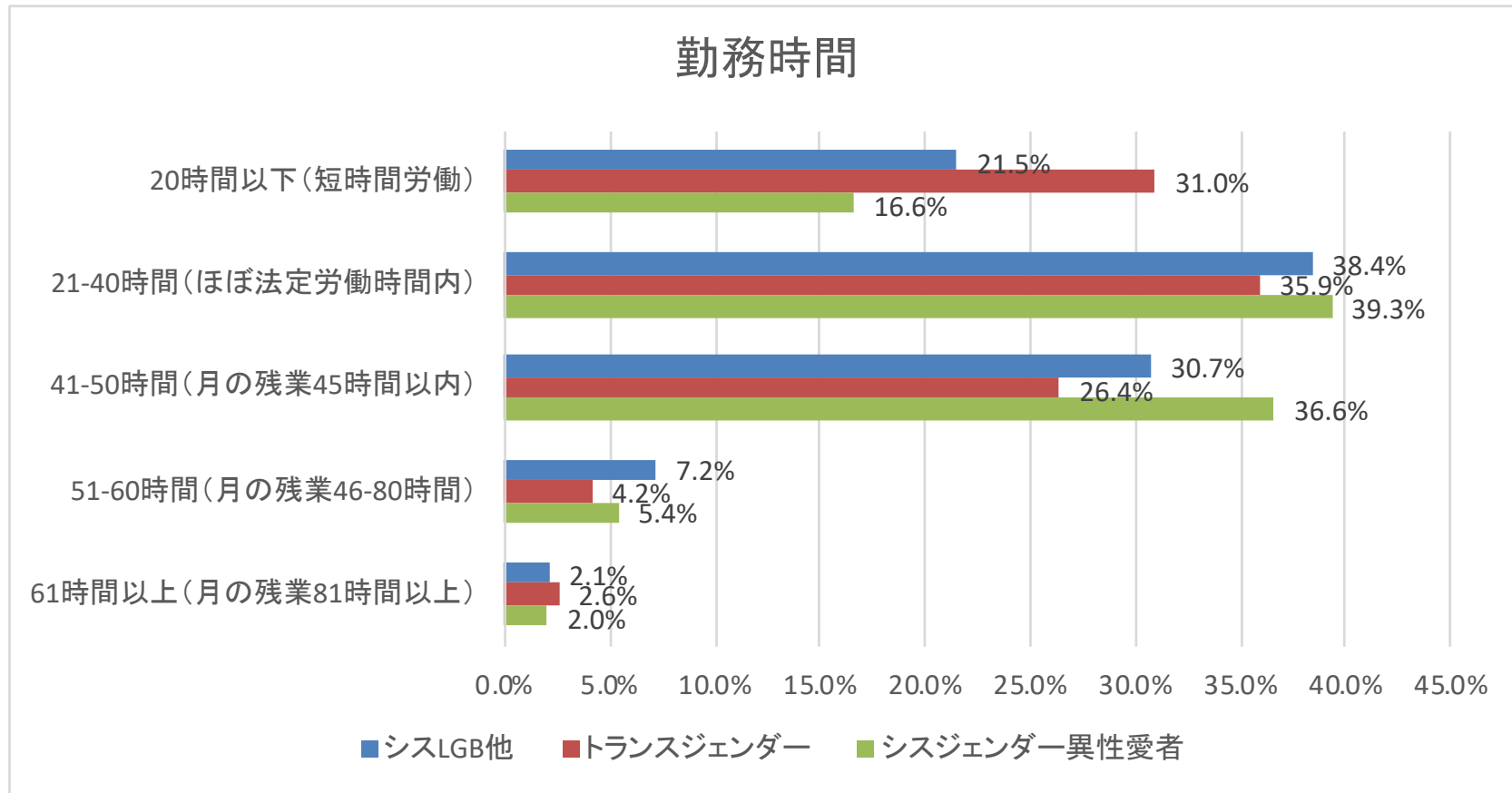
- ✓ 高校や大学でLGBTQに関する教育を受けた経験のある人が増えている。シス異性愛者では年代が高いこともあり、企業での研修機会が多い。

# 業界



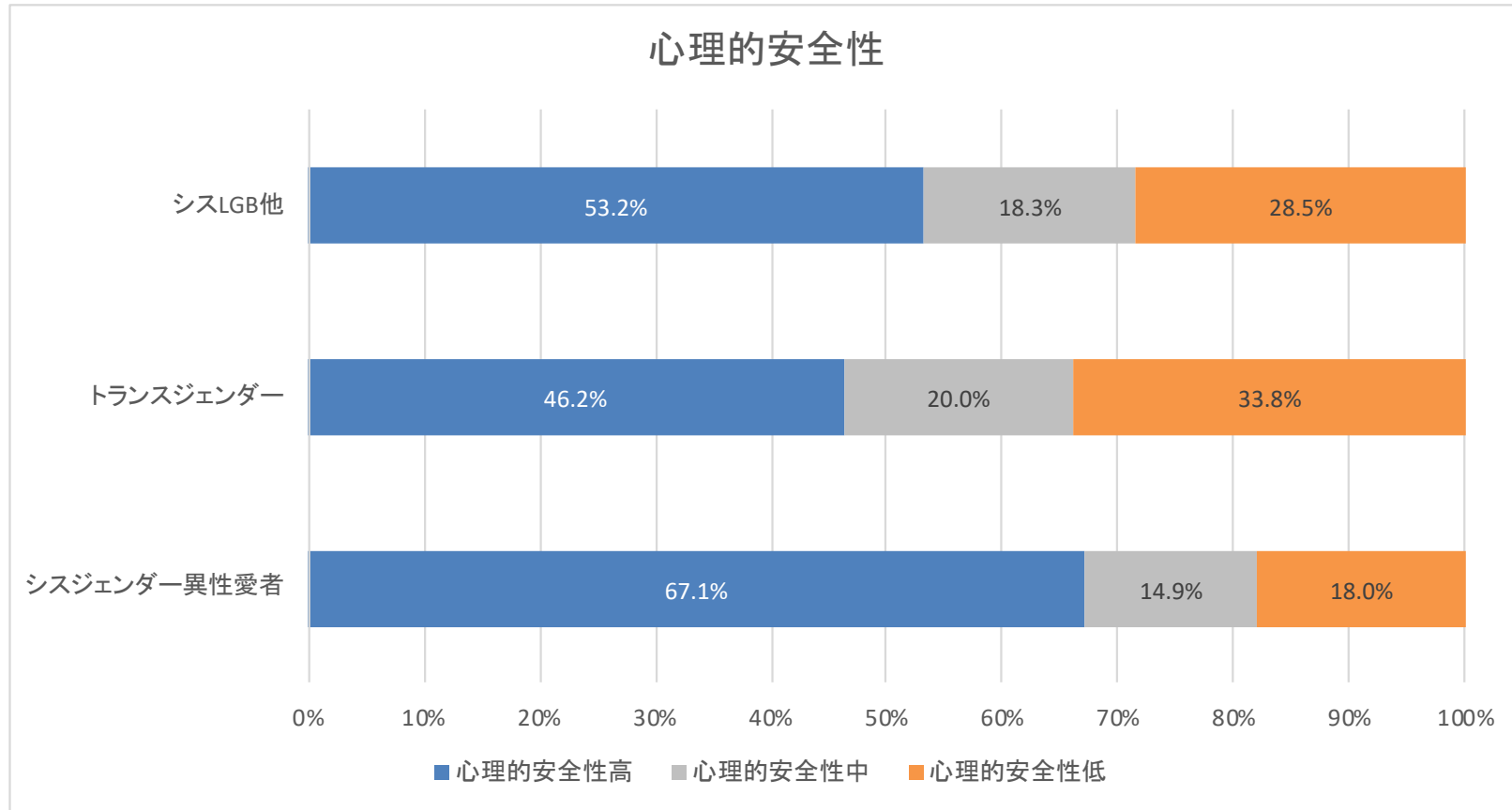
✓ 様々な業界でLGBTQが働いている。シスLGB他では製造業が最多、トランスジェンダーでは医療、福祉が最多であった。

## 勤務時間



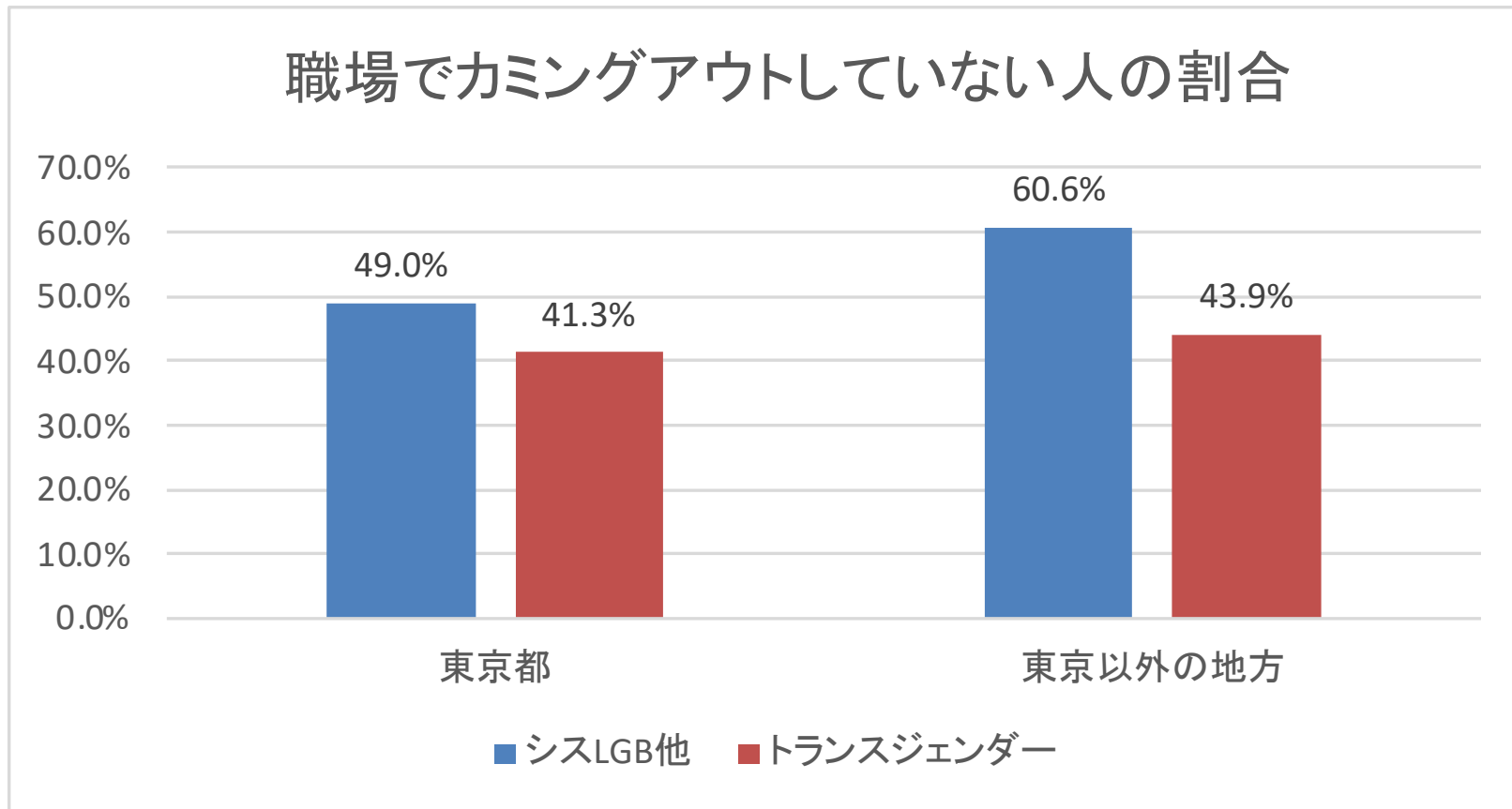
- ✓ 月の残業が46時間以上になるシスLGB他は9.3%、特に生まれ男性の場合に長時間労働が多い傾向（子どもの有無が影響している可能性）。トランスジェンダーは短時間労働の割合が高い。

# 心理的安全性



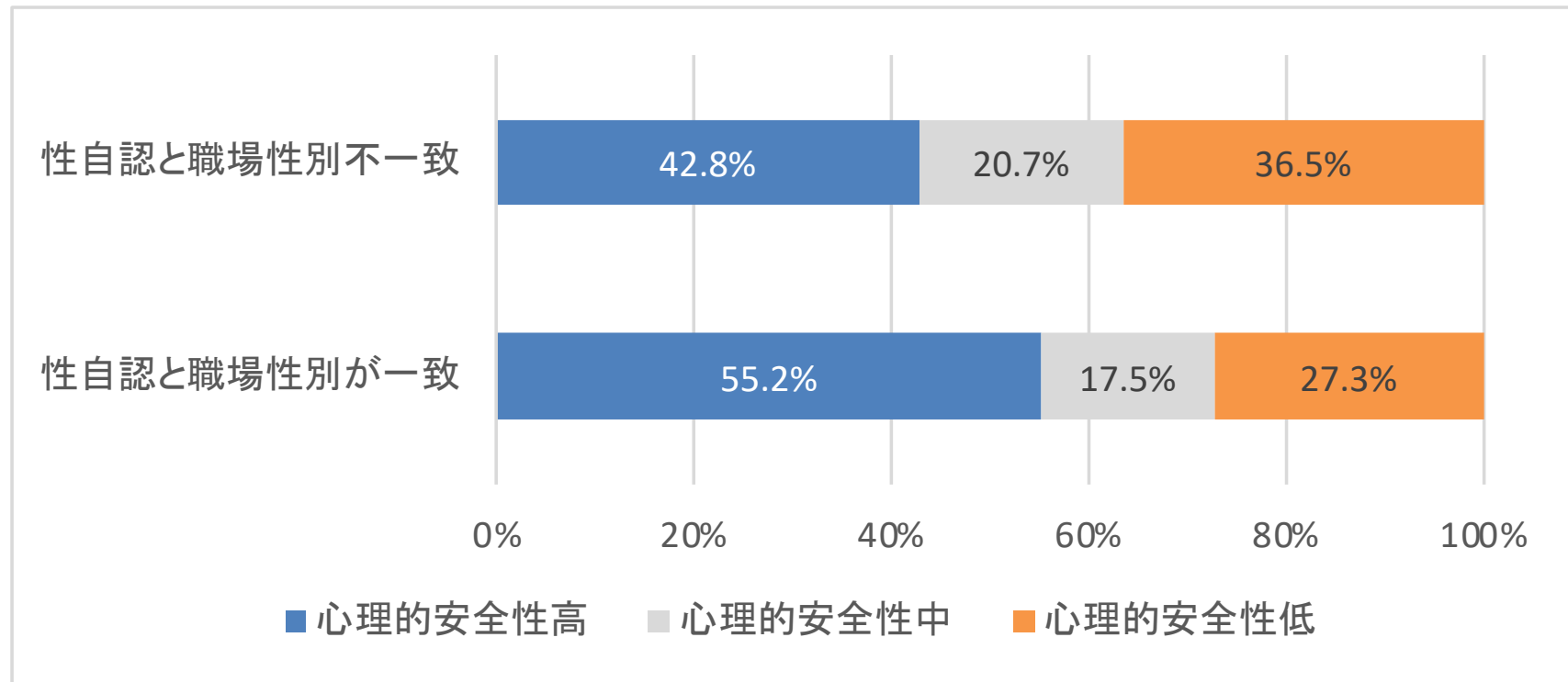
- ✓ LGBT他の方が、職場での心理的安全性が低い状況である。特にトランスジェンダーで低い。年齢、職位、非正規雇用など、他の要素が影響している可能性もある。

## 地域 x 職場でのカミングアウト



- ✓ シスLGB等の場合は、東京以外の地方在住の場合の方が、職場でカミングアウトしていない人が多い。トランスジェンダーでは、東京と地方で有意な差がない。

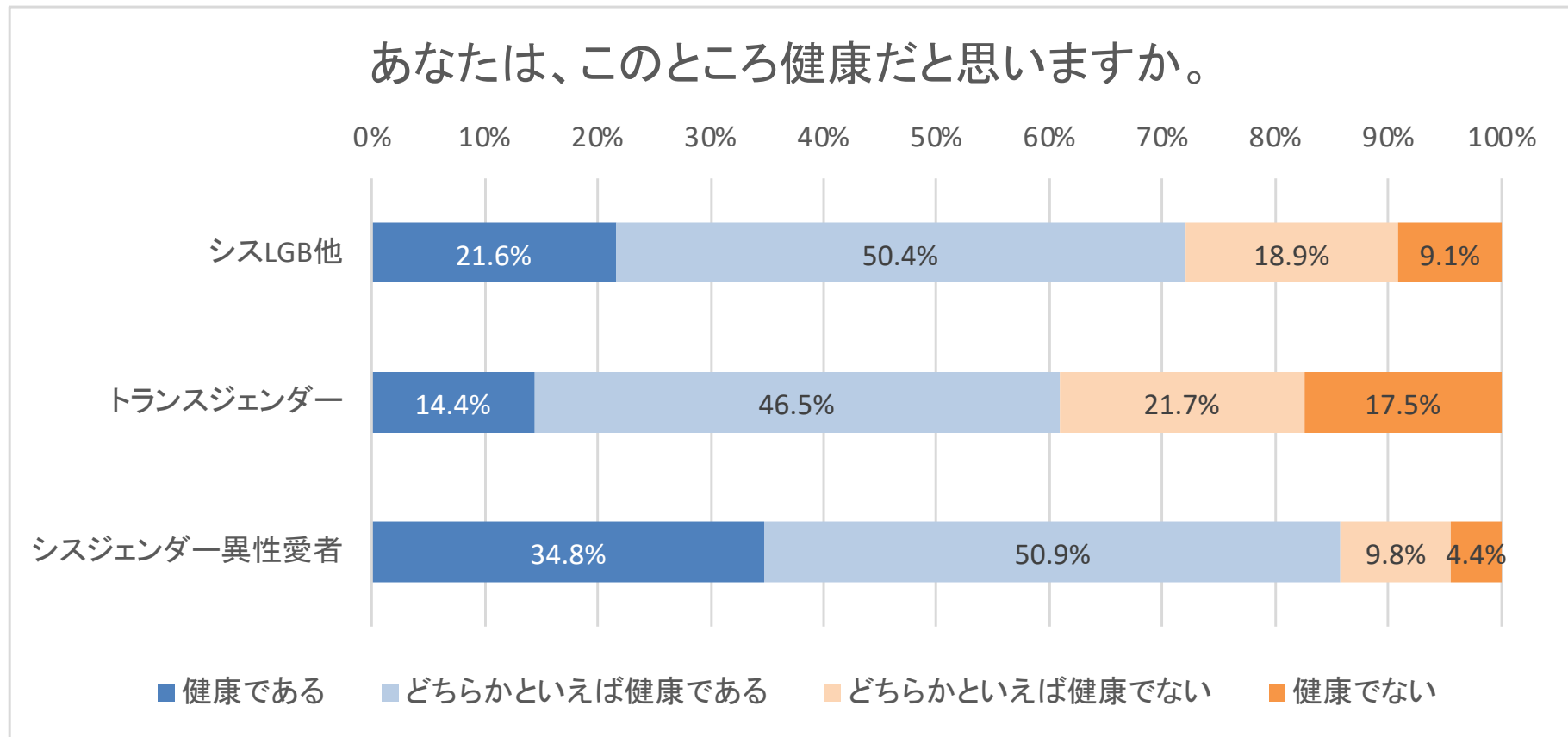
## 性自認と学校や職場での性別の一致 x 心理的安全性



- ✓ トランスジェンダーの71.2%で、自認する性別と、学校や職場で生活している性別が一致していないが、その場合は心理的安全性がより低くなる傾向がある。

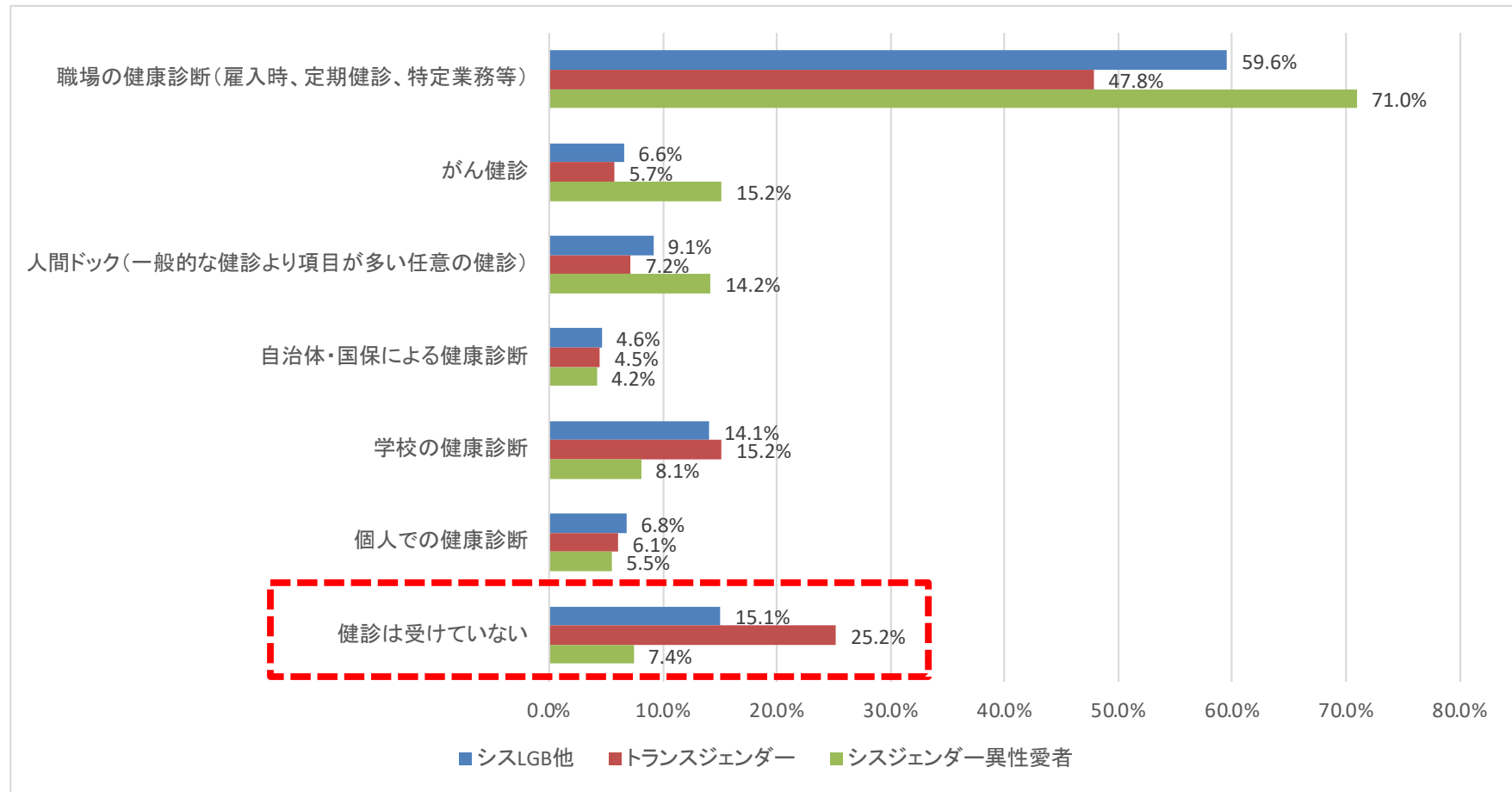


## 主観的健康度



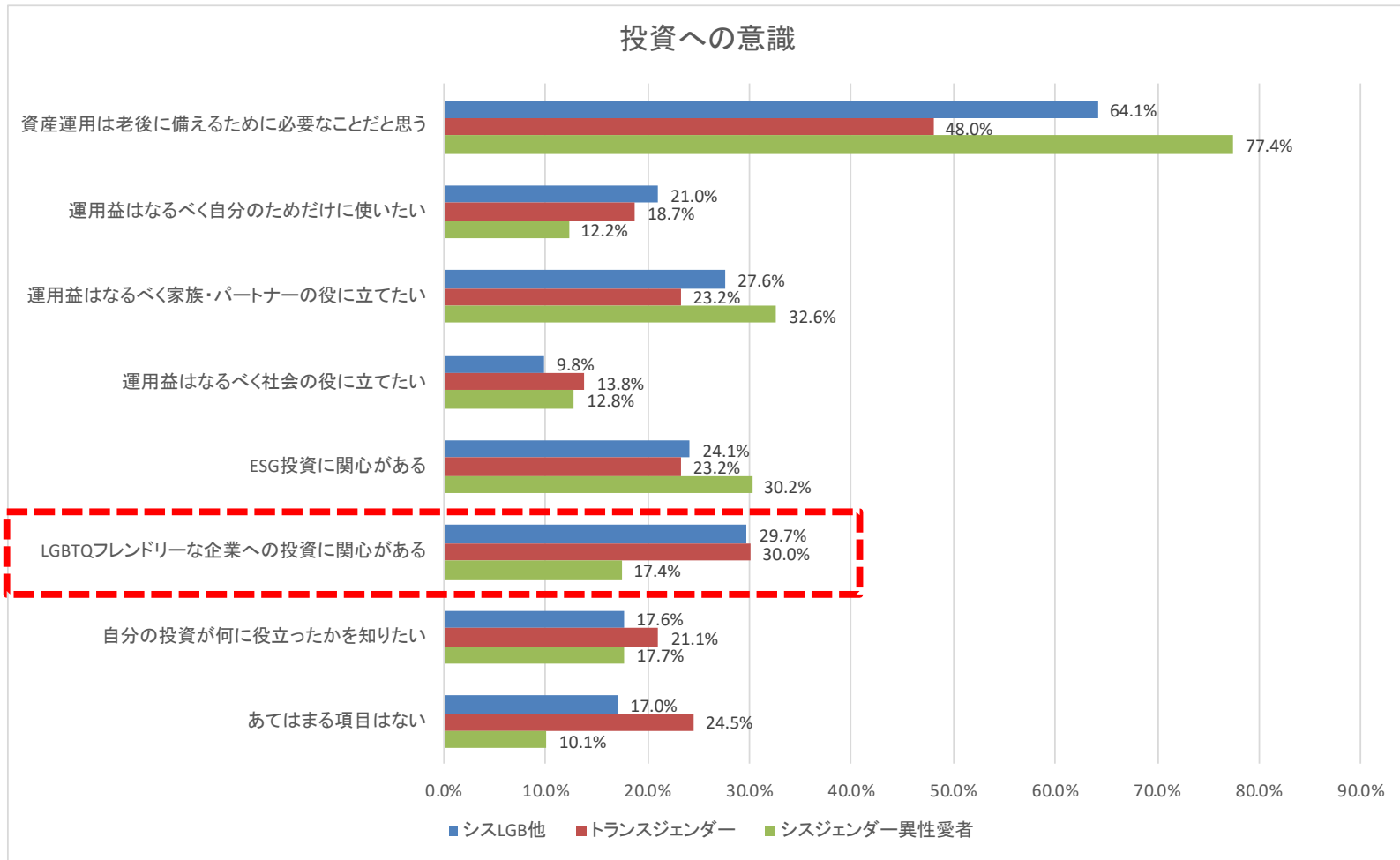
- ✓ LGBT等の方が、主観的な健康度が低い。特にトランスジェンダーでは、39.2%が「健康ではない」と回答している。

# 健康診断



✓ トランスジェンダーにおいて、健康診断を受けていない人が多い傾向がある。

# 投資への意識



✓ 投資への意識は年収が影響しているが、LGBTQフレンドリー企業への投資は約3割のLGBT他が関心を示している。